科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号 24520582　研究成果報告書
『命綱としての日本語—緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究—』
研究代表者　山下暁美

命綱としての日本語

—緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究—

Japanese as a Lifeline　－Social Linguistic Comprehensive Studies of Communication During Emergency－

2013 年 12 月

編：山下　暁美（研究代表者）

明海大学
Meikai University

（学術研究助成基金助成金　基盤研究Ｃ　課題番号 24520582）

『命綱としての日本語－緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究－』

Japanese as a Lifeline －Social Linguistic Comprehensive Studies of Communication During Emergency－

＜ 目 次 ＞

はじめに

○調査と結果の概要　山下暁美 ……P 2

○災害時の言語景観の問題点―避難所表示の多様性―　井上史雄 ……P28

○災害時の言語対策に関する考察　山下暁美 ……P42

○外国人住民からみた方言と災害
―福島県在住外国人へのインタビューをもとに―　中川祐治 ……P53

○外国人が言い換えた「やさしい日本語」―茨城県・千葉県における
インタビューを通して―　中西太郎 ……P69

○災害時語彙の理解度と情報収集方法から考えた外国人住民への日本語支援
沢野美由紀 ……P83

○公共施設の言語使用実態と考察―東京 23 区を中心に―　張海燕 ……P94

参考資料

はじめに

多くの人々の協力を得て、『災害時命綱カード・共通語版』（平成２５年度）ができた。報告書を作成し、皆様に成果をお届けできることに深く感謝したい。被災地のインフォーマントの方々や協力機関等への礼状および報告書の送付先リストには、200を超える方々と機関のお名前がある。皆様にご報告とお礼をかねてカードを近々発送する予定である。

第１次調査は、東日本大震災後３か月たった2011年6月に在日外国人を対象に実施した。この調査は千葉県浦安市とその周辺の地域で行ったのであるが、混乱が続く中で調査を実施していろいろ聞くには申し訳ないという気持ちと、今でなければ忘れられてしまうという気持ちが錯綜した調査であった。しかし、これにより災害時に在日外国人がどのような状況におかれ、どんな問題を抱えているのかが明らかになった。また、災害時に用いられる語彙をどうやさしく言い換えるかについては、日本語母語話者が言い換えるよりかなりやさしく言い換えていることがわかった。専業主婦や店員として働く人々の日本語の理解力が低いこともわかった（山下2012）。

2012年7月には、同様の調査を岩手県、宮城県、福島県で実施し、貴重な記録を残すことができた（文化庁委託事業報告書 2013）。『災害時命綱カード・岩手（盛岡）方言訳付』『災害時命綱カード・宮城方言訳付』『災害時命綱カード・福島方言訳付』を作成した。協力者や関係諸機関にお送りしている。震災の非常時の中、調査研究の取り組みに理解を示したくださったおかげと感謝している。

2013年度は、東北３県の結果をふまえて、南下し茨城県、千葉県で震災時に在日外国人が置かれた状況調査と語彙の必要・理解度調査を行った。災害時に言語活動を行う上で必要と思われる語彙リストを作成し、名刺サイズの『災害時命綱カード・共通語』とした。また、日本語教育教材へのヒントとなる在日外国人が言い換えた「やさしい日本語」も示すことができた。

これまで日本語教育では、福祉環境といった面から言語教育を行うという視点は強調されて来なかった。今後も社会的、経済的な関係が国境を越えて地球規模で拡大することを考えると、日本を訪れる非母語話者の安全を確保するための言語教育や支援を考えていく必要がある。研究成果が少しでもお役に立てば幸いである。

報告書の作成には、明海大学外国語学部講師の中西太郎氏、院生の上村健太郎さんをはじめとする応用言語学研究科山下研究室有志の方々の協力があった。心から感謝申し上げる。

平成25年12月

研究代表　山下暁美

研究組織

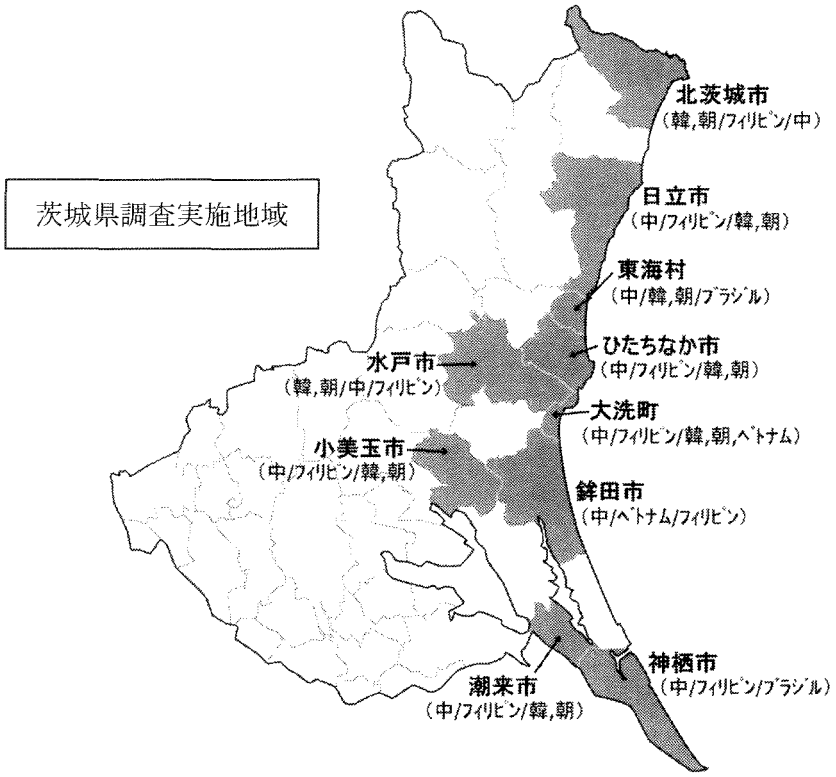
科学研究費　基盤研究（C）・課題番号 24520582
「命綱としての日本語―緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究―」
研究代表者　山下暁美

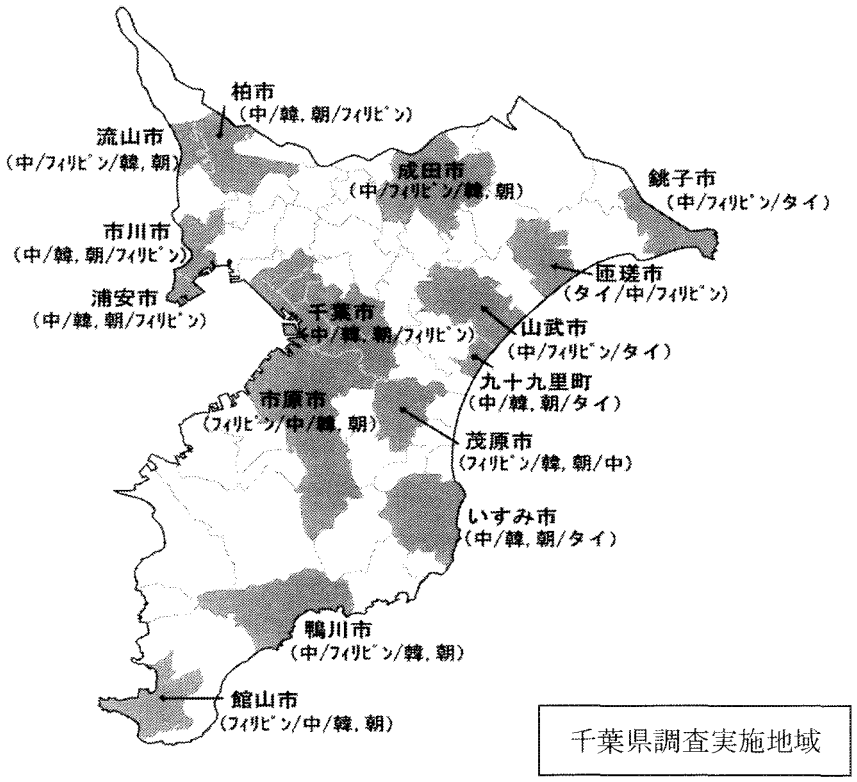
平成 24（2012）年度 1,820,000 円（直接経費 1,400,000 円、間接経費 420,000 円）
平成 25（2013）年度 1,170,000 円（直接経費 900,000 円、間接経費 270,000 円）
平成 26（2014）年度　　（継続予定）

平成 24（2012）年度
研究代表者　山下暁美　明海大学・教授
研究分担者　井上史雄　明海大学・教授
連携研究者　半沢康　福島大学・教授
田中宣廣　岩手県立大学・准教授
研究協力者　沢野美由紀　敬愛大学・非常勤講師
金賢珠　明海大学・大学院博士後期１年
永島恭子　福島大学非常勤講師・明海大学博士前期２年
高須賀萌　明海大学・大学院博士前期２年
胡中華　明海大学・大学院博士前期２年
張海燕　明海大学・大学院博士前期１年

平成 25（2013）年度
研究代表者　山下暁美　明海大学・教授
研究分担者　井上史雄　明海大学・国立国語研究所・客員教授
連携研究者　半沢康　福島大学・教授
田中宣廣　岩手県立大学・准教授
中川祐治　福島大学・准教授
中西太郎　明海大学・講師
研究協力者　高丸圭一　宇都宮共和大学・准教授
沢野美由紀　立教大学・非常勤講師
金賢珠　明海大学・大学院博士後期２年
胡暁睿　明海大学・大学院博士後期２年
上村健太郎　明海大学・大学院博士後期１年
張海燕　明海大学・大学院博士前期２年
高源　明海大学・大学院博士前期２年

2013年 調査実施地域　※在日外国人数上位３か国を記入



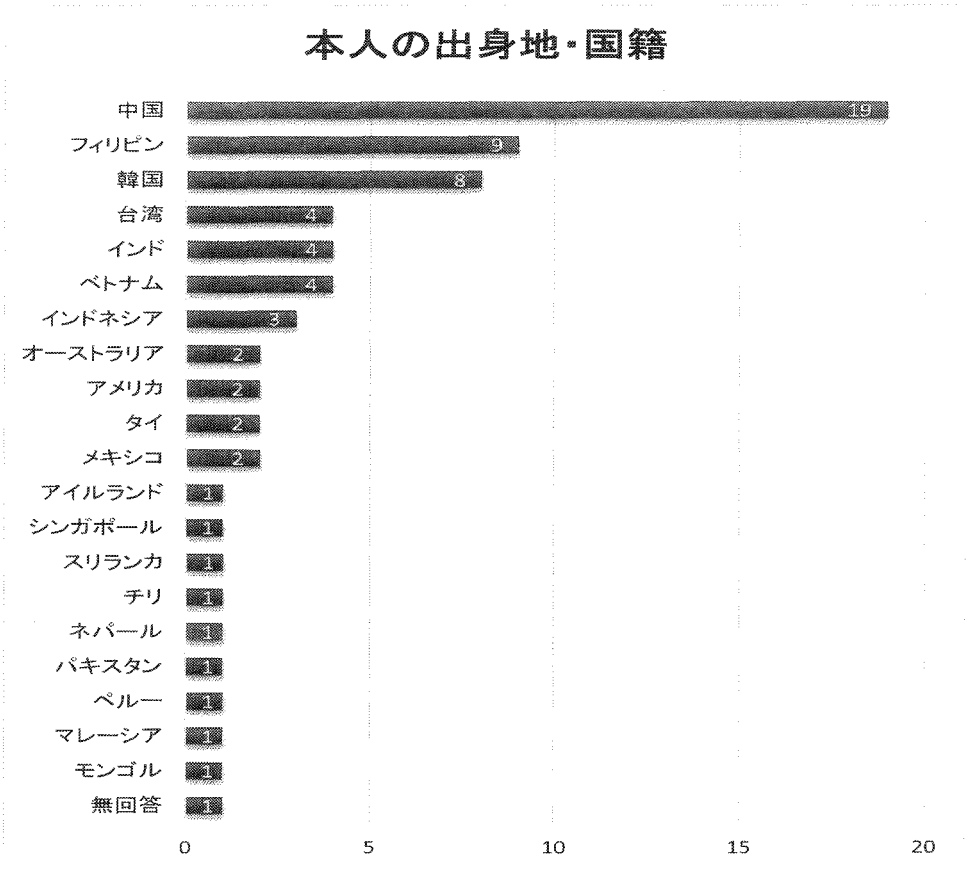


調査と結果の概要

調査結果

【フェイス項目】

1．出身地・国籍



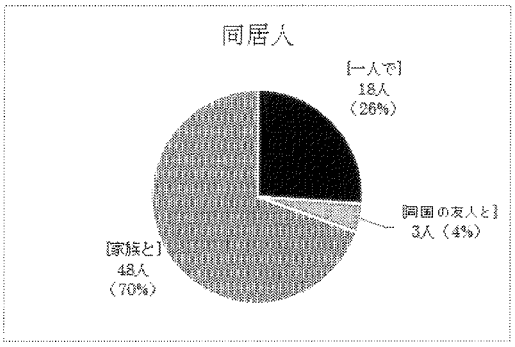
2．住んでいる市（実施順）

浦安市	6	水戸市	6	山武市	2
東海村	1	市原市	3	東金市	2
小美玉市	2	千葉市	4	茂原市	3
北茨城市	5	流山市	2	銚子市	6
大洗町	1	館山市	1	酒々井市	1
ひたちなか市	3	鴨川市	2	成田市	1
日立市	7	柏市	1	いすみ市	1
市川市	2	神栖市	3	合計	69
鉾田市	3	九十九里町	1		

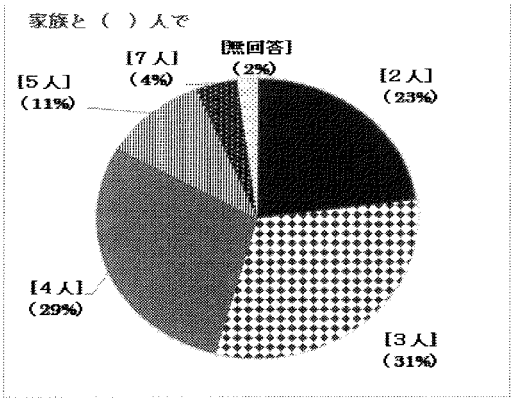
居住県	人数
千葉県	38
茨城県	31
合計	69

３．同居人

３－１．

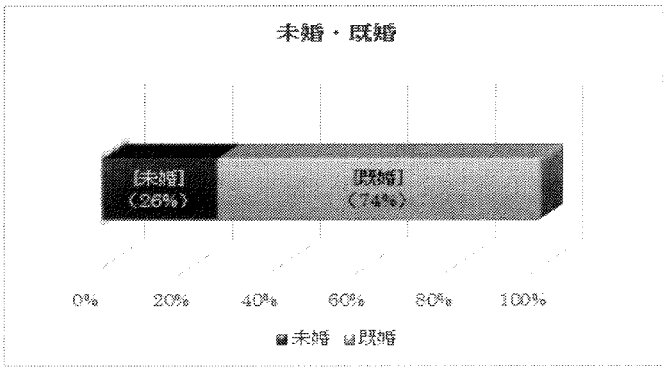


３－２．家族と（　　）人で

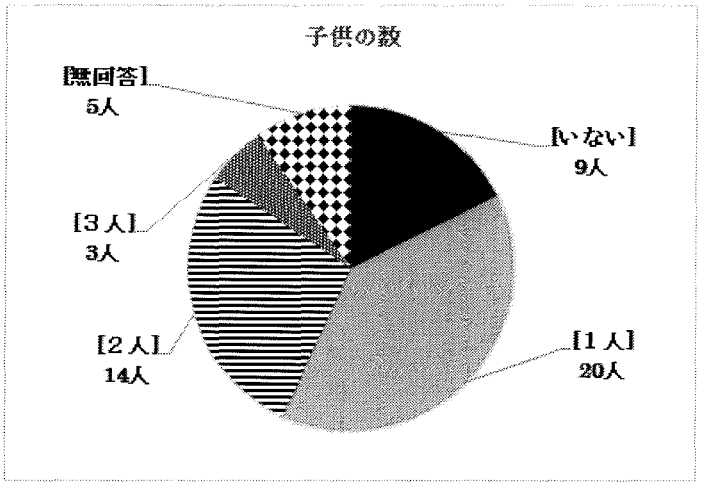


４．お子さんがいらっしゃいますか。

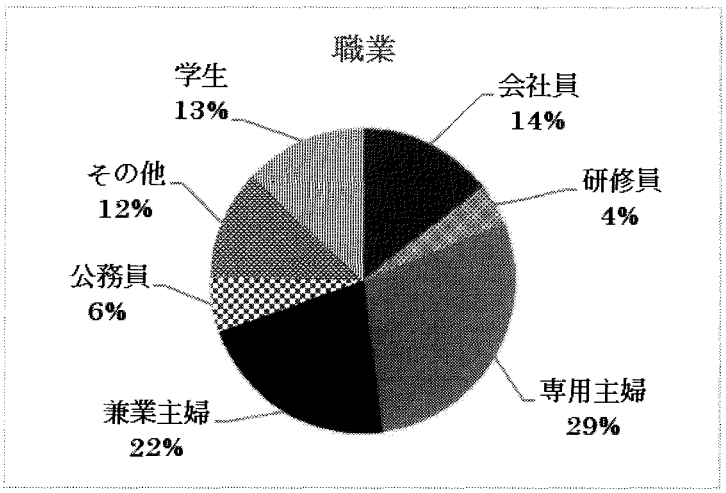
４－１．未婚・既婚



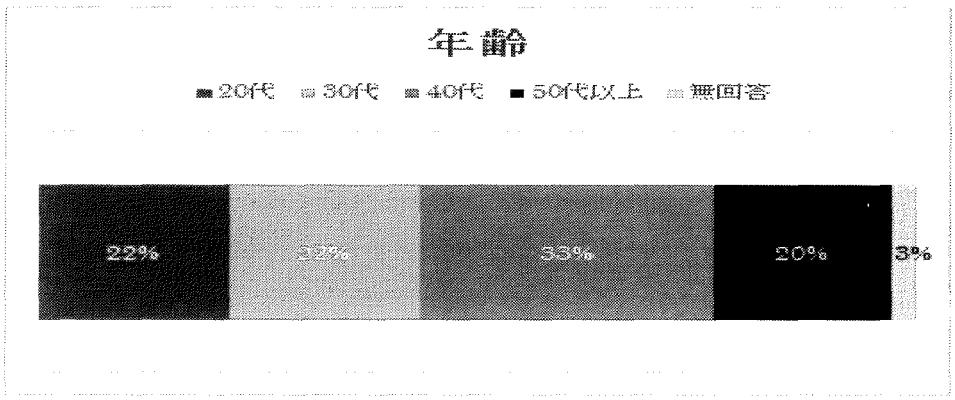
４－２．子共の数



５．職業

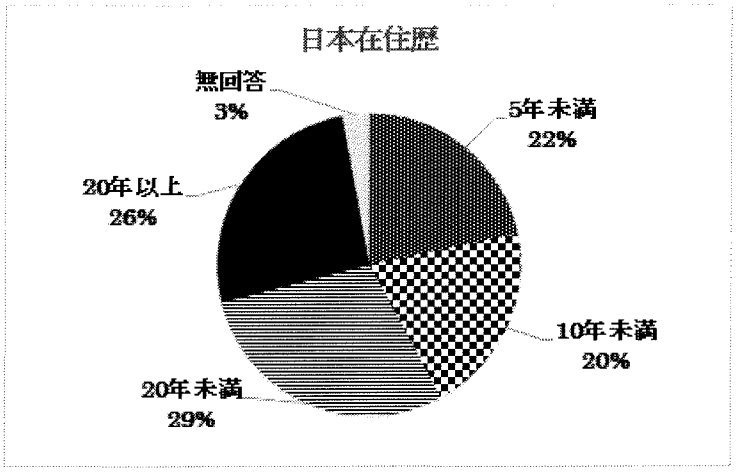


６．年齢



平均年齢　40.1 歳

7．日本在住歴



8．母語

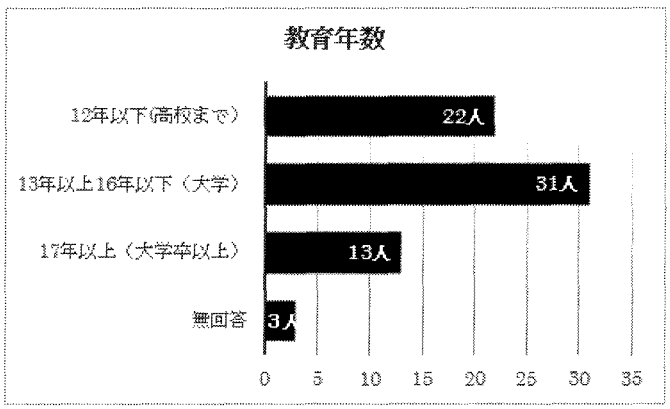
中国語	23	ウルドゥー語	1
ハングル	9	潮州語	1
英語	6	モンゴル語	1
スペイン語	4	ベンガル語	1
タガログ語	7	ウイグル語	1
インド語	1	ネパール語	1
インドネシア語	3	シンハラ語	1
タイ語	2	ビサヤ語	1
ベトナム語	4		69
ヒンディー語	2		

9．日本語学習歴

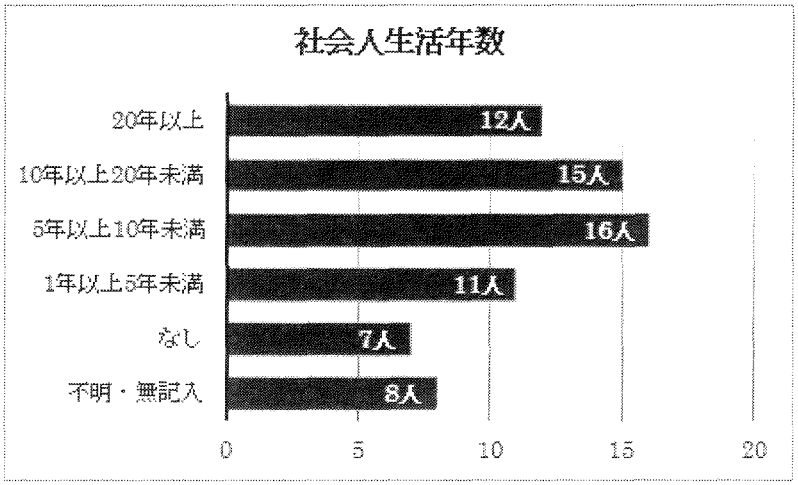
独学		日本語学校	
なし	24	なし	16
1 年以下	4	1 年以下	12
2 年以下	4	2 年以下	6
3 年以下	6	3 年以下	3
4 年以下	5	4 年以下	4
5 年以下	2	5 年以下	4
5 年以上 10 年以下	4	5 年以上 10 年以下	7
10 年以上	9	10 年以上	1
無回答	11	無回答	16
合計	69	合計	69

大学	
なし	36
1 年以下	3
2 年以下	4
3 年以下	3
4 年以下	8
5 年以下	0
5 年以上 10 年以下	3
10 年以上	1
無回答	11
合計	69

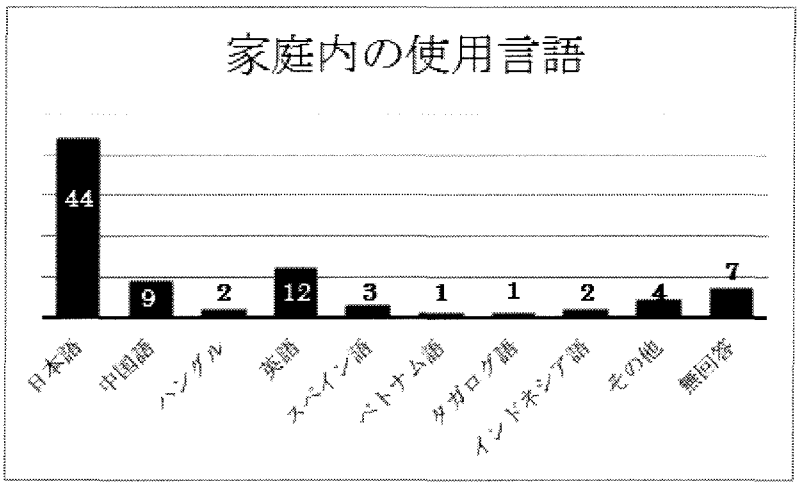
10. 小学校からの教育年数



11. 社会人としての経験年数

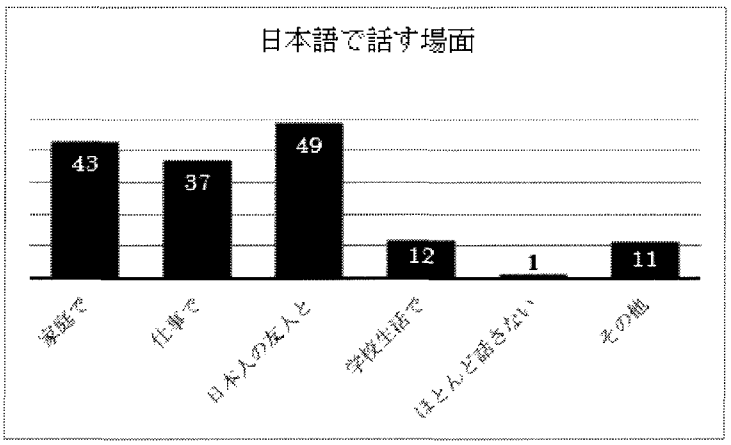


12. 家庭内の使用言語



※単位は人。複数使用される場合にはそれぞれにカウント。

13. 日本語で話す場面



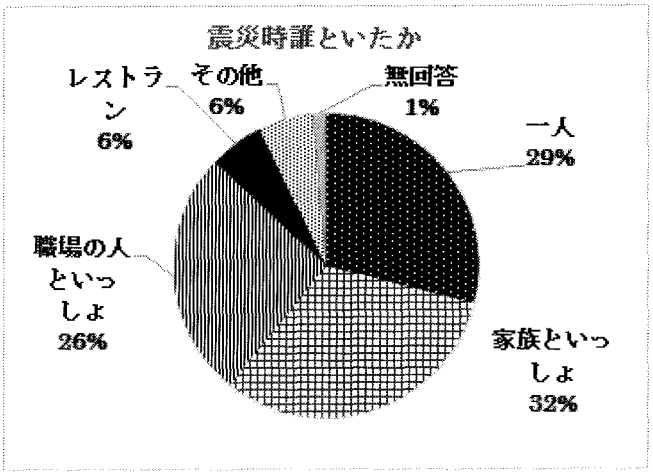
（※単位は人。複数使用される場合にはそれぞれにカウント。）

14. メディア環境

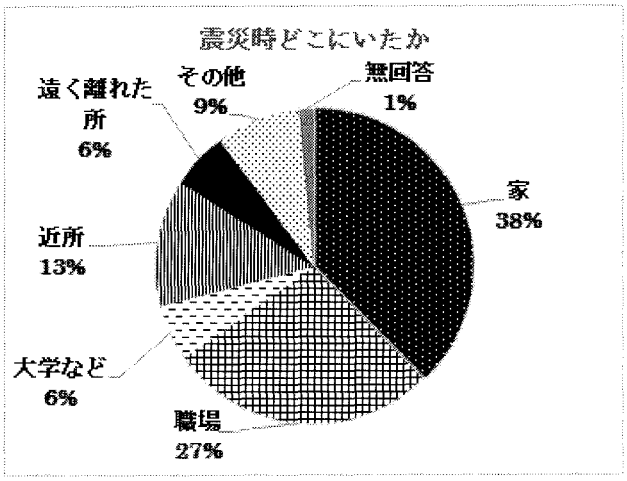
携帯電話のみ	1	PC・携帯・ラジオ・テレビ	16
PC・スマホ	3	PC・ラジオ・テレビ	1
PC・携帯	1	スマホ・ラジオ・テレビ	1
PC・スマホ・携帯・テレビ	4	スマホ・テレビ	2
PC・スマホ・ラジオ・テレビ	15	携帯・ラジオ・テレビ	3
すべて持っている	8	携帯・テレビ	1
PC・スマホ・テレビ	7	合計	69
PC・携帯・テレビ	6		

【震災時の状況項目】

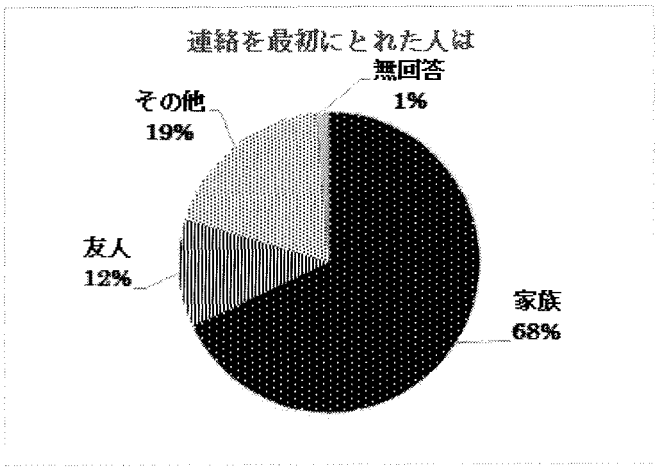
1. 2011 年 3 月の東日本大震災の時一人でしたか。



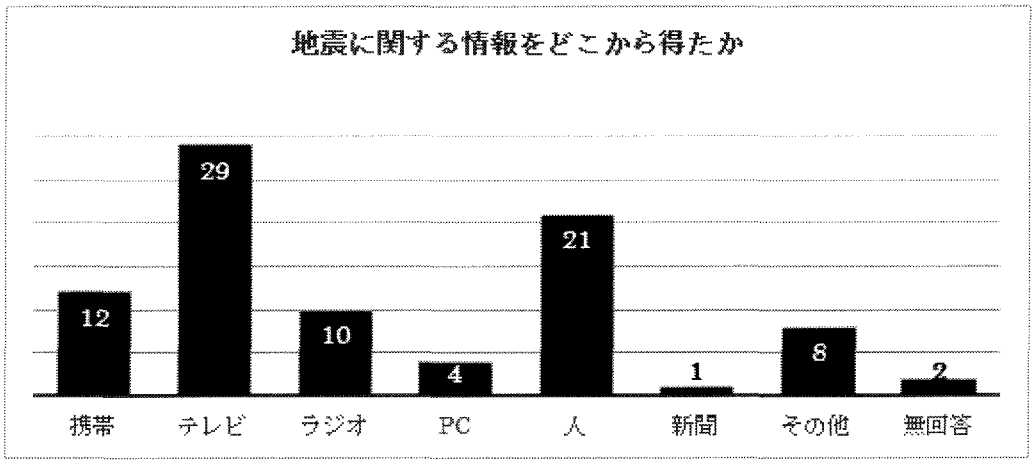
2. どこにいましたか



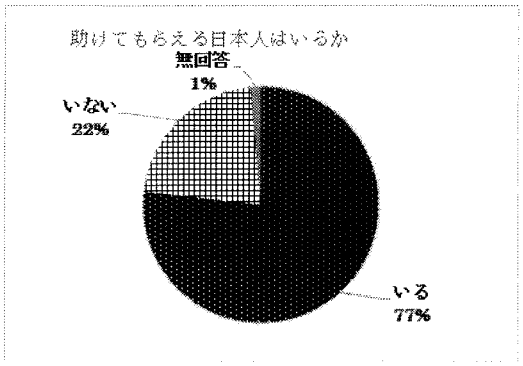
3. 連絡を最初に取れたのは誰ですか。



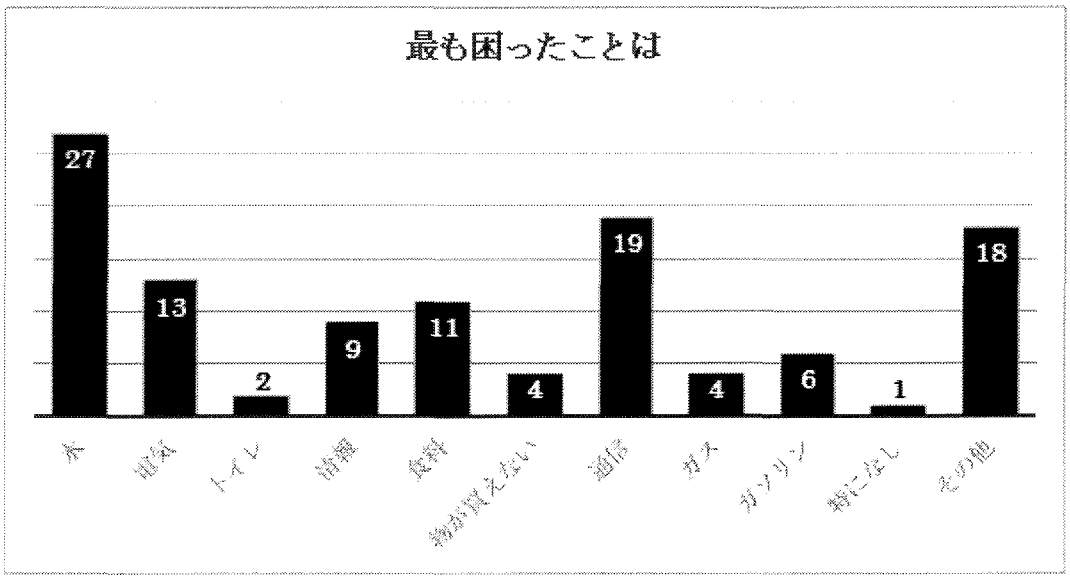
4. 地震に関する情報をどこから得ましたか。(複数回答可)



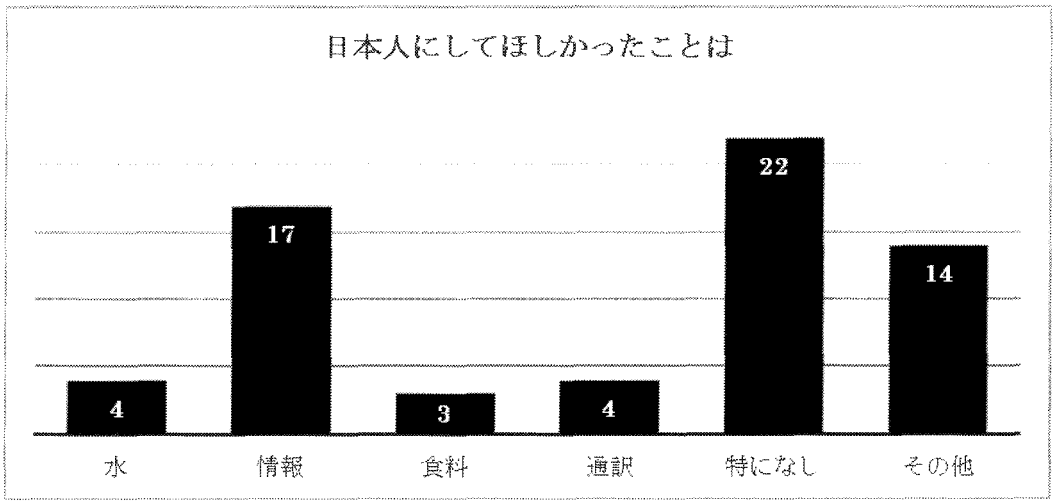
5. 助けてもらえる日本人や状況を聞ける日本人が周りにいますか。



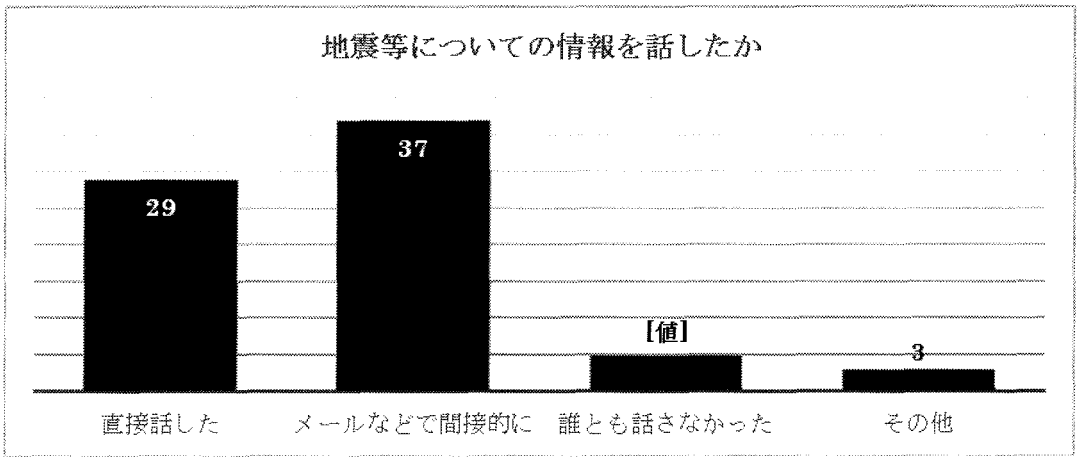
6. 2011年3月の地震のとき、最も困ったことは何ですか。



7. 日本人にしてほしかったことは何ですか。



8. 地震、津波、原発についての情報をほかの外国人や同じ国の人に話しましたか。

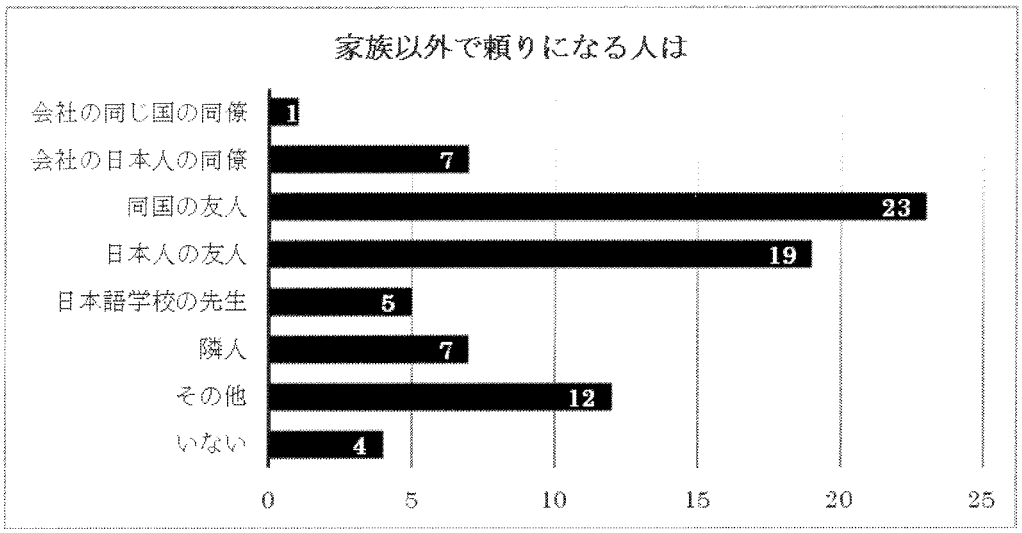


9. 8. で話したとき何語で話しましたか。（複数回答あり）

日本語	16	ベトナム語	1
中国語	20	モンゴル語	1
ハングル	9	ベンガル語	1
英語	10	ビサヤ語	1
スペイン語	4	アイルランド語	1
タガログ語	5	その他（指定なし）	7
インド語	1	無回答	3
インドネシア語	3		
タイ語	1		

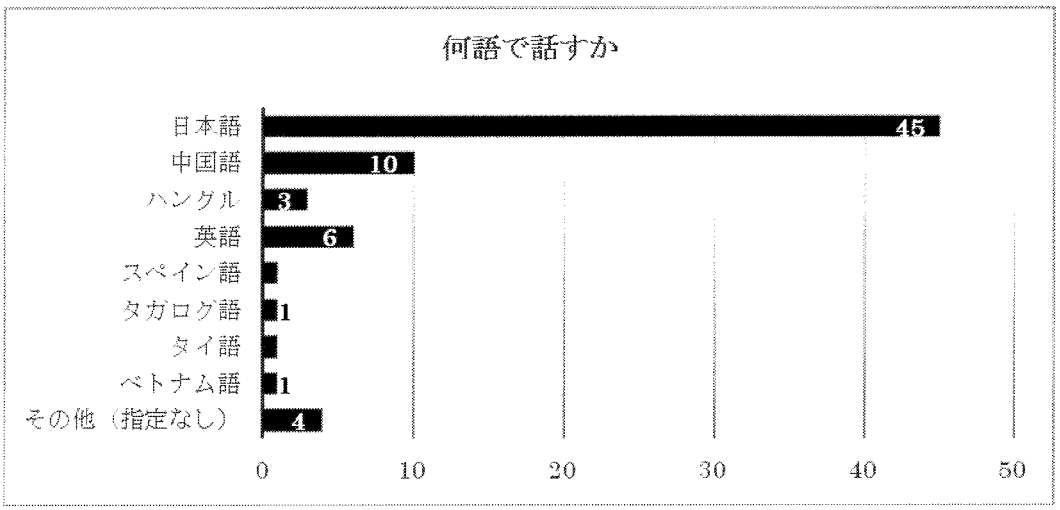
10. 家族以外で一番頼りになる人はだれですか。何語で話しますか。

10-1（一部複数回答あり）



10. 家族以外で一番頼りになる人はだれですか。何語で話しますか。

10-2



11. このように地震や災害について聞かれるのはいやですか。

はい	20%
いいえ	77%
どちらでもない	2%
無回答	1%

＊集計作業は、津田智史氏（国立国語研究所　日本学術振興会特別研究員 PD）の協力を得た。感謝申し上げます。

【言い換え項目】

	1. 震度7強／7弱	
1	地震の(強さ・大きさ・程度・レベル)類	18
2	揺れ・揺れる(強さ・大きさ)類	14
3	(言い換えない)	8
4	その他	4
5	無回答	25
	計	69

	2. 揺れる	
1	(上下に・左右に)動く類	12
2	(言い換えない)	21
3	その他	12
4	無回答	24
	計	69

	3. 震源地	
1	地震が(起きた・起こった・あった)ところ類	15
2	地震の(ところ・目・真ん中)類	10
3	(言い換えない)	8
4	その他	10
5	無回答	26
	計	69

	4. マグニチュード	
1	地震の(強さ・大きさ)類	13
2	地震の(レベル・エネルギー)類	5
3	(言い換えない)	19
4	その他	7
5	無回答	25
	計	69

	5. 緊急地震速報	
1	地震の(知らせ・ニュース・情報)類	8
2	(言い換えない)	10
3	その他	26
4	無回答	25
	計	69

	6. 余震	
1	地震の後(また揺れる・に来る)地震類	8
2	大きい地震の後の(小さい・次の)地震類	5
3	また(来る・起こる)地震類	5
4	(言い換えない)	11
5	その他	13
6	無回答	27
	計	69

	7－1. 建物	
1	家(いえ・うち)類	7
2	ハウス・ビル・マンション類	13
3	(言い換えない)	9
4	その他	18
5	無回答	22
	計	69

	7－2. 家屋	
1	家(いえ・うち)類	14
2	ハウス・ビル・マンション類	7
3	(言い換えない)	9
4	その他	17
5	無回答	22
	計	69

	8. 通行止め	
1	道・道路が(通れない・行けない)類	12
2	道が(ダメ・閉まる・止まる)類	7
3	(言い換えない)	6
4	その他	19
5	無回答	25
	計	69

	9. 水害	
1	水(がいっぱい・あふれて・たまって・出て)問題類	20
2	(言い換えない)	8
3	その他	14
4	無回答	27
	計	69

	10－1. 火災	
1	火事	11
2	火が(出る・燃える)類	16
3	(言い換えない)	1
4	その他	18
	無回答	23
	計	69

	10－2. 火事	
1	火が(出る・燃える)類	16
2	(言い換えない)	7
3	その他	23
4	無回答	23
	計	69

	11. 出火	
1	火が(出る・出た・燃える・はじまる)類	19
2	火事が(出た・発生した)類	10
3	(言い換えない)	8
4	その他	8
5	無回答	24
	計	69

	12. 断水	
1	水が(出ない・止まる)類	30
2	水道が(壊れる・切れる)類	4
3	(言い換えない)	7
4	その他	5
5	無回答	23
	計	69

	13. 停電	
1	電気が(止まる・つかない)類	33
2	(言い換えない)	7
3	その他	3
4	無回答	26
	計	69

	14. ライフラインが寸断	
1	電気・水道・ガスが(ない・止まる・使えない)類	14
2	ライフラインが(切れる・ない)類	7
3	(言い換えない)	7
4	その他	14
5	無回答	27
	計	69

	15. 原発事故	
1	原子力(発電・発電所)の事故類	6
2	(言い換えない)	14
3	その他	17
4	無回答	32
	計	69

	16. 放射能	
1	危ない(もの・こと)類	5
2	(言い換えない)	15
3	その他	14
4	無回答	35
	計	69

	17. 警報	
1	アラーム・サイレン・注意のメッセージ類	15
2	危ない(ことを・とき)知らせる	4
3	(言い換えない)	9
4	その他	15
5	無回答	26
	計	69

	18. 台風	
1	(強い)風・雨類	18
2	(言い換えない)	20
3	その他	6
4	無回答	25
	計	69

	19. 暴風雨	
1	強い(ひどい)風と雨類	27
2	(言い換えない)	8
3	その他	10
4	無回答	24
	計	69

	20. 倒壊	
1	倒れる・こわれる類	20
2	崩れる類	4
3	(言い換えない)	4
4	その他	15
5	無回答	26
	計	69

	21. 土砂崩れ	
1	山が(こわれる・くずれる)類	10
2	土が(流れる・くずれる)類	8
3	(言い換えない)	7
4	その他	18
5	無回答	26
	計	69

	22. 燃える	
1	火が(つく・出る・見える)類	13
2	(言い換えない)	22
3	その他	8
4	無回答	26
	計	69

	23. けがをした	
1	痛い(くなった・ところがある)類	6
2	傷が(できる・がある)類	6
3	(言い換えない)	21
4	その他	11
5	無回答	25
	計	69

	24. 助けて	
1	ヘルプ(ミー)類	10
2	手伝って(ください)類	3
3	(言い換えない)	24
4	その他	7
5	無回答	25
	計	69

	25. 痛い	
1	ペイン	2
2	(言い換えない)	31
3	その他	10
4	無回答	26
	計	69

	26. 病気	
1	(体・調子・具合)が悪い類	6
2	(体・頭・お腹)が痛い類	6
3	(言い換えない)	19
4	その他	11
5	無回答	27
	計	69

	27. 熱がある	
1	(体・頭)が熱い類	9
2	(体の)温度が高い類	5
3	(言い換えない)	17
4	その他	11
5	無回答	27
	計	69

	28. 下痢	
1	お腹が痛い類	19
2	お腹を壊す類	3
3	(言い換えない)	11
4	その他	8
5	無回答	28
	計	69

	29. 息が苦しい	
1	息が(できない・詰まる・難しい)類	11
2	(出したり)吸えない類	3
3	(言い換えない)	12
4	その他	14
5	無回答	29
	計	69

	30. 元気が出ない	
1	元気(がない・ない・じゃない)類	9
2	調子(悪い・が悪い)類	3
3	(言い換えない)	14
4	その他	12
5	無回答	31
	計	69

	31. 医者	
1	病院(の先生・にいる人)類	9
2	病気(をなおす・を見つける)人類	5
3	ドクター	4
4	(言い換えない)	10
5	その他	15
6	無回答	26
	計	69

	32. 医療	
1	医者・薬類	7
2	手当・なおすこと類	5
3	(言い換えない)	13
4	その他	17
5	無回答	27
	計	69

	33. 避難場所	
1	逃げる(場所・ところ)類	12
2	安全な(場所・ところ)類	11
3	(言い換えない)	8
4	その他	13
5	無回答	25
	計	69

	34. 経路	
1	(行く・逃げる・通って行く)道類	27
2	(言い換えない)	6
3	その他	7
4	無回答	29
	計	69

	35. 勧告が出る	
1	大切な(注意・意見・お願い)を言う類	6
2	避難(してください・する方がいい)類	4
3	アドバイス(が出る)類	4
4	(言い換えない)	4
5	その他	18
6	無回答	33
	計	69

	36. 防災	
1	災害(を防ぐ・を予防)類	6
2	(防ぐ・守る)こと類	3
3	(言い換えない)	11
4	その他	11
5	無回答	38
	計	69

	37. ハザードマップ	
1	(危険を表す・危ない場所の)地図類	16
2	(安全・予測)マップ類	5
3	(言い換えない)	9
4	その他	7
5	無回答	32
	計	69

	38. 無線	
1	ラジオ(みたい)類	15
2	線が(ない・つながっていない)類	5
3	(言い換えない)	11
4	その他	7
5	無回答	31
	計	69

	39. 情報	
1	インフォメーション類	10
2	知らせ類	4
3	(言い換えない)	11
4	その他	16
5	無回答	28
	計	69

	40. 非常持出し袋	
1	(地震・津波)のとき(の荷物・必要な物)	5
2	非常のとき(持っていく・持ち出す)袋類	5
3	(言い換えない)	8
4	その他	27
5	無回答	24
	計	69

	41. 常備薬	
1	いつも(家にある・飲んでいる)薬類	10
2	(普段・普通の時・日常用)の薬類	4
3	(言い換えない)	5
4	その他	26
5	無回答	24
	計	69

	42. 運転再開	
1	運転が(もう一度できる・はじまる)類	21
2	もう一度(運転・動く)類	7
3	(言い換えない)	5
4	その他	8
5	無回答	28
	計	69

	43. 応急処置	
1	(急いで・すぐに・最初)手当する類	7
2	(言い換えない)	5
3	その他	25
4	無回答	32
	計	69

	44. 手当をする	
1	(ケガをした人を・人を)助ける類	10
3	(言い換えない)	6
4	その他	21
5	無回答	32
	計	69

	45. ガスの元栓	
1	ガスの(元の)スイッチ類	8
2	ガスの(出る・開けたり閉めたりたりす	4
3	(言い換えない)	10
4	その他	19
5	無回答	28
	計	69

	46. ガス漏れ	
1	ガスが(外に)出る類	10
2	(言い換えない)	9
3	その他	23
4	無回答	27
	計	69

	47. 非常食	
1	(何かあったときの・危ないときの)食	6
2	(地震のときの・台風のときの)食べ+	4
3	(言い換えない)	7
4	その他	26
5	無回答	26
	計	69

	48. 毛布	
1	(寒い・寝る)とき(かける・使う)もの類	9
2	(暖かい・温める)もの類	4
3	(言い換えない)	18
4	その他	14
5	無回答	24
	計	69

	49. ヘルメット	
1	(頭を守る・安全な・固い)帽子類	17
2	(言い換えない)	20
3	その他	8
4	無回答	24
	計	69

	50. 懐中電灯	
1	(フラッシュ・ポータブル)ライト類	12
2	手(に持って使う・に持つ)電気類	6
3	(言い換えない)	11
4	その他	16
5	無回答	24
	計	69

	51. ローソク	
1	電気がないとき(光が出る・使う)もの	4
2	(言い換えない)	16
3	その他	22
4	無回答	27
	計	69

	52. 携帯ラジオ	
1	小さい(持って行ける・持って歩く)ラジ	10
2	持ち(運べる・歩ける)ラジオ類	5
3	(言い換えない)	12
4	その他	15
5	無回答	27
	計	69

	53. 消火器	
1	火を(消す・止める)道具・もの類	23
2	火事(を止める・のとき消す)もの類	6
3	(言い換えない)	8
4	その他	4
5	無回答	28
	計	69

	54. 身の安全	
1	(自分・身体)を守る類	9
2	(自分・あなた)の(安全・安心・セーフティー)	9
3	(言い換えない)	7
4	その他	17
5	無回答	27
	計	69

	55. 落下物	
1	(上・高いところ)から落ちる物類	21
2	(言い換えない)	6
3	その他	15
4	無回答	27
	計	69

	56. 感電	
1	電気が(危ない・流れる・体を通った)類	10
2	電気に(触れること・触って流れる)類	5
3	電気のショック	2
4	(言い換えない)	8
5	その他	17
6	無回答	27
	計	69

	57. あかり	
1	明る(い・くなる)もの類	5
2	電気	5
3	(言い換えない)	9
4	その他	23
5	無回答	27
	計	

	58. 救助する	
1	助ける	20
2	(言い換えない)	6
3	その他	18
4	無回答	25
	計	69

	59. 鉄道	
1	電車(の道・の場所)類	21
2	(言い換えない)	8
3	その他	9
4	無回答	31
	計	69

	60. 空路	
1	飛行機(の道・飛ぶ道)類	25
2	(言い換えない)	4
3	その他	9
4	無回答	31
	計	69

	61. 住宅	
1	家(うち)類	21
2	住む(ところ・たてもの)類	6
3	ハウス・アパート・マンション類	4
4	(言い換えない)	8
5	その他	3
6	無回答	27
	計	69

	62. 非常口	
1	(逃げる・危ない時の)出口類	16
2	(言い換えない)	6
3	その他	23
4	無回答	24
	計	69

	63. 耐震性	
1	地震に(耐える・強い・大丈夫)類	18
2	(どれ・どの)くらい大丈夫類	3
3	(言い換えない)	7
4	その他	13
5	無回答	28
	計	69

	64. 防火水槽	
1	火を消す水(をためておく・がある)と	8
2	火事のための水を(入れておく・ため	6
3	(言い換えない)	6
4	その他	18
5	無回答	31
	計	69

	65. 消防車	
1	火を消す車	14
2	火事(の車・のトラック)・が起きたとき	6
3	(言い換えない)	16
4	その他	7
5	無回答	26
	計	69

	66. 救急車	
1	(けがをした・病気の)人を(助ける・運	11
2	病院へ(運ぶ・連れて行く)車類	7
3	(言い換えない)	15
4	その他	9
5	無回答	27
	計	69

	67. 仮設トイレ	
1	臨時の(簡単な)トイレ類	8
2	とりあえず(の・作った・おいた・簡単な	3
3	(言い換えない)	6
4	その他	28
5	無回答	24
	計	69

	68. 給水車	
1	水を(配る・くれる)車類	22
2	水の(車・トラック)類	10
3	(言い換えない)	6
4	その他	6
5	無回答	25
	計	69

	69. 配給	
1	(物・食べ物)を配る	11
2	(物・食べ物)をくれる・もらう・あげる類	11
3	(言い換えない)	4
4	その他	16
5	無回答	27
	計	69

	70. 炊き出し	
1	食べ物を(出す・配る・作る・もらう)類	13
2	ご飯を(作る・たく)類	9
3	(言い換えない)	5
4	その他	12
5	無回答	30
	計	69

	71. 救援物資	
1	助ける(ための)物	11
2	(分ける・くれる)必要な物類	3
3	(言い換えない)	6
4	その他	19
5	無回答	30
	計	

	72. 無料	
1	お金(が要ら・を使わ・を払わ)ない類	16
2	ただ	14
3	(言い換えない)	7
4	その他	8
5	無回答	24
	計	69

	73. 災害用伝言ダイヤル	
1	(災害の・大丈夫と言う)電話類	13
2	(言い換えない)	6
3	その他	21
4	無回答	29
	計	69

	74. 掲示板	
1	(メッセージ・インフォメーション)のボー	8
2	(お)知らせ(る・の)板類	6
3	(言い換えない)	9
4	その他	19
5	無回答	27
	計	69

	75. 亀裂	
1	ひびが(入る・できる)類	17
2	割れ(る・ている)(目・ところ)類	11
3	(言い換えない)	5
4	その他	10
5	無回答	26
	計	69

	76. 禁止	
1	ダメ・だめ(なこと)類	18
2	(やっては・しては)いけないこと類	10
3	(言い換えない)	8
4	その他	9
5	無回答	24
	計	69

	77. 被害状況	
1	どのくらいダメージ(になったか・があっ	6
2	(言い換えない)	7
3	その他	23
4	無回答	33
	計	69

	78. 不通	
1	(使え・話せ・通れ・つながら・行け)なし	24
2	(言い換えない)	7
3	その他	10
4	無回答	28
	計	69

	79. ホットライン	
1	(非常の・助けてくれる)電話類	6
2	(みんなに・大事な)連絡(する)ネット類	5
3	(言い換えない)	18
4	その他	3
5	無回答	37
	計	69

	80. 復旧の見通し	
1	(元通りになる・戻れる)(時間・日)類	6
2	(言い換えない)	6
3	その他	25
4	無回答	32
	計	69

	81. 外国人相談窓口	
1	外国人が(相談する・問い合わせる)所類	19
2	(言い換えない)	13
3	その他	9
4	無回答	28
	計	69

	82. 災害対策本部	
1	災害の(問題の本社・命令を出す所)類	7
2	(言い換えない)	12
3	その他	12
4	無回答	38
	計	69

	83. 被災者	
1	(けがをした・困った・被害にあった)人類	24
2	(言い換えない)	7
3	その他	5
4	無回答	33
	計	69

	84. 行方不明	
1	(どこにいるか・居場所が)わからない人類	10
2	いなくなった人	8
3	見つからない人	6
4	(言い換えない)	6
5	その他	13
6	無回答	26
	計	69

	85. 安否	
1	安全か(どうか・危ないか)類	17
2	だいじょうぶか(どうか・そうじゃないか)類	6
3	(言い換えない)	5
4	その他	12
5	無回答	29
	計	69

	86. 問い合わせる	
1	聞く(問う・聞いてみる)類	17
2	質問する	7
3	(言い換えない)	6
4	その他	12
5	無回答	27
	計	69

	87. 警察	
1	ポリス(マン)類	17
2	おまわりさん	3
3	(言い換えない)	18
4	その他	5
5	無回答	26
	計	69

	88. 大使館	
1	自分の国の(事務所・政府のオフィス)	8
2	エンバシー	3
3	(言い換えない)	23
4	その他	8
5	無回答	27
	計	69

	89. 領事館	
1	自分の国の(事務所・政府の代表者)類	11
2	(言い換えない)	20
3	その他	6
4	無回答	32
	計	69

	90. 注意	
1	(よく・危ないから)気をつけ(て・る)類	25
2	(言い換えない)	14
3	その他	6
4	無回答	24
	計	69

	91. 危険	
1	危ない(こと)類	34
2	(言い換えない)	10
3	その他	3
4	無回答	22
	計	69

災害時命綱カード・共通語版（ひらがな表記付）

▷現象関連語彙

		ひらがな（よみかた）	英語訳	中国語訳	韓国語訳
1	震度［7強／7弱］	しんど［7きょう／7じゃく］	Seismic intensity [7 strong/7 weak on the Japanese scale]	地震强度［7强／7弱］	진도［7강／7약］
2	揺れる	ゆれる	Shake	摇晃	흔들리다
3	震源地	しんげんち	Epicenter	震源	진원지
4	マグニチュード	まぐにちゅうど	Magnitude	震级	매그니튜드（리히터 진도）
5	緊急地震速報	きんきゅうじしんそくほう	Earthquake Early Warning	地震快讯	긴급 지진 속보
6	余震	よしん	Aftershock	余震	여진
7	建物／家屋	たてもの／かおく	Buildings /House	建筑物	건물／가옥
8	通行止め	つうこうどめ	Road is closed	禁止通行	통행금지
9	水害	すいがい	Flood	水灾	수해
10	火災／火事	かさい／かじ	Fire	火灾	화재／불
11	出火	しゅっか	An outbreak of fire	着火	발화（불이나다）
12	断水	だんすい	Water outage	停水	단수
13	停電	ていでん	Black out/Power outage	停电	정전
14	ライフラインが寸断	らいふらいんがすんだん	Basic infrastructure (lifeline) shutdown	生命线被切断	라이프라인차단
15	原発事故	げんぱつじこ	Nuclear power plant accident	核电站事故	원자력발전소 사고
16	放射能	ほうしゃのう	Radioactivity	放射能	방사능
17	警報	けいほう	Alarm	警报	경보

18	台風	たいふう	Typhoon	台风	태풍
19	暴風雨	ぼうふうう	Storm/Rainstorm	暴风雨	폭풍우
20	倒壊	とうかい	Collapse	坍塌	붕괴
21	土砂崩れ	どしゃくずれ	Landslide	塌方	산사태
22	燃える	もえる	Burn	燃烧	불타다

▶健康関連		ひらがな（よみかた）	英語訳	中国語訳	韓国語
1	けがをした	けがをした	Injured	受伤	부상을 입다
2	助けて	たすけて	Help me	救命啊 / 来人啊 / 帮帮我	도와 주세요
3	痛い	いたい	Hurt / Pain	疼痛	아프다
4	病気	びょうき	Illness	生病	병
5	熱がある	ねつがある	Feverish / To have a fever	发烧	열이 나다
6	下痢	げり	Diarrhea	痢疾	설사
7	息がくるしい	いきがくるしい	Hard to breathe / Breathing is painful	胸闷 / 喘不上气	호흡 곤란 (숨쉬기 힘들다)
8	元気が出ない	げんきがでない	Depressed	无精打采	기운이 없다 (힘이 없다)
9	医者	いしゃ	Medical doctor	医生	의사

▶事後行動関連語彙		ひらがな（よみかた）	英語訳	中国語訳	韓国語訳
1	避難場所	ひなんばしょ	Evacuation site or shelter	避难场所	피난 장소

2	経路	けいろ	Pathway	路线	경로
3	勧告が出る	かんこくがでる	Orders/Emergency orders	提出劝告	권고가 내려지다
4	防災	ぼうさい	Disaster prevention	防灾	방재
5	ハザードマップ	はざあどまっぷ	Hazard map	防灾地图	해저드맵 (재해위험 예측도)
6	無線	むせん	Radio	无线	무선
7	情報	じょうほう	Information	消息	정보
8	非常持ち出し袋	ひじょうもちだしぶくろ	Emergency supplies	紧急携带袋	비상용 피난가방
9	常備薬	じょうびやく	Medicine	常用药	상비약
10	運転再開	うんてんさいかい	Resumption of services (train, bus, etc.)	恢复运行	운행 재개
11	応急処置	おうきゅうしょち	First aid treatment	应急措施	응급처치
12	手当をする	てあてをする	To perform first aid	紧急治疗	치료하다
13	ガスの元栓	がすのもとせん	Main gas valve	煤气总开关	가스 잠금 밸브
14	ガス漏れ	がすもれ	Gas leak	煤气泄漏	가스 누출
15	非常食	ひじょうしょく	Emergency food	应急食品	비상 식량
16	毛布	もうふ	Blanket	毛毯	담요
17	懐中電灯	かいちゅうでんとう	Flashlight	手电筒	손전등
18	ローソク	ろうそく	Candle	蜡烛	양초
19	携帯ラジオ	けいたいらじお	Portable radio	便携式收音机	휴대용 라디오
20	消火器	しょうかき	Fire extinguisher	灭火器	소화기

21	身の安全	みのあんぜん	Personal safety	人身安全	안전확보
22	落下物	らっかぶつ	Falling objects	落下物	낙하물
23	感電	かんでん	Electric shock	触电	감전
24	救助する	きゅうじょする	Rescue	救助	구조하다
25	鉄道	てつどう	Railway	铁路	철도
26	空路	くうろ	Air route	航线	항공로

▶環境関連語彙		ひらがな（よみかた）	英語訳	中国語訳	韓国語訳
1	非常口	ひじょうぐち	Emergency exit	紧急出口	비상구
2	耐震性	たいしんせい	Earthquake-proof	抗震性	내진성
3	防火水槽	ぼうかすいそう	Fire cistern	防火水槽	방화용 수조
4	消防車	しょうぼうしゃ	Fire truck / Extinguish	消防车	소방차
5	救急車	きゅうきゅうしゃ	Ambulance	急救车	응급차
6	仮設トイレ	かせつといれ	Temporary toilet	临时卫生间	가설 화장실
7	給水車	きゅうすいしゃ	Water truck	供水车	급수차
8	配給	はいきゅう	Emergency food	限量供应	배급
9	炊き出し	たきだし	Soup kitchen (free food)	赈济	밥을 지어 돌리다
10	救援物資	きゅうえんぶっし	Relief supplies	救援物资	구호물자
11	災害用伝言ダイヤル	さいがいようでんごんだいやる	Emergency Message Recording	灾害用留言专线	재해용 전언 다이얼

12	掲示板	けいじばん	Bulletin board	布告栏 / 布告板	게시판
13	亀裂	きれつ	Crack	裂缝	균열 (금이 가다)
14	禁止	きんし	Prohibited	禁止	금지
15	被害状況	ひがいじょうきょう	Amount of damage	受灾情况	피해 상황
16	不通	ふつう	Interrupted	不通	불통
17	ホットライン	ほっとらいん	Hotline	热线	핫라인
18	復旧の見通し	ふっきゅうのみとおし	Prospect for restoration	预计修复	복구 전망
19	外国人相談窓口	がいこくじんそうだんまどぐち	Consultation for foreigners	外国人咨询窗口	외국인 상담창구
20	災害対策本部	さいがいたいさくほんぶ	Disaster Prevention Headquarters	灾害对策本部	재해 대책본부
21	被災者	ひさいしゃ	Victim	受灾者	이재민
22	行方不明	ゆくえふめい	Missing	失踪	행방불명 (실종자)
23	安否	あんぴ	Safety / Safe or not	安危	안부
24	警察	けいさつ	Police	警察	경찰
25	大使館	たいしかん	Embassy	大使馆	대사관
26	領事館	りょうじかん	Consulate	领事馆	영사관
27	注意	ちゅうい	Warning /Attention	注意	주의
28	危険	きけん	Danger	危险	위험

茨城県・千葉県実施用（201307～）

面接担当者名（　　）開始時刻（　　：　　）
終了時刻（　　：　　）
実施日時　2013 年　7 月　　日（　　曜日）
場所（　　）
同席者（　　）

災害時のコミュニケーションに必要な語彙調査ついて、ご協力をよろしくお願いいたします。
在日外国人の方々のご協力を得て、災害時に必要な言語について支援の方法を考えるというのが目的です。なお、本研究は、文部科学省科学研究費の助成を得ております。
IC レコーダで記入漏れや間違いのチェックのため録音をさせていただきたいのでご了承ください。個人情報につきましては、慎重に扱うものといたします。また、研究目的以外では使用しませんので、よろしくお願いいたします。

【震災時の状況項目】

1. 2011 年 3 月の東日本大震災の時一人でしたか。
   01.一人　02. 家族といっしょ　03. 職場（アルバイ先）の人といっしょ
   04. 買い物先の店　05. レストラン　06. その他（　　）
2. どこにいましたか
   01. 家　02. 職場（アルバイト先）　03. 大学・専門学校など
   04. 近所（①屋外　②屋内）　05. 遠く離れた所（①屋外　②屋内）
   06. その他（　　）
3. 連絡を最初に取れたのは誰ですか。
   01. 家族　02. 友人　03. その他（　　）
4. 地震に関する情報をどこから得ましたか。
   01. ネット　02. ツイッター　03. テレビ　04. 携帯など
   05. ラジオ　06. その他（　　）
5. 助けてもらえる人や状況を聞ける日本人が周りにいますか。
   01. いる　02. いない　03. その他（　　）
6. 2011 年 3 月の地震のとき、最も困ったことは何ですか。
   自由回答（　　）
7. 日本人にしてほしかったことは何ですか。
   自由回答（　　）
8. 地震、津波、原発についての情報をほかの外国人や同じ国の人に話しましたか。
   01. 直接会って話した　02. メールなどで間接的に話した
   03. 誰とも話さなかった　04. その他（　　）

9. 8. で話したとき何語で話しましたか

01.（　　）語と（　　）語

10. 家族以外で一番頼りになる人はだれですか。何語で話しますか。

01. 会社の同じ国の同僚　02. 会社の日本人の同僚

03. 同国の友人　04. 日本人の友人　05. 日本語学校の先生

06. その他（　　）

☆その人と（　　）で話す。

11. このように地震や災害について聞かれるのはいやですか。

01. はい　02. いいえ　03. その他（　　）

「はい」の理由（　　）

【ことばの質問項目】

調査票にわかる項目は○、わからない項目は×、どちらとも言えないは△と答えてください（を記入してください）（○×△の柄付カードを作成）。次に言葉の重要度を数字で答えてください。(別紙参照)

大変重要で必要な語彙である。・・・(3)

まあまあ重要で必要な語彙である・・・(2)

どちらとも言えない・・・(1)

重要ではないし必要な語彙でもない・・・(0)

わからない（×）

【フェイス項目】

以下は、個人情報です。「在日外国人のための災害時の日本語支援」の研究でクロス集計などに用いますが、お名前など個人情報を外部に公開することは、ありません。慎重に扱いますのでよろしくお願いいたします。

001. 本人の出身地・国籍［　　］

002. 住んでいる市　01. 茨城県（　　市）　02. 千葉県（　　市）

03. その他の県（　　県　　市）

003. 同居人　01. 一人で　02. 同国の友人と　03. 家族と（　　）人で

004. あなたはお子さんがいらっしゃいますか。

01.独身　02.結婚しているがいない　03. いる（　　）人

005. 職業は何ですか。

01.会社員　02.研修員　03. 専業主婦　04.兼業主婦（主婦の他のしごとは　　）

05. 公務員　06. その他（　　）

006. 出生年　西暦[　　]年　月　日

007. 日本在住歴　01. 1年未満　02. 3年未満　03. 5年未満

04. 5年以上～10年未満　05. 10年以上～20年未満

06. 行ったり来たりして合計（　　年）　07. その他（　　）

008. 母語　（　　）語

009. 日本語学習歴　01. 独学（　　）年　02. 日本語学校（母国・日本　　年）

03. 大学（母国で　　・日本で　　）年

0010. 小学校からの教育年数（　　）年

0011. 社会人生活　（　　）年　職業（　　）

0012. 家庭内の使用言語　（　　）語

0013. 日本語で話す場面　01. 家庭で　02. 仕事で　03. 日本人の友達と

04. 学生生活で　05. ほとんど話さない　06. その他（　　）

0014. メディア環境　01.PC あり・なし　02.スマートフォンあり・なし

03.携帯あり・なし　04.ラジオあり・なし　05.テレビあり・なし

0015. よろしければ、お名前と住所、連絡先などを教えて下さい。無回答や質問などがあったとき連絡したり、研究結果の報告をお送りしたりします。

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※長い時間ご協力いただき，本当にありがとうございました。以上で終わりです。

■調査日時	２０１３年　　７月　　日（　　）
■調査場所	話者宅／その他（　　）
■同席者	なし／あり（　　）
■調査終了時刻	：　　（24 時間制）
■開始時刻（再記）	：　　（24 時間制）
■調査員	01.山下　02.中西　03. 上村　04. 金　05.胡　06.張 07.高　08. 沢野

	◇(現象関連語彙)	ローマ字表記	わかる(○×△)	重要度(3・2・1・0)	あなたのやさしい日本語で言って(書いて)ください。
1	震度 [7強／7弱]	Shindo [7 kyou/7 jaku]			
2	揺れる	Yureru			
3	震源地	Shingenchi			
4	マグニチュード	Magunichu-do			
5	緊急地震速報	Kinkyuujishinsokuhou			
6	余震	Yoshin			
7	建物 / 家屋	Tatemono / Kaoku			
8	通行止め	Tsuukoudome			
9	水害	Suigai			
10	火災 / 火事	Kasai / Kaji			
11	出火	Shukka			
12	断水	Dansui			
13	停電	Teiden			
14	ライフラインが寸断	Raifurain ga sundan			
15	原発事故	Gempatsujiko			
16	放射能	Houshanou			
17	警報	Keihou			
18	台風	Taifuu			
19	暴風雨	Boufuuu			
20	倒壊	Toukai			
21	土砂崩れ	Doshakuzure			
22	燃える	Moeru			
	◇(健康関連)	ローマ字表記	わかる(○×△)	重要度(3・2・1・0)	あなたのやさしい日本語で言って(書いて)ください。
1	けがをした	Kega o shita			
2	助けて	Tasukete			
3	痛い	Itai			
4	病気	Byouki			
5	熱がある	Netsu ga aru			
6	下痢	Geri			
7	息がくるしい	Iki ga kurushii			
8	元気が出ない	Genki ga denai			
9	医者	Isha			
10	医療	Iryou			

	◇(事後行動関連語彙)	ローマ字表記	わかる(○×△)	重要度(3・2・1・0)	あなたのやさしい日本語で言って(書いて)ください。
1	避難場所	Hinambasho			
2	経路	Keiro			
3	勧告が出る	Kankoku ga deru			
4	防災	Bousai			
5	ハザードマップ	Haza-domappu			
6	無線	Musen			
7	情報	Jouhou			
8	非常持ち出し袋	Hijoumochidashibukuro			
9	常備薬	Joubiyaku			
10	運転再開	Untensaikai			
11	応急処置	Oukyuushochi			
12	手当をする	Teate o suru			
13	ガスの元栓	Gasu no motosen			
14	ガス漏れ	Gasumore			
15	非常食	Hijoushoku			
16	毛布	Moufu			
17	ヘルメット	Herumetto			
18	懐中電灯	Kaichuudentou			
19	ローソク	Ro-soku			
20	携帯ラジオ	Keitairajio			
21	消火器	Shoukaki			
22	身の安全	Mi no anzen			
23	落下物	Rakkabutsu			
24	感電	Kanden			
25	あかり	Akari			
26	救助する	Kyuujo suru			
27	鉄道	Tetsudou			
28	空路	Kuuro			
29	住宅	Juutaku			

	◇(環境関連語彙)	ローマ字表記	わかる(○×△)	重要度(3・2・1・0)	あなたのやさしい日本語で言って(書いて)ください。
1	非常口	Hijouguchi			
2	耐震性	Taishinsei			
3	防火水槽	Boukasuiso			
4	消防車	Shoubousha			
5	救急車	Kyuukyuusha			
6	仮設トイレ	Kasetsutoire			
7	給水車	Kyuusuisha			
8	配給	Haikyuu			
9	炊き出し	Takidashi			
10	救援物資	Kyuuenbusshi			
11	無料	Muryou			
12	災害用伝言ダイヤル	Saigaiyoudengondaiyaru			
13	掲示板	Keijiban			
14	亀裂	Kiretsu			
15	禁止	Kinshi			
16	被害状況	Higaijoukyou			
17	不通	Futsuu			
18	ホットライン	Hottorain			
19	復旧の見通し	Fukkyuu no mitooshi			
20	外国人相談窓口	Gaikokujinsoudammadoguchi			
21	災害対策本部	Saigaitaisakuhombu			
22	被災者	Hisaisha			
23	行方不明	Yukuefumei			
24	安否	Ampi			
25	問い合わせる	Toiawaseru			
26	警察	Keisatsu			
27	大使館	Taishikan			
28	領事館	Ryoujikan			
29	注意	Chuui			
30	危険	Kiken			

【語彙の質問項目】

調査票にわかる項目には○印、わからない項目には×印を記入してください。（調査員は、シートの項目を読み上げてください。
○わかる・×わからない・△少しわかるを書いてください。）
次にその語彙が災害時の情報にとってどのくらい重要か、（または必要か、大切か）重要度順に３・２・１・０で答えてください。
（調査員は、わからないと答えた語彙はシートを見せて重要度を聞いてください。）

シートの書き方

	◇（現象関連語彙）	ローマ字表記	わかる(○×△)	重要度（3･2･1･0）	あなたのやさしい日本語で言って（書いて）ください。
1	地震	Jishin	○	3	じめんがゆれること
2	危険	Kiken	△	1	危ない
3	避難する	Hinansuru	×	2	だいじょうぶなところににげる

言葉の重要度を数字で答えてください。
大変重要で必要な語彙である。・・・（3）
まあまあ重要で必要な語彙である・・・（2）
どちらとも言えない・・・（1）
重要ではないし必要な語彙でもない・・・（0）
わからない（×）

わかるときは ○
わからないときは ×
わかるけれど自信がないときは △

とても重要（たいせつ） 3
重要（たいせつ） 2
あまり重要(たいせつ)ではない 1
まったく重要(たいせつ)ではない 0

正しいかどうかは気にせず、あなたのことばでかいてください。

災害時の言語景観の問題点

—避難所表示の多様性—

井上史雄（明海大学・国立国語研究所）
innowayf@nifty.com

【要約】

本稿では災害時の多言語使用について考察する。避難所に関わる表示が不十分であることを指摘する。客観的記述を踏まえ、将来の災害に備えて、提言も行う。

【キーワード】言語景観、避難所表示、多言語使用、やさしい日本語、やさしい英語

0. 災害時の言語景観

ここでは、災害時の多言語使用の効用と問題点について考察する。東日本大震災における多言語使用が直接のきっかけである。客観的記述を踏まえるが、将来の災害に備えて、減災のために、主張、提言も行う。具体的には、避難所に関わる表示が不完全で、改良を要することを指摘する。日本語として「避難場所」「ひなんばしょ」という表記を推奨する。また英語としては Place of Refuge（または Emergency Evacuation Area）を推奨する。

現状にみる用語の不一致は、縦割り行政と地方分権化の弊害である。用語が違うと中身・機能が違うのか、疑いが生じる。統一が必要だが、同時にやさしい日本語の必要性があり、さらにやさしい英語の必要性もある。多言語サービスでは日本語・英語(J E)の組み合わせが多く、日本では外国人向けにやさしい英語に配慮することが望まれる。方言研究の立場からいうと、ことばの多様性は尊重すべきである。しかし緊急時の減災を考えると、用語の統一が望ましい。かつての沖縄方言論争(谷川 1970)を典型とする方言撲滅運動の再現に等しい事態が生じつつある。

1. 避難所言語景観のフィールドワーク

筆者はこれまでフィールドワークとして各地の避難所に関わる表示板を撮影して、多くのデータを集めた。ただし同一時点のものでないし、偶然が支配し、統一的考察は難しい。

手元のデータのうち、7都市の例を図1－1～図1－7に挙げる。日本語と英語の用語の多様性が目立つ。日本語も多様だし、英語にも同じ組み合わせない。従って、同じ意味（同じ機

能を持つ施設）なのか、分からない。日英対応一覧表は後掲する。

図１－１　日立市

図１－２　さいたま市

図１－３　浦安市

図１－４　大阪市

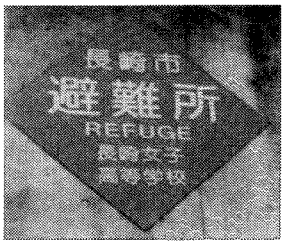


図１－５　長崎市

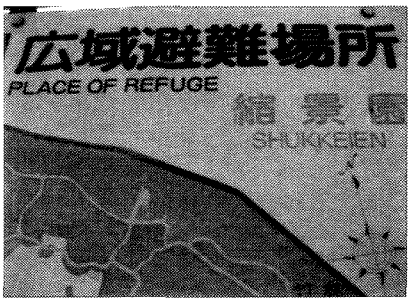


図１－６　広島市

図１－７　福井市

統一の必要性

公共スペースに現れる言語表示に関しては、国家的に統一されていることが望ましい。一般の国民は日本語の書きことばに地域差はないと信じているから、なおさらのことである。海外でも同様で、中国の英語表示については、国家的統一方針が示された。そのほうが経済的で、

個々の自治体や団体が翻訳する必要がない。「標準語」の必要性については議論があるが、公共表示については、統一のよさ、統一の必要性は論を待たない。

一方上記の写真からうかがえる英語の多様性をみると、かつて唱えられた「英語第2公用語論」の非現実性が際立つ(井上 2011)。経済的投資と効果が釣り合わないのである。文化庁国語部会の守備範囲が、敬語や漢字などに限定されていたことも一因である。また NHK 放送用語委員会の守備範囲も、日本語だけである。しかし日本国内の言語表示は日本語だけでいいかという問いかけ、問い直しが今必要である。

やさしい日本語の必要性

単なる言語的統一では不十分で、日本国内の観光客や短期滞在者を考慮すると、やさしい日本語が必要になる。小学生にも分かるような表示が望ましい。命に関わることで、災害弱者、情報弱者として、日本語能力の不十分な外国人も考慮されるべきである。東京に一番近い被災地としての千葉県浦安市のケーススタディーによると、外国人は、個人的ルートで情報を入手することが多かった（村岡他 2013)。

やさしい英語の必要性

現在世界全体で表示の国際化が進んでいる。道路表示が典型だが、使用言語に左右されないように、絵文字（ピクトグラム・ロゴグラム）が主体である。ただし STOP や P はアルファベット圏以外でも使われている。キリル（ロシア）文字では P は[r]として発音されるが、混乱は起きないらしい。かつてソ連が国名をキリル（ロシア）文字で CCCP（SSSR に相当する）とつづったのを、アルファベット圏でシーシーシーピーと読んだのと、ちょうど裏返しである。

避難所表示も絵文字で示せるが、細かい区分や機能は文字で示すしかない。トイレの表示が各企業などの自由経済に任せてあり、男女の違いが単独だと分かりにくかったりするが、生命に関わる避難所表示は、各自治体の自由経済に任せるのでなく、国の計画経済の課題とすべきである。現在の中国の英語表示の統一を参考にすべきだろう。

英語は英語国民のためだけではない。日本に滞在するヨーロッパ諸国の人にとっては、日本国内の多言語表示の JECK のパターンのうち、読み取れるのは英語（というよりはアルファベット）だけである。ヨーロッパの鉄道で 4 言語表示を採ってもすべてがアルファベットなのと訳が違う。英語に頼る人の英語の能力が高いとは限らない（岩田 2010)。英語を母語にしない人のための「やさしい英語 Easy English」の必要がある。

国際的交通機関の言語選択

観察によると(井上 2001)、表示の国際統一は、需要の高い場面から広がる。国際間の飛行機の表示、昔の客船の表示が典型である。昔から英語帝国主義の傾向があり、多言語表示の一つに英語が使われる。航空管制が 21 世紀にはロシアの例外も実質的になくなって、英語に統一されたことが象徴的だが、さらなる統一可能性がある。英語は多様な場面で勢力を強めている。

多国家間を飛ぶ機材などでは、多言語使用の不経済が目立ち、ピクトグラムの統一への動きが見られる。かつて全日空 ANA の機内の安全ガイドは 9 言語が使われていたが、現在は日英の 2 言語になった。世の中の多言語化に逆行しているが、多言語使用の不経済で説明できる。ただし多言語サービスの見えない経済性(井上 2001)にも注意すべきである。

日本は言語的に「三位一体」と表現されるが、常にそうだったわけではない。戦後まもなくの進駐軍用の英語表示氾濫は、当時の写真で分かる。1964 年の東京オリンピックで英語表示が登場して、再現した。その後 2002 年のサッカーワールドカップを期に JECK の表示が増えた。2020 年の東京オリンピックがどう表示に影響するか、研究課題になる。

世界標準 global standard

国家内の言語的統一、方言差の解消には、賛否両論がある。沖縄方言論争が典型である（谷川 1970)。世界の言語差の統一にも、大きな意見対立がある。

言語外だが、交通規則は陸上以外に、空と海で、特に統一の必要性がある。小さいことだが、エスカレーターの左右どちらに立ち止まるかの、(国内)地域差、国家間の差も、いずれは統一に向かうだろう。緊急電話の番号も国によって、110、119、911 など多様である。これは標準化統一化よりも、これらどの番号でも 1 箇所で受けて指揮できるほうが、ヒューマンフレンドリーといえる。

2．避難所の日本語景観集計

調査法

避難所についても、国家内・国家間の統一が望ましいが、フィールドワークによると日本国内に大きな違いがある。実例は前掲した。ただしこれまでのデータは偶然が支配し、量も十分でない。このたびインターネットの画像検索で例数を増やすことを考えた。またインターネットの各種検索で用語自体の使用数も数えた。

（1） 画像検索

2013 年インターネットの画像で網羅的収集を目指した。これまで撮影された画像の用語をキーワード（手がかり）にして画像検索を行った。他の関連用語の画像が出るので、さらにそれを手がかりに検索を広げた。

（2） 国会会議録

話しことば、しかも公的な場面での議員の発言との関連（の少なさ）を見るために、国会会議録を利用し、戦後の使用を確認した。ただし会議録には、後日修正の可能性がある(松田 2008)。また発言していて、用語を取り違えたときには、議事録訂正が行われる。

（3） 用語ウェブ検索

避難所関係用語の一般人の使用状況を知るために、ヤフーでウェブの単語を検索した。使用頻度（と主な使用地）を記録した。また例文を読んで関連語形があればその後を検索した。さらに一般用語と専門語、公的な用語の使用状況の違いを記録するために、以下のような手法を

取った。ここでも例文を読んで関連語形があれば、その後検索した。

site: go.jp で政府の用例

site: lg.jp で地方自治体の用例

結果　日本語単語調査結果一覧表

五十音順の一覧表を作り、数値を記入した。図２－１参照。数値の多いものに網かけし、画像の多いものを太字にし、かつ●を付けた。インターネットで多く見つかったのは、実際の掲示も多いものと推定できる。井上自身の撮影した写真(一部分を前掲)とも一致した。

考察　日本語単語問題点

図２－１によると、用語が多様で、まとまりがない。各単語や要素に分けても多様である。第２欄には、避難所の実際の表記用語と表記を 50 音順に掲げた。

第１欄には「避難所」の用語を○◎▲▽◆などで記号化して示した。漢字の字義による過度の使い分けが見られる。「場所」「所」「地」である。かながきも混在するが、その原則は、外国人の級別語彙や、小学生の漢字学年配当を考慮しているか、不明である。

一番の問題点は、避難所の規模や重要さの区別が分かりにくいことである[1]。一次避難所と広域避難所という大きな違いが示されず、他の表現がどちらに属するか分かりにくい。また右端の欄の国会会議録や地方議会会議録との食い違いも大きい。

図２－２に、青の政府ホームページ site:go.jp での使用の順にソートして示した。緑の yahoo 検索の最上位は飛びぬけて使用が多い(図２－１で分かる)ので、数値がグラフからはみ出る。茶色の地方自治体 site:lg.jp の使用は、政府ホームページと似る。

一覧表　日本語単語頻度順考察

とはいえ、公的用語との不一致が見られる。「避難所」は一般用語で、画像での使われ方、ウェブ全体での使われ方、地方自治体と政府での使われ方は、一致しない。特に街でよく見かける広域避難場所について、地方自治体と政府の言及が少ない。これには、注４で述べるように法律が関わる。国家として用語を定めていないことが根本問題である。

「場所」記号化	一覧表	site:go.jp 2013.11.3 with""	site:lg.jp 2013.11.3 with""	yahoo 2013.11.3 with " "	画像	国会会議録	国会会議録
	日本語単語五十音順	政府	地方自治体	ヤフー検索	ヤフー	会議数	初出年
一時　▲	一時避難場所	2,100	7,230	70,600	7	12	S51
一時　▽	一時退避所	3	23	7,870	1	0	
一時　◆	一時集合場所	915	13,000	110,000	2	1	H24
一時　○	一時避難所	892	4,380	89,600	0	20	S22
一時避難◆	一時避難集合場所	0	3	2,370	1	0	
一次　▲	一次避難場所	3,530	14,300	127,000	3	5	S54
一次　◎	一次避難地	3,190	3,240	41,200	0		
一とき避難広場	一とき避難広場	1	37	103	0		
緊急　▲	緊急避難場所	3,850	5,360	112,000	4	49	S46
近隣指定場所	近隣指定場所	2	24	80	0	0	
広域　▲	**広域避難場所●**	2,210	8,640	83,300	56	26	S48
広域　○	広域避難所	377	1,920	24,700	3	3	S50
広域　◎	広域避難地	13,500	19,400	142,000	3	27	S44
災害時　▲	災害時ひなん場所	0	1	1	2	0	
災害時　▽	災害時待避所	5	22	3,260	0		
災害時　○	災害時避難所	33,000	21,800	378,000	4	3	H18
指定　○	指定避難所	36,500	65,200	693,000	0	15	H18
収容　▲	収容避難場所	2,990	15,700	122,000	0	1	H19
収容　○	収容避難所	3,750	30,400	163,000	0	5	H07
震災時　▲	震災時避難場所	29,300	9,820	50,100	0		
震災時　○	震災時避難所	41,500	2,880	76,000	3	0	
地区災害時▽	地区災害時待避所	0	20	116	1	0	
地区内残留地区	地区内残留地区	265	312	20,400	1	0	
津波　▲	津波ひなん場所	1	3	33	0	0	
津波　▲	津波避難所				1		
津波　▲	津波避難場所	42,000	41,500	818,000	2	0	
津波ひなん	津波ひなん	47	129	10,600	1	0	
津波一時▲	津波一時避難場所	95	623	17,300	0	0	
津波一時○	津波一時避難所	7	91	9,830	0	0	
津波一次▲	津波一次避難場所	4	596	1,210	3	0	
津波一次○	津波一次避難所	0	2	603	1	0	
津波緊急▽	津波緊急退避所	0	2	5	1	0	
津波緊急▽	津波緊急避難所				1		
津波避難ビル	津波避難ビル	7,400	4,630	101,000	4	0	
▲	**避難場所●**	74,400	103,000	2,220,000	22	917	S22
▲	ひなん場所	80	745	64,300	2	0	
○	ひなんしょ	67	52	14,400	0	0	
○	ひなん所	68	575	24,700	4	0	
○	**避難所●**	653,000	125,000	10,100,000	17	1,496	S22
風水害時○	風水害時避難所	5	4	2,890	1	0	
予定　○	予定避難所	301	7,950	17,900	2	0	

○避難所

◎避難地

▲避難場所

▽退避所

◆避難集合場所

図２－１　一覧表日本語単語五十音

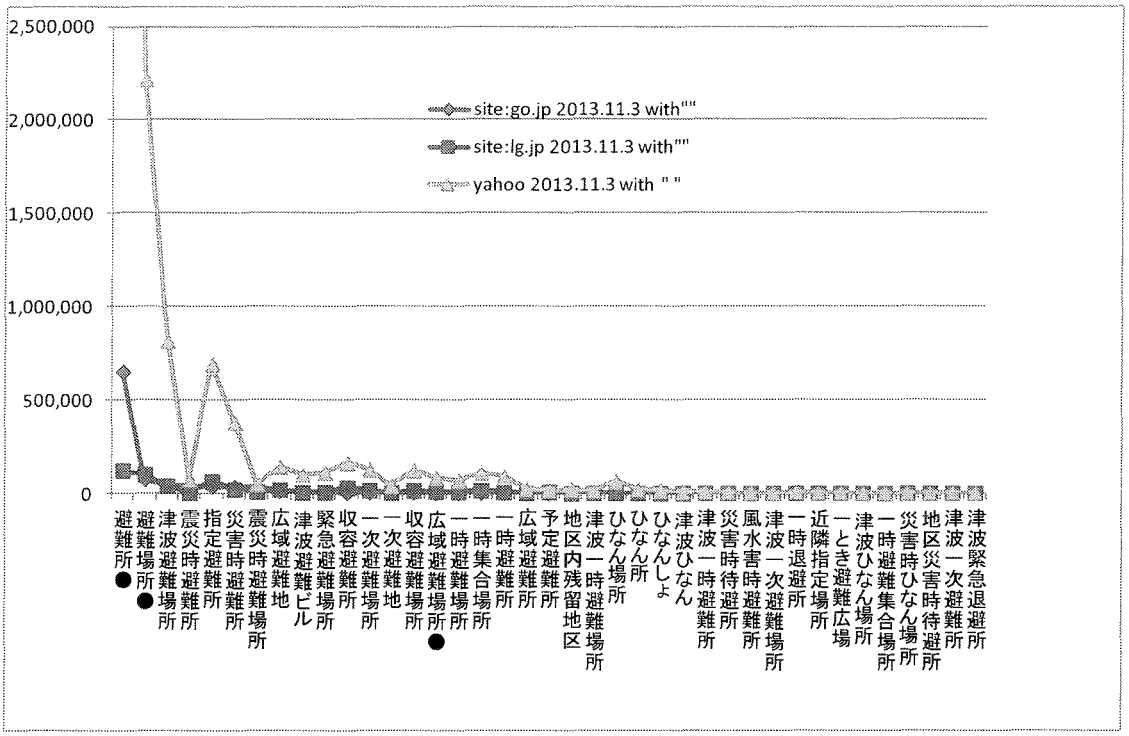


図２－２　日本語単語頻度順

一覧表　日本語短単位　４分類

図２－１の用語はさらに別の（前半の）要素によっても分類できる。以下のように分解して一覧を作れる。

a　災害時　震災時　津波　地区災害時　風水害時

b　一とき　一時[2]　一次　近隣　緊急　広域　予定　指定　収容

c　ひなん　避難　集合　退避

d　しょ　所　場所　地　広場　ビル

　　地区内残留地区

組み合わせが複雑だし、分類が細かすぎる。津波は実際の避難が火災などと別かと思われるので、仕方がない。それにしても、難しい単語が多い。具体的には、日本語として「避難場所」「ひなんばしょ」という表記を推奨する。

３．避難所の英語景観集計

英語単語調査法

以下では、英語の表示について考察する。前述のように、日本国内にいるのは日本語母語話者だけではない。また外国人の使いこなせる言語も多様である。避難所表示の多くが英語とバイリンガル化していることはほめられるべきだが、出発点は日本語と同じで、やさしいことば

を使う必要がある。日本各地の表示板を撮影したが、バイリンガルが多い。多言語もあるが、JECK が多く、他の言語（ポルトガル語、スペイン語、ロシア語）は、各地域の実情を踏まえているようである。用語の実際の使用状況を知るために、ウェブの単語を検索して、使用頻度を記録した。結果を表３－１に示す。

一覧表アルファベット　google English検索用例数	google English
Designated Disaster Evacuation Site	251
Designated Disaster Refuge	0
Designated Large Refuge Area	0
Designated Refuge Area	25,500
Designated Safety Area	77,400
Emergency Shelter	1,630,000
Emergency Evacuation Area	293,000
Emergency Evacuation Shelter	77,200
Emergency Shelter Area	157,000
Evacuation Area	128,000
Evacuation Shelter	83,300
Evacuation Shelter in the case of earthquake	0
Evacuation Shelter in the case of flood, windstorm or landslide	0
Open Evacuation Area	1,070
Place for Disaster Refuge	8
Place of Refuge	11,300,000
Refuge	53,000,000
Refuge Area	114,000
Refuge Space	10,100
Safety Evacuation Area	23,600
Safety Evacuation Facility	9
Safety Evacuation Shelter	8,810
Tsunami Escape Building	8,920
Tsunami Evacuate	3,010
Tsunami Evacuation Area	166,000
Tsunami Shelter	12,000
Wide Area Place of Refuge	8

表３－１　英語単語 alphabet 一覧表 Google 検索

考察　英語単語問題点

数値の差が大きい。図３－１にグラフ化した。最高値の Refuge 53,000,000 はグラフに表示しない。それでも第４位以下との違いが大きい。なお下位のものは、英語直訳に近く、不自然で外国人には通じないものが混じる。総じて、国際的でない表示が混じる[3]。

英語としては数からみて、また分かりやすさからいって、Place of Refuge （または

Emergency Evacuation Area）を推奨する。Shelter はかつての核シェルターのように密閉された場所を連想するので、不適切と考えられる。

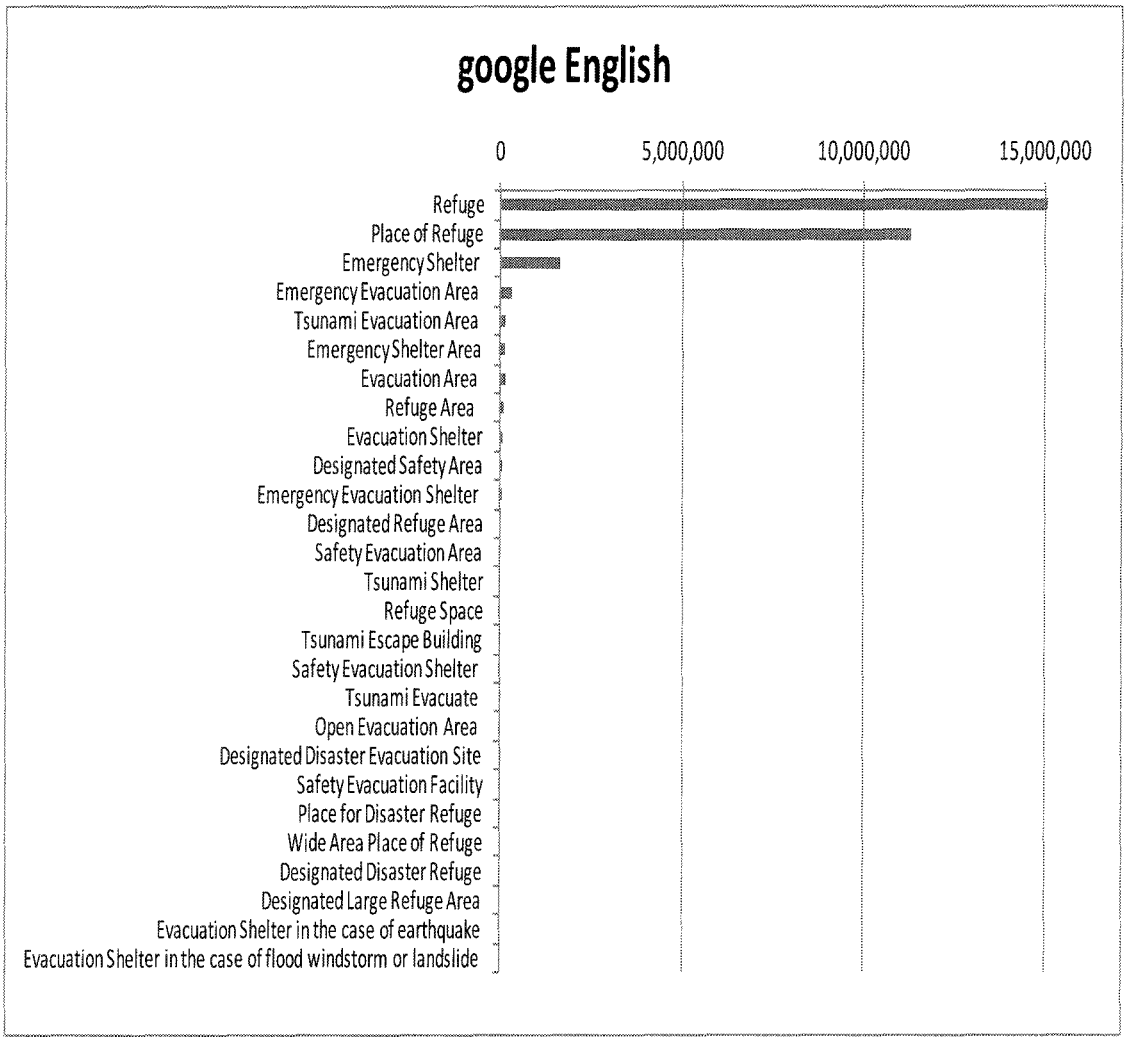


図３－１　英語単語一覧表 Google 検索頻度順

英語単語使用頻度数

表３－２に個々の単語に分けて使用頻度数を示す。数字は異なりとして現れた表示の種類を示す。多い語に色を塗った。

語構成一覧表問題点

表示のパターン（語構成）を見ると、日本語と違って３要素が基準ではない。つまり直訳ではない。問題点も多い。最重要の区別、一時（一次）と広域の区別がわからない。また一時（一次）の英訳が見当たらず、広域とその他の表現がどちらに属するか分かりにくい。総じて難しい単語が多い。

Area	7	Google
Designated	3	
Disaster	2	
Emergency	3	Google
Evacuation	11	Google
Facility	1	
Place of	1	Google
Refuge	5	Google
Safety	4	
Shelter	8	Google
Site	1	
Space	1	
Tsunami	2	
in the case of earthquake	1	
in the case of flood, windstorm or landslide	1	

表３－２　英語語構成一覧表 Google 検索

４．避難所の多言語景観

語構成　日英対応一覧表

以下では日本語・英語以外の外国語にも考察を広げる。

表４－１には英語が何単語からなるかの順に並べ、日本語との対応を示した。１対１対応でない。各自治体が独自に英訳したらしいと推定できる[1]。よく使われる語には、色を塗った。

英語日本語対応の問題点

日本語と英語が１対１対応でない点は、公用語としては不完全である。かつて「英語第２公用語論」が唱えられ、世間で騒がれたが、現実には無視され、無効果で無力である。

多言語表示

以下には多言語表示の例を掲げる。パターンとしては表４－２が得られた。

具体例として図４－１～図４－５を示す。

1語			
	Refuge		避難所　避難場所
2語			
	Emergency	Shelter	避難場所
	Evacuation	Area	ひなん所　広域避難場所
	Evacuation	Shelter	避難所　ひなん所　予定避難所
	Refuge	Area	避難所
	Refuge	Space	避難所
	Place of	Refuge	広域避難場所
	Tsunami	Shelter	津波緊急退避所
3語			
Designated	Disaster	Refuge	災害時避難所
Designated	Safety	Area	広域避難場所
Emergency	Evacuation	Area	災害時ひなん場所　緊急避難場所
Emergency	Evacuation	Shelter	ひなん場所・ひなん所
Emergency	Shelter	Area	避難場所
Safety	Evacuation	Area	避難所　避難場所　一次避難場所
Safety	Evacuation	Facility	避難場所
Safety	Evacuation	Shelter	避難所　ひなんしょ
Tsunami	Evacuation	Area	津波避難場所
4語以上			
Evacuation	Shelter	in the case of earthquake	震災時避難所
Evacuation	Shelter	in the case of flood, windstorm or landslide	風水害時避難所
Designated	Disaster	Evacuation	Site　災害時避難所

表４－１　英語日本語対応 一覧表

日英 JE
日英中韓 JECK
日英中韓露 JECKR
日英中韓西ポ JECKSP

表４－２　多言語表示の例

図４－１　多言語表示 JECKS

図４－３　多言語表示 JECTK

図４－２　多言語表示 JERCK

図４－４　多言語表示 JS

図４－５　多言語表示 JESP

多言語サービスの例　危険表示

多言語サービス multilingual service としては、機能・用法から考えて、多様なものが観察される。スーパーマーケットなどの両替お断りの表示は、手数だけでなく外国人による両替詐欺予防のためもある。海外の日本語表示と対照すると面白い。商業表示、歓迎表示と対照的でありうる。

５．ことばの外側

災害と言語　応用社会言語学・福祉言語学

以上主に避難所表示の言語的問題点を論じた。実際には非言語的な問題点も多い。現場の問題点として、遠くから（またはすぐ近くからも）見えない。学校の敷地内や、植木の陰にあるためである。また一次避難所については、表示なしかとも疑われる。千葉県浦安市の場合は、500 メートル以内にあるかを見ると、カバーしない地域も存在する。

ことば殺人事件

敬語の重要性を強調するために「殺人事件」を取り上げたことがある（井上 1999）。一方ことばは命を救うともいえる。福祉言語学の発想である（徳川 1999）。命に関わるからこそ、情報弱者への配慮が必要である。さらにふだんの情報の行き来、つまり近所知り合いへの声掛けが有効である。しかし現実には、核家族が多くなり、となり近所との付き合いが薄れ、近隣共同体、地域社会が崩壊しつつある。孤独死が増え、自殺、子殺し、虐待が報道される。外国人への対応を含め、上で論じたような言語的現象以前の（または超えた）対策が必要である。「やさしい日本語」（佐藤 2009）の「やさしい」は多義語である。弱者への「やさしい」日本語、「やさしい」英語が期待される。関東大震災の「朝鮮人虐殺」の再現が、今回の東日本大震災で起こらなかったのは、不幸中の幸いだった。歴史から学ぶことが必要である。

参考文献

井上史雄（1999）『敬語はこわくない』講談社現代新書

井上史雄（2001）『日本語は生き残れるか---経済言語学の視点から』PHP 新書

井上史雄（2011）『経済言語学論考』明治書院

岩田一成（2010）「言語サービスにおける英語志向：「生活のための日本語：全国調査」結果と広島の事例から」社会言語科学 13(1), 81-94

佐藤和之（2009）「生活者としての外国人へ災害情報を伝えるとき--多言語か「やさしい日本語」か」日本語学 28(6), 173-185

庄司博史，P・バックハウス，F・クルマス編著（2009）『日本の言語景観』 三元社

谷川健一（1970）『わが沖縄 下 方言論争』木耳社

徳川宗賢（1999）「対談 ウェルフェア・リングイスティクスの出発」（特集 日本の言語問題）社会言語科学，2(1)，89-100

松田謙次郎（2008）『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房

村岡英祐他（2013）「外国人住民は被災情報をどう受容したか」社会言語科学 16(1)，39-48

山下暁美（2010）「外国人集住都市の言語景観--言語表示サービスの現状」 明海大学外国語学部論集 22，17-34

[1] Wikipedia には、以下のような区別が載っている。
1．一時避難場所
一時避難場所（いっときひなんばしょ（※一部の地域ではいちじひなんじょという）とは、災害時の危険を回避するために一時的に避難する場所、または帰宅困難者が公共交通機関が回復するまで待機する場所のことで、公園等の敷地内に建造物の無い場所が指定されている場合が多い。
行政上の一時避難場所は「延焼火災などから一時的に身を守るために避難する場所」のことを指す。地域住民等の集合・待機場所としての位置づけもある。このような目的から、小規模な広場（オープンスペース）が指定されている。この一時避難場所が危険になった際に、さらに規模が大きな「広域避難場所」へ、集団で避難することになる。
2．広域避難場所
広域避難場所（こういきひなんばしょ）とは、地方自治体が指定した大人数収容できる避難場所のことで、地震などの大きな災害時に使用される。
行政上の広域避難場所は「地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所」のことを指す。一時避難場所が危険になった際に、この広域避難場所に集団で避難してくる。
3.収容避難場所
収容避難場所（しゅうようひなんばしょ）とは、災害によって短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う施設のことで、地域の学校の体育館が指定されている場合が多い。行政上は「避難所」という。
[2] 「いっとき」か「いちじ」か、読み方不明である。
[3] 各自治体で他との連携なく訳したものと思われる。国民保護法で都道府県知事に権限を与えているのが問題の根源である。
[4] 「国民保護法」148 条では以下のように定めているが、地方自治体に任せており、用語の統一については、言及がない。
武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律
（避難施設の指定）
第百四十八条　都道府県知事は、住民を避難させ、又は避難住民等の救援を行うため、あらかじめ、政令で定める基準を満たす施設を避難施設として指定しなければならない。
2　都道府県知事は、前項の規定により避難施設を指定しようとするときは、当該施設の管理者の同意を得なければならない。

災害時の言語対策に関する考察

山下暁美
（明海大学）
auroralinda@nifty.com

要旨

日本国内では、海外からの労働力の受け入れや国際化によって、複数の民族が共存する地域が増加した。地域住民としての在日外国人の安全を確保するため、災害時に必要な日本語の整備が急務となる。

まず、調査結果によって、在日外国人の震災当時の状況やどのような問題を抱えていたのかを明らかにした。

さらにそれを踏まえ、本研究では、日本語を「命綱としての日本語」と位置づけ、「災害時命綱カード」を提唱するための必要語彙について考察した。

在日外国人を対象として実施した語彙調査の結果を、「重要度も理解度も高い」、「重要度は高いが理解度は低い」、「重要度は低くいが理解度は高い」、「重要度も低く、理解度も低い」に区分した。これをもとに「災害時命綱カード」に掲載する語彙を検討し、日本語教育教材への提言を行った。

【キーワード】災害時命綱カード、在日外国人、非日本語母語話者、日本語コミュニティ

はじめに

災害に遭遇したとき、我々はどのような言語活動を行うのであろうか。2011 年 3 月の東日本大震災は記憶に新しい。ひとくちに災害といっても天災、人災さまざまである。想定外の広域、複合災害の被災もありうる。

災害が起こった直後、マスメディアが不通になったなかで、現地で遭遇した人は、家族や友人の安否を気遣うのは当然のことであるが、まず被災者は自分のまわりに助けてもらえる人、助けなければならない人がいるか、いないかを確認するであろう。できれば現場にいる者同士で声をかけあいたいと思うであろう。その状況でまず言葉が必要になる。

当事者は、自分のいる現場と周囲がどんな状況におかれているのかについての情報を得ようとすると考えられる。周りに人がいれば、窮地を訴え、助けを求めるという行動に出る。また、助

けを求められる立場に立つこともある。少し時間が経つと周囲の対応の不備や遅れについて要求や不満を言うようになる。

このことから、被災地にあっては、自分がおかれている状況が説明でき、集団のリーダーの指示を理解して行動ができる、怒りや悲しみ、同情など、感情が伝えられるといった言語能力が必要になると考えられる。感情が伝えられることは健康にとって大切なことであると同時に、地域コミュニティの一員として同じ心境を分かち合えることを意味する。

災害発生直後からの言語能力と言語活動が生死を分ける点については、日本語教育の分野でこれまであまり考えられて来なかった。

「やさしい日本語」（弘前大学人文学部社会言語学研究室・代表佐藤和之 1999・2005）は多くの示唆を含んでいる。しかし、現状では公的機関に従事する日本語母語話者や庶民が「やさしい日本語」を理解し、マニュアルなしで使いこなせるかというとまだ時間がかかりそうである。通訳を配備するにしてもライフラインが優先され、最も必要なときには間に合わない可能性がある。

ならば少しでも在日の非日本語母語話者が日本語を理解し、説明できる力を培うほうが早道であるということが言える。もちろん、それだけではなくその間、前出の「やさしい日本語」を日本人が理解し、習得する必要がある。こうして日本語母語話者と非母語話者の協力が成り立ち、双方からことばの問題を解決できればよいと考える。

留学生の中には地震も津波も体験したことのない人がいる。日本が地震国であることを思うと、長期、短期を問わず、日本に滞在するすべての非日本語母語話者に何らかの身の安全に役立つ言語情報を提供することは急務である。

本研究は、福祉・環境言語学（welfare and environmental linguistics）の一分野と位置づけることができる。「人々の安全と予防」のための言語学である。なお、“welfare linguistics”は、故徳川宗賢氏（1999）が、“environmental linguistics”は故江川清氏が将来の言語学の役割について語っておられた概念である。どちらも我々を取り巻く言語的福祉環境の向上を目指す上で必要とされる視点と言える。

1．先行研究

河原（2011）によると、「言語サービス」は新しい概念で、つい 20 年ほど前にはそのような概念は生まれていなかった。しかし、外国人住民の増加にともなって、言語に関して、何らかの政策が必要という認識が 1990 年代から生まれてきたとしている。

瓜（2011:11）は、東日本大震災が起こったとき、関東地区で相当数の人々が自宅のテレビを視聴できなかったことについて、これ以上の深刻な事態になった時、人々が必要とする緊急情報をどのように伝えるのか、放送の内容のみならず情報伝達の仕組みについても検討が必要であると述べている。このような状況に遭遇した時の在日外国人への情報伝達についても大きな課題と言える。

山下（2012：8）は、2011 年 6 月に行なった震災時の調査の結果で、在日外国人のうち主婦

や店員の日本語の理解力が最も低かったと指摘している。主婦の多くは、日本人の夫の帰りを待つ以外、情報を得る手立てがなかったとか、妊婦が一晩中一人で押入れの中で耐えたことなどを報告している。こうした在日外国人の不安の受け皿がないことや日本人とのコミュニケーションのネットワークが確立していないことなどが日本語支援の前に立ちはだかる問題となっている。

同研究によって、日本語母語話者が言いかえた「やさしい日本語」（前出 1999・2005）より非母語話者が言いかえた日本語のほうが「やさしい日本語」になっていることが指摘されている。日本語非母語話者にとって「やさしい日本語」とは何かを考えるには、どう言いかえれば非母語話者にとってやさしいのかを検討する必要がある。

山下（2013：302-303）では、東北３県（岩手県、宮城県、福島県）で震災時に必要な語彙と表現について在日外国人対象に調査を行なった結果の分析をしている。理解度と重要度の調査結果を１．理解度（高）重要度（高）、２．理解度（高）重要度（低）、３．理解度（低）重要度（高）、４．理解度（低）重要度（低）に分けて考察を行い、特に「理解度が低く、重要度が高い語彙」について日本語非母語話者が平常時に学べるようにしておく必要があるとしている。

震災時の情報の収集について、村岡ほか（2013：43）は、東日本大震災直後、外国人住民は、安否確認をはじめ、被災情報、震災情報を、主に周囲の人々などその場のリソース、近所の知り合いや友人などの個人ネットワークによって取得したと指摘している。さらに、翌日以降になってライフラインや被災対策の情報は、自治会等の組織ネットワークによって取得されたと述べている。幅広い震災情報については、テレビやインターネットが利用された。外国人向け情報はほとんど利用されなかったと報告している。

このことは、常日頃から震災に関する用語を非日本語母語話者に紹介し、使えるまでになる準備の必要性を示唆している。

２．研究の目的

本研究の目的は、東日本大震災を体験した非日本語母語話者の意見を通して、安全な環境で安心して生活を日本で送るために必要な日本語とは何かについて考察し、具体的に災害時の日本語学習支援を行うための関連語彙の基礎データづくりである。

災害について学べるような地域の環境づくりが大切であることは言うまでもないが一つの手段として、『災害時の命綱カード』を提唱する。そして、在日非日本語母語話者の安全確保のための一助になることを目指す。

具体的には、在日外国人が震災の体験を通して、どのような語彙を重要または大切と考えるか、また、それらをどの程度理解できるかについて明らかにする。これまで「やさしい日本語」などは、日本人が中心となって考案して来た。本研究では、在日外国人が、重要と判断した語彙をめぐって理解度を明らかにし、いちはやく情報をキャッチし、発信するための災害関連語彙のリストづくりについて考察する。

３．研究方法

東日本大震災を体験している在日外国人を対象に面接調査を行った。条件としては面接に日本語で答えられる人を対象とした。調査項目は、震災時に関する項目、関連語彙の項目、フェイス項目であった。語彙の項目について意味が日本語で「わかる」、「わからない」を聞いたうえで、「わかる語彙」の重要度について、たいへん重要（必要）な言葉である（3 点）、まあまあ重要（必要）な言葉である（2 点）、どちらとも言えない（1 点）、重要（必要）ではない（0 点）、わからない（カウントから除外）を答えてもらい、点数化した。語彙項目の結果を 4 つのグループにわけた。すなわち「重要度も理解度も高い」「重要度は高いが理解度は低い」「重要度は低いが理解度は高い」「重要度も低く、理解度も低い」の 4 つである。また、語彙項目の回答の全体的な傾向をみるために、対応分析を試みた。

語彙項目について調査員が読み上げ、わかる項目には○印（2 点）、わからない項目には×印（0 点）をつけてもらった。少しわかると答えた場合は△（1 点）にした。次にその語彙が災害時の情報にとってどのくらい重要か（または、必要か、大切か）重要度順に３・２・１・０で答えてもらった。調査員は、インフォーマントがわからないと答えた語彙についてはシート（語彙リストで、漢字かな交じり、ローマ字、英・中・韓訳付）を見せて重要度を聞いた。そして、「正しいかどうかは気にせず、あなたの言葉で言ってください。あるいは、書いてください（時間の都合で 2 名を同時に面接した場合など）。」と依頼した。つまり、本人がその語彙を使う必要があったときどのように言うかということを調査した。中にはわかるので言い換えずそのまま言うという人もいた。

４．語彙リスト作成の手順

最終的に在日外国人に『災害時命綱カード・平成 25 年度共通語版』を作成するにあたって次のような手順をふんだ。まず、先行研究で取り上げられている資料を参考に 100 余りの関連語彙をリストアップした。

調査票に関連語彙としてあげたのは、候補の語彙をさらにしぼった 91 項目である。これらの関連語彙の選択には、佐藤（1999:37）、松田（1997:18）、弘前大学人文学部社会言語学研究室研究会（2005）、さいたま市（2012）、村岡（2011:5）、福岡県（2010）等を参考にした。関連語彙のリストを作成するたたき台の時点から在日外国人に参加を要請し、研究協力者として本学の大学院生（中国語母語話者および韓国語母語話者）が参加した。

在日外国人に質問をする語彙リスト作成について、最初に 120 余りの候補の語彙をあげた後、インフォーマントの負担と所要時間を考え絞り込んでいった。まず削除した項目は、地域性のある項目であった。例えば、「高層階」、「液状化現象」、「津波」などがその例としてあげられた。理由は、その地域に高層ビルに相当するものがない、液状化が起こらなかった、などである。津波については、震災時にニュースなどでよく使われるが、津波を心配する必要がない内陸地域もあり省略した。なお、津波はすでに tsunami として外行語になっていることも省略の理由であった。

「折り返し運転」「運転を見合わせる」については、第 1 次調査（山下 2012）で理解度が低い

ことが明らかになっている。しかし、震災直後の混乱にあっては一定の時間が経過したのち必要になる語彙で、当事者にとって優先度は高くないと判断して今回は省いた。次に、便宜上関連のある語彙を中心に4つの分野にわけた。4つの分野とは、現象関連語彙、健康関連語彙、環境関連語彙、事後行動関連語彙であるが、区分は厳密な分類ではなくインフォーマントにとっても調査員にとっても関連語彙が並ぶ方が質問しやすく答えやすいと考えたからである。91 項目にしぼった語彙をさらに理解度と重要度ではかり、理解度が高く重要度が低い項目を減らした。カードを作成するにあたり、最終的に語彙項目は 85 項目とし、3つ折り名刺サイズとした。名刺サイズにこだわったのは在日外国人がさいふやカード入れに入れて常に持ち歩き、電車の待ち時間や車中で時々見て覚えられるようにということを考えたためである。「重要度が低く、理解度が高い語彙」の省略については、5．で詳しく述べることにする。

5．調査結果の概要

5．1．在日外国人の環境

平成 25 年度の調査地域は千葉県と茨城県であった。平成 23 年、平成 24 年に引き続き、今回の調査は第 3 次調査となった。調査は、平成 25 年 6 月から 9 月の約 4 ヶ月で実施した。インフォーマントの全員が東日本大震災を体験している。国籍別にみると、中国（19 名）、フィリピン（9 名）、韓国（8 名）、台湾（4 名）、インド（4 名）、ベトナム（4 名）、インドネシア（3 名）、オーストラリア（2 名）、アメリカ（2 名）、タイ（2 名）、メキシコ（2 名）のほか、アイルランド、シンガポール、スリランカ、チリ、ネパール、パキスタン、ペルー、マレーシア、モンゴルがそれぞれ 1 名で、計 69 名であった。このうち千葉県在住は 38 名、茨城県在住は 31 名であった。調査地は、合わせて 25 の市町村である。

家族と同居している人は 70%（48 名）、一人で暮らしている人は 26%（18 名）、同国の友人と暮らしている人は 4%（3 名）であった。結婚している人は、74%（51 名）、未婚は 26%（18 名）で、既婚者のうち子どもがいる人の割合は、82%であった。年齢の平均は、40.1 歳で日本の社会で就労していることを反映した結果となった。職業別で示したようにこの中には専業主婦も含まれ、子育て中の母親も多いと思われる（本書「調査と結果の概要」参照、以下同様）。20 歳代は学生が多い。

日本在住の年数は、10 年以上が過半数を占め、定住化が読み取れる。また、インフォーマントの母語は多言語に及んでいることがわかった。日本語学習について、学習したことがない人はいない。複数回答で、独学経験のある人は 49%（34 名）、日本語学校で学んだことがある人は 54%（37 名）、大学は 32%（22 名）となった。

この 3 つの選択肢のうち、2 ケ所で学んだことがある人は 31%であった。教育年数について高等学校卒までの人が 32%（22 名）、大学卒の人は 45%（31 名）、大学卒以上（教育年数を聞いたため、大学院進学あるいは 2 つの大学を卒業など）が 19%（13 名）、無回答 4%（3 名）となった。比較的大学卒以上の高い学歴を有する人が多い。家庭内の使用言語は、日本語使用が圧

倒的に多い96%（66名）が、英語、中国語、スペイン語、ベトナム語、モンゴル語、タガログ語との併用も見られた。日本語以外の単言語使用者も少数いる。日本語は日本人の友人と話すときや家庭、仕事場、学校生活で話されている。ほとんど話さないと答えた人は1名であった。

メディア環境について聞いたところ、88%の人がパソコンを持っていた。1名を除いて全員がスマートフォンか携帯を持っていた。比較的恵まれた環境と言えるが、ラジオの有無に関しては、ないと答えた人が36%（25名）であった。ラジオは停電していても電池さえあれば情報が得られる点で便利だが、ラジオの必要性はあまり考えていないようである。ライト付きの携帯ラジオの必要性はもう少し認識されてもいいと思われる。

５．２．東日本大震災被災当時の在日外国人の状況

以下は、2011年3月の東日本大震災当時、千葉県、茨城県の在日外国人がどのような状況にいたかについて調査した結果の分析である。

震災時に一人だった人は全体の29%（20名）を占める。特に春休み中の大学生、専業主婦の中に一人だった人が多い。震災時に家にいた人は38%（26名）であったが、屋外にいた人は46%にのぼる。家族と最初に連絡をとれた人は68%（47名）で、この点は、スマートフォンや携帯が活躍する時代を反映している。地震に関する情報をどこから得たか(複数回答)について、1位はテレビ33%（29名）で、2位は人24%（21名）となっている。このことから情報を得るためにテレビによる映像や数字が参考になったとしても言語が必要であったことがわかる。また、人から情報を得た人も多かったことから調査では、関連語彙の習得の必要性を感じた人の声も聞かれた。

「助けてもらえる日本人や状況を聞ける日本人が周りにいるか」という質問に対して77%（53名）が「いる」と答えた。日本人と家庭を持っていることや、職場の同僚の中に日本人がいることが考えられる。その一方で22%（15名）の人は「いない」と答えている。「いる」と答えた人の周りの日本人は在日外国人の安全について常日頃災害時の対策を話題にして、話し合っておく必要がある。「いない」人について日本人コミュニティとの関わりの場を提供する必要がある。

「震災後最も困ったこと」は、1位が電気、2位が食料、3位が情報となっている。4位以下は、ガソリン、物が買えない、ガス、トイレの順であった。3位の情報がなくて困ったという回答については、地方自治体や地域のコミュニティが支援できる課題である。

「日本人にしてほしかったこと」の第1位は情報である。つまり、何が起こっているのか、自分はどうすればいいのか、まわりにいる日本人は今何をしようとしているのか、自分にできることはどういったことがあるのかなどを正確、かつ迅速にわかるように知らせてほしかったのである。インフォーマントの一人は外国人だからと言って孤立させないでほしいと訴えた。このことから「やさしい日本語」について、地域住民の在日外国人と日本人の双方が学ぶ必要があることを示唆している。

「地震等についての情報をほかの外国人や同じ国の人に話したか」という問（複数回答可）に

対して直接会って話した人は39%（29名）、メールなどで間接的に話した人は50%（37名）、誰とも話さなかったは5%(5名)、その他6%（3名）であった。そのとき何語で話したかについて聞いたところ、中国語、日本語、英語、タガログ語、スペイン語が上位 5 位を占めた。日本語が第 2 位に来ていることから、外国人同士のコミュニケーションにも日本語の需要が高いと思われる。

「家族以外で一番頼りになる人」（複数回答可）を聞いたところ、同国の友人 29%（23 名）、日本人の友人 24%(19 名)、隣人、会社の日本人の同僚がそれぞれ 9%（7 名）となった。在日外国人に頼られる存在として、日本人の友人や隣人、会社の日本人の同僚の立場にある人々は、在日外国人が地域社会の対等な構成員となるためのガイド役やサポート役が期待される。外国人にとって友人、隣人、同僚の立場にある日本人は、まずやさしくわかりやすい日本語の習得が必要である。頼れる人はいないと答えた人も 5%（4 名）いた。

「地震や災害体験を聞かれるのはいやか」という問いに 77%（53 名）が「いいえ」と答えた人が多勢であったが、一方で「はい」と答えた人が 20%（14 名）いた。恐ろしかった記憶を思い出したくないと思っている人がいることが示された。

6．語彙項目の分析とカード作成

茨城県と千葉県における語彙項目の重要度と理解度を見るために対応分析にかけた(図1)。重要度と理解度について、縦軸が重要度を示し、横軸が理解度を示しているが、度数の違いがきれいに分離された。2 本の矢印はそれぞれ重要度が高くなる方向、理解度が高くなる方向を示している。茨城県と千葉県の違いはほとんど見られない。

この分析により、矢印が交差している点から左上の部分にある語彙は、重要度が低く、理解度が高いことがわかる。矢印が交差している点の左下は重要度が高く、理解度も高い語彙である。同様に右下は重要度が高く、理解度が低い語彙である。また、右上は重要度が低く、理解度も低い語彙である。

災害時のカードに必要な語彙のうち、重要度が低く、理解度が高い語彙は省略しても比較的問題が少ないと考えられる。そこで、左上の語彙のうち、「問い合わせる」「無料」「住宅」「ヘルメット」「あかり」「医療」といった語彙を省略した。「問い合わせる」「無料」は、命にさほど関わらないと考えたので同様に省略した。「住宅」はほかに「建物」や「家屋」という語彙があるのでそれで代用した。「ヘルメット」は子どもたちが自転車通学する場合などに用いられていることを知っている人は知っていると思われるので不要である。また、各個人が家に「ヘルメット」を避難のために用意しているかというと現状は否であり、避難訓練等の行事で用いられる語彙でもあるので省略の対象とした。英語話者にはわかるということも他の理由として挙げられる。「あかり」については、「ろうそく」「懐中電灯」を優先した。「医療」は、「薬」や「病院」「救急車」「医者」「手当をする」「応急処置」「救助する」などの関連語彙があるので省略した。このように手作業ではあるが、最終的に語彙項目は 85 項目とし、3 つ折り名刺サイズのカードに収まる数の語彙を決めた。

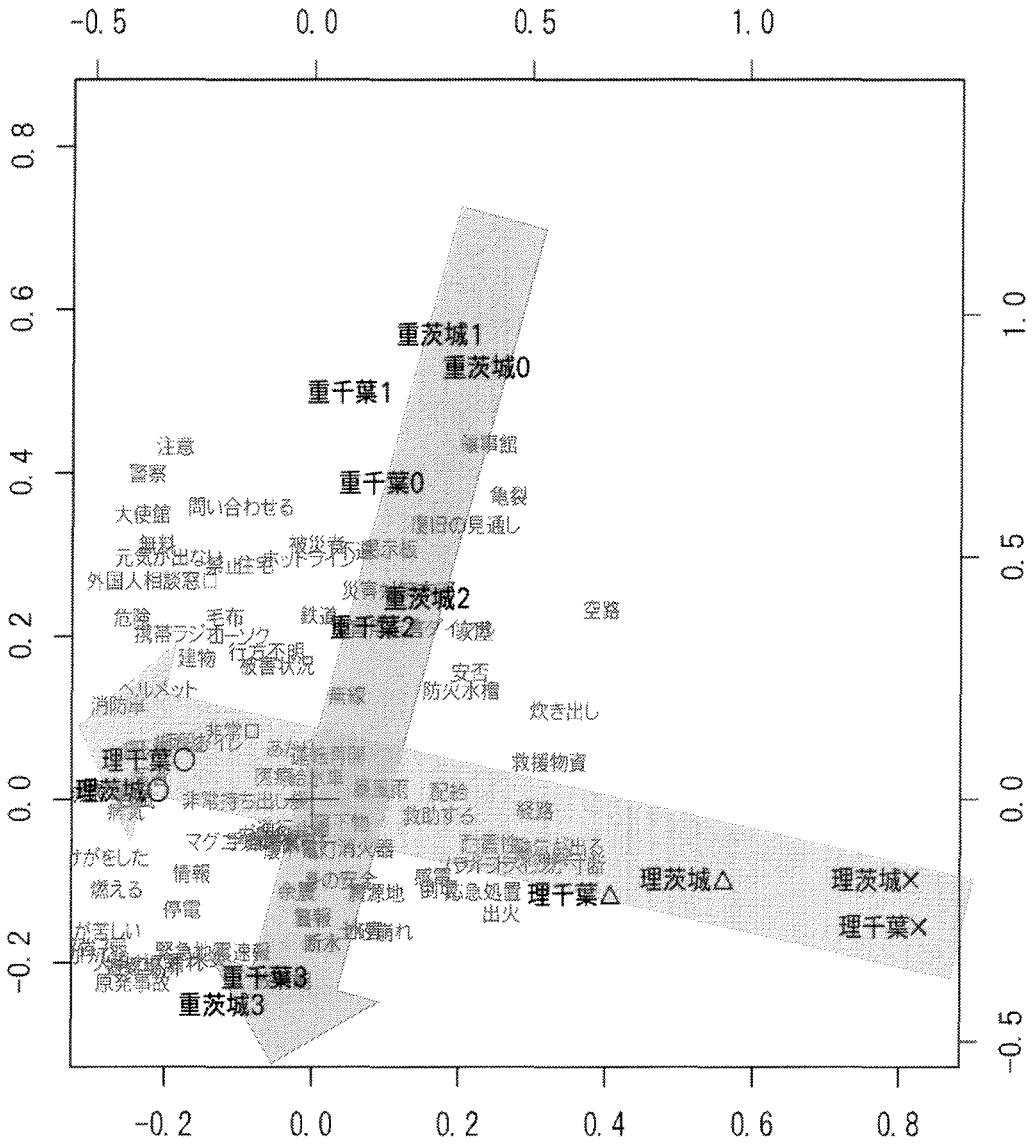


図1.　茨城県と千葉県の対応分析

語彙の重要度について千葉県と茨城県を見てみると対角線上に語彙が並ぶ。つまり、両県について重要度は大きな差はない。重要度が比較的低いと判断された語彙は下の方に来ている。逆に重要度が高いと判断された語彙は右上に位置している。地域差は見られないと考えられる。

7. 属性との関係における語彙の重要度の認識と理解度

千葉県と茨城県を合わせて重要度が高いにも関わらず、理解度が低い語彙と判定された語彙23語について、属性との関連を見た。23語それぞれについてインフォーマントが重要度×4段階（0・1・2・3）、理解度×3段階（○・△・×）のどれを選んだかを調べた。そのため1つの語彙が7回グラフ上に現れる。

属性項目のうち、以下の５つの項目を大まかに分類してどれを選んだか対応分析によって傾向を見ることにした。

１．職業（会社員、研修員、専業主婦、兼業主婦、公務員、その他）

２．在住歴（3 年未満、3 年以上 5 年未満、5 年以上、10 年未満、10 年以上）

３．日本語学習歴（独学、日本語学校、大学）

４．教育年数（13 年未満、13 年以上 17 年未満、17 年以上）

５．家庭内の言語（日本語のみ、日本語と外国語（母語）、外国語（母語）のみ）

その結果、重要度、理解度は、１．から５．の全ての項目と関連が見られた。職業との関連は図２　のようになった。

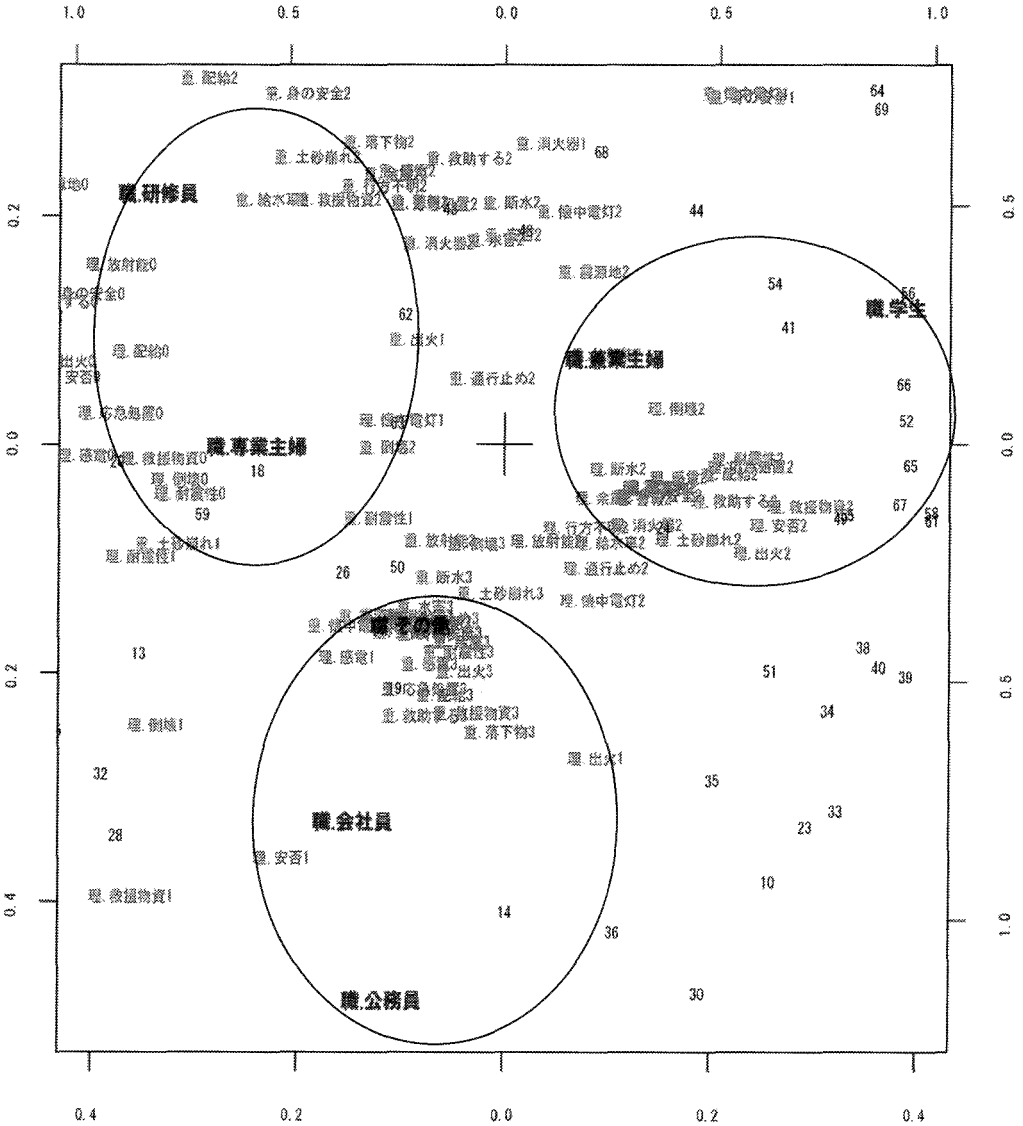


図２.　職業と語彙の理解度、重要度

図２　で、横軸は理解度を示している。横軸の理解度は、左に行くほど理解度が低い語彙である。また、右には、理解度が比較的高い語彙が並ぶ。重要度については，職業が「その他」のと

ころに重要度 3（最も重要）と判断された語彙が集中している。その他の職業には、塾の講師、通訳、弁護士、伝道師など比較的専門性の高い職業が含まれている。その他の専門職の人と、会社員、公務員を一つのグループととらえると、専門職や会社員、公務員の人々は関連語彙の重要性をよく認識していると言える。上方左に専業主婦と研修員があり、このグループは関連語彙の理解度が低いと思われる。右の学生と兼業主婦は日ごろから学習の機会が多いと思われ、理解度が高いグループである。重要度の認識も専門職や会社員、公務員に次いで高いグループである。この結果を見る限り、専業主婦、研修員の語彙についての重要性の認識と理解度を高める必要があると考えられる。

在住歴で見てみると長い期間居住している方 10 年以上の人と、3 年未満に重要度の認識が高い傾向が見られた。10 年以上日本に住んでいる人は当然ながら語彙の重要度も適切な判断ができると思われる。一方、3 年未満は学生と公務員であったので重要度が正しく認識されているという傾向が見られたと考えられる。ただし、人数は多くない。

語彙の重要度の認識について日本語学習のスタイルとの関係でみると、独学＜日本語学校＜大学の順に重要度の認識は高くなる。しかし、重要度が最も高い 3 の語彙は日本語学校で学んだあるいは学んでいる人の周囲に分布し、大学より日本語学校で学んだ（学んでいる）人の方が語彙の重要度についてよく認識している傾向が見られた。一方、理解度については、大学が最も高く、次いで日本語学校、独学の順に低くなっている。学歴では 13 年未満と答えた人の理解度が低い。家庭内の言語生活について日本語と母語の両語使用の人たちの重要度の認識と理解度が最も高かった。次いで高いのは家庭内で日本語のみを使用している人たちで、最も低かったのは、母語のみで生活している人たちで言語環境が重要度の認識、関連語彙の理解度に関わっていることが明らかになった。

8．まとめ

以上、本稿の前半では、どのように災害関連語彙を選び、名刺サイズのカードにするためにどのような手順で絞り込みを進めたかについて述べた。調査結果によって、在日外国人の震災当時の状況やどのような問題を抱えていたのかを明らかにした。

また、大震災を体験したインフォーマントが重要と考える語彙を中心に属性との関係における語彙の重要度の認識と理解度について述べた。

本研究で作成した『災害時命綱カード・共通語版』は、『災害時命綱カード』の岩手（盛岡）方言訳付、宮城方言訳付、福島方言訳付とシリーズをなすものである。『災害時に役立つ外国語の表示シート集』（横浜市国際交流協会 2001）などは、そのまま実寸大でコピーすれば使えるようになっているのに対して、本研究で作成したカードは、名刺サイズにこだわり、常に持ち歩けるカードにした。平成 25 年度版をもとに改良を重ね、少しでも多くの人々に役立つ成果物を提供していきたいと考えている。

最後になったが、分析については、高丸圭一氏（宇都宮共和大学・准教授）の協力を得た。深く感謝申し上げる。

参考文献

宇佐美洋ほか 2013「特集エンパワーメントとしての日本語支援について」『日本語教育』155 号 日本語教育学会 pp.2-4.

瓜知生 2011「3 月 11 日、東日本大震災の緊急報道は、どのように見られたのか」『放送研究と調査』ＮＨＫ放送文化研究所 pp.2-15.

河原俊昭 2011「地方自治体の言語サービス」『災害・震災時、情報弱者のための言語政策について考える』日本言語政策学会緊急研究報告会配布資料（社）日本語教育学会 2011 年 5 月

さいたま市保険福祉局 2008「さいたま市福祉防災マニュアル（住民編）災害時要援護者支援マニュアル」http://www.city.saitama.jp

佐藤和之 1999「災害時に外国人にも伝えるべき情報―情報被災者を一人でも少なくするための言語学的課題」『月刊言語』第 28 巻 8 号　大修館書店 pp. 32-41.

徳川宗賢 1999「ウェルフェア・リングイスティックスの出発」『社会言語科学』第 2 巻 1 号　社会言語科学会 pp.89-100.

弘前大学人文学部社会言語学研究室研究会 2005『新版　災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル』（代表　佐藤和之）
http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/newmanual/top.html

福岡県消防防災課 2010「子どものための防災 MAP」https://www.pref.fukuoka.lg.jp/

松田陽子 1997「非常時の対応のための日本語教育―阪神淡路大震災関連調査からの考察―」『日本語教育』92 号　日本語教育学会 pp. 13-24.、

村岡英裕 2011「地震被災時における外国人居住者の情報取得―浦安市の事例」『日本言語政策学会緊急研究報告会ハンドアウト』

村岡英裕ほか 2013「外国人住民は被災情報をどのように受容したか－浦安市の事例にみるレタラシー・ネットワークの意義」『社会言語科学』第 16 巻 1 号　社会言語科学会 pp.39-48.

村田和彦 2013「東日本大震災の教訓を踏まえた災害対策法制の見直し― 災害対策基本法、大規模災害復興法 ―」『立法と調査』　No.345 参議院事務局企画調整室 p.125.

山下暁美 2012「災害時の「やさしい日本語」再考」『東呉大學日本語文學系創系四十週年紀年 2012 年日語教學國際會議　大會手冊』東呉大学 pp.1-13.

山下暁美 2013「災害時の日本語－東北 3 県における在日外国人調査結果をもとに－」『東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（岩手県）』文化庁委託事業報告書 pp.291-307.

横浜市国際交流協会 2001『災害時に役立つ外国語の表示シート集』横浜市国際交流協会

外国人住民からみた方言と災害

—福島県在住外国人へのインタビューをもとに—

中川祐治（福島大学）
nakagawa@educ.fukushima-u.ac.jp

【要旨】

本報告は、福島県に暮らす外国人住民へのインタビュー調査をもとに、外国人住民の視点から語られた「方言」と「災害」に関わるトピックについてまとめ、整理したものである。外国人住民である調査対象者は、標準的なことばである共通語とあわせて、日常のことばである方言を用いる環境にあるが、これらと災害との関連、方言に対する意識やアイデンティティについて、外国人住民がどのように捉えているのか報告する。

【キーワード】外国人住民、方言意識、福島方言、東日本大震災、アイデンティティ

1．福島県の外国人住民の概要

福島県は、東北地方の最南端に位置し、東は太平洋に面する海岸線、南は茨城・栃木の両県、西南の一部が群馬県、西は大部分を新潟県、北を宮城・山形の両県に隣接する。2013年10月01日現在の推計人口は1,947,580人[1]、面積は13,782平方キロメートルで、全国では、北海道、岩手県に次いで3番目の広さを有する。また、地勢は、南北に走る阿武隈高地と奥羽山脈によって、浜通り、中通り、会津地方に三分される。また、福島県59市町村には県都となるような首位都市は存在せず、浜通りのいわき市（人口約33万人）、中通りの郡山市（人口約33万人）、福島市（人口約28万人）、会津の会津若松市（人口約12万人）といった、中都市によって構成される。これは、在留外国人[2]についても同様であり、郡山市（1,574人）、いわき市（1,484人）、福島市（1,323人）、会津若松市（665人）といったように、一つの地域や都市に集中するのではなく、各地域の中都市を中心とした多極分散型の傾向を示している。

また、その推移についてみると、1993年に7,430人であった在留外国人数は、2000年には1万人を超え、ピーク時の2005年には12,984人となる。それ以降、2009年までは1万2千人代で推移するものの、東日本大震災や景気後退に伴い、最新の2012年末現在では9,064人となっている。また、国籍別にみると、中国国籍が3,527人（38.9%）と最も多く、次いで、フィリピン国籍が2,054人（22.7%）、韓国朝鮮国籍が1,681人（18.6%）となっており、上位の3カ国で80%以上を占める。また、ピーク時の1997年には1,725人であった

ブラジル国籍の数が、2012 年には 174 人にまで著しく減少しているのも特徴的である。

また、性別・年齢からみると、20～40 代の女性が著しく多くなっており、これには日本人男性と結婚して定住する外国人女性の増加が背景にあるものと考えられる。また、このことは、国際結婚における男女の組み合わせの面からも裏づけられる。厚生労働省の『人口動態統計年報』によれば、日本全国における、2011 年の国際結婚の総数 25,934 組のうち、夫日本・妻外国の組み合わせが 19,022 組（全体の 73.3%）、妻日本・夫外国の組み合わせが 6,912 組（全体の 26.7%）であるのに対して、福島県では、2011 年の 172 組のうち、夫日本・妻外国の組み合わせが 157 組（全体の 91.3%）、妻日本・夫外国の組み合わせが 15 組（全体の 8.7%）と、夫日本・妻外国の組み合わせの割合が、全国よりも 18 ポイントも高いことから、福島県における結婚移住女性の多さをみてとることができよう。

2．調査の方法

以上のような現状をふまえ、今回は外国人住民（必ずしも現在、外国籍であることを問わない。帰化した人を含む）のうち、結婚移住女性を対象に、特に方言と震災に関する点を中心に聞き取り調査を行った。聞き取りは対面式のインタビュー形式で行い、半構造的面接法を用いた。調査期間は 2012 年 10 月から 2013 年 2 月まで、調査対象者は以下の 5 名である。

A：40 代女性・二本松市在住・中国出身
B：30 代女性・福島市在住（浪江町より避難）・中国出身
C：50 代女性・福島市在住・ブラジル出身
D：40 代女性・福島市在住・フィリピン出身
E：40 代女性・福島市在住・韓国出身

インタビューは録音を行い、逐語起こしを行った上で、言いよどみ（フィラー）や沈黙等を除き、会話の内容面を中心に抽出した。

3．調査の概要

以上のような調査にもとづき収集したインタビューデータについて、ここでは、内容（トピック）ごとに整理し会話例として掲げる。

3．1．方言一般に対する意識

ここでは、福島方言にかかわらず、方言一般、特に母国での方言に関わる話題があらわれている会話例を掲げる。【会話例 1】において A さんは、中国での方言矯正の教育について語り、必要性の点からそれを肯定的に捉える。また、【会話例 2】では、C さんから、ブ

ラジルの方言の多様性について、肯定的な評価とともに語られている。

【会話例 1】（N は調査者。以下同じ）

N：中国でご家族の方と話すときと、例えば中国の同級生とか学校で話すときってことばづかいって変えるんですか。方言というか、もともとの。あんまり変えないですか。

A：変えないです。

N：こちらで中国の方と、全然出身地が他の中国の人とかと話すときは、できるだけ北京語に近い、共通語に近いふうに話そうとかっていうのはありますか。

A：私、実家に帰っても普通に標準語で、うちのほうのなまりではあまりでてない。学校でもう先生に矯正されて、大体はなまってない。でも、よその県の人、省の人から聞くと、あっ、やっぱり東北ってわかるけども。

N：矯正って学校で矯正？

A：学校で直されるんですよ。中国語でピンインの勉強しますね。で、第一声、二声、三声、四声で、その音のとおりに発音しますから、で、うちの地域では三声が多いから。で、学校で…。

N：小学校で結構厳しくやるんですか。

A：そうです。

N：じゃあ、みんな大体小学生ぐらいで直っちゃうというか、矯正する…。

A：直る人と直らない人の、もう勉強はまあ、その辺に置いてるっていう子もいるじゃないですか。

N：ああ、そうか。じゃあ、直らない人はずっと直らない。

A：そうです。

N：なるほど。じゃあ、ある年齢より上の人は、小学校でそういう教育を受けてないから、ずっとなまったまま。

A：そうですね。今からすると、70 代ぐらいの人、うちの親くらいの年代の人かな。かなりなまってます。

N：若い人はもうほとんどきれいな共通語に近い音が出せる。

A：はい。

N：出せない人もいるけど、それは、どうでしたか。小学校のときはあまりわからないでしょうけど、そういう矯正されることとかというのは嫌だとか、きれいなほうをしゃべりたいとかって。

A：まあ、普通にそれ勉強だと思って、あまり違和感を感じなかったんですね。

N：今にして振り返ってみたらどうですか。いいことだなと思いますか。

A：今なら、うん、いいことだとは思いますよ。だって、昔、その地域内にいるとあまり関係ないかもしれないけど、あと、昔のままだと関係ないと思いますけど、今、インタ

ーネットとかやりますよね、パソコンとかって。発音が正しくないと字が出てこないから、日本語と一緒で。

【会話例 2】

N：C さんはどうですか、方言とかは残すとかっていうことについて。

C：そうですね。やっぱりそれは…あのう、文化のひとつですよね。今でしたらすごく、ブラジルでもそうですけどね、北から南、本当に言葉、違うんですね、なまりと。それで、あっ、あの人は東北の人だってわかるんです。ちょっと、リオデジャネイロですけど、カリオカ弁というのはちょっと赤ちゃんみたいなしゃべり方をするんですよね。普通の人が聞くとなんか子どもっぽいねって、でも、それはカリオカ弁で、それはその特徴ですからね。なくしたらやっぱりさびしいんじゃないすか、方言は。

N：結構、若い人たちはあまり使わない人たちも増えてますけれども、ブラジルでもやっぱり同じような感じになってますか。あんまり、方言がだんだんなくなっているような。

C：そうですね。方言…もちろん、今はどうしてもテレビとかね、グローバル化に、ブラジルなんかもどんどん進んでますけど、わたしは詳しいっていうのではないんですけれども、インタビュー聞くと、アマゾンのほうはもともとの先住民のね、ルーツがありますから、やっぱりちょっと聴き取れない部分ありますね。一番、共通語っていうんですか、やっぱりサンパウロ、リオあたりなんですけど、サンパウロから北のほうはどちらかというと文化が高い地域っていわれてる、その移民した人たちが多い地域なので、やっぱりヨーロッパの文化とかね。どうしてもアマゾンのほうはもともといた先住民、そういうもともとの文化がそこにまだ残ってるから、全く別世界なんですね、はい。

N：同じポルトガル語でも、少しこう違う。

C：もともと先住民が使ってたトゥピ・グァラニっていう言葉が交じってるんです。

N：交じってるんですね。

C：それは普通のブラジル人でもわからない。

N：へえ。イメージとして、ここの言葉がかっこいいとかおしゃれだとかっていうのはありますか。美しいとかっていう。

C：やっぱりサンパウロの人たちのは、結局、サンパウロは東京っていう感じで、やっぱりそこに住んでる人たちは…。でも、わりとブラジル人は自分の誇り高い国民なので、自分がいるところを一番誇らしげにしてますね。そして、南はね、ガウーショとかね、牧場経営しているちょっとカウボーイが多い。そういう人たちも、おれたちはカウボーイだ、みたいな感じで、誇らしくね、いってますから。きっとね、みん自分話してることはかっこいいと思ってます、きっと。あと、相手に対しては、ああ、なまってるっていうふうには言うんですけど、君はこっちの地方だろう、とかね。

N：そういうときに、あんまりその言葉で上下とか優劣とかっていうのはあまりないんで

すか。

C：ないです。わりとその辺は、ブラジル人のよさは、年齢関係なく、ほんとに好きなように話す。時にはかなり無礼なことを、親しい仲ほど無礼者になるんですけど、でも、それは許されるんです。それは親しい仲…、逆に、堅苦しいことがあるので、敬語で使うと、何、気取ってるのって、ちょっと、あの人はちょっとつき合いにくいっていうふうになるんです。

３．２．福島方言に対する意識

次に、福島方言について語られた会話をとりあげる。A さんには、インタビュー全般を通して、共通語、標準語志向がみてとれるが、【会話例 3】においても、福島方言に対する否定的な評価が具体的なショックを受けたエピソードとともに語られる。また、【会話例 4】からは、B さんが中立的な立場で福島方言について捉えていることがわかる。また、【会話例 5】から、C さんは、「のんびり」「穏やか」「素朴」といったやや肯定的なイメージで福島方言を捉えていることがわかる。

【会話例 3】

N：普段、東北方言とか福島の方言に対してどんなイメージ持っていますか。

A：田舎くさい。

N：田舎くさい。それ、最初から思っていましたか、来たときから。

A：最初はもうわからなくて。

N：わからないですよね。

A：だんだんと日本語分かってきてからそう思いますね。だって、もうかなり日本語話せるようになってからも、だって学校で習うというと、「行く」って、「行きます」とかって言って、急にある日、お義母さんが「行くべ」っていうことを言って、初めて聞いたとき、「行くべ」って、「行くべ」って何だ、行くのか行かないのかって、その「べ」がわからなかったんですよ。行くのか行かなかったのかわからなくて、でも、お母さん、「行くべ」と同時に動くじゃない。ああ、じゃあ、行くんだと思って。

N：「行くよ」ぐらいならなって。

A：そうです。やっとわかったのに、突然、「行くべした」って、何だよと思っちゃって。

N：なるほど。

A：それ、すごく困る。急に変わるし。

N：より上級の。

A：そう。

N：その田舎くさいというのは、どこらあたりからそう思いだしたんですか。どこらあたりからというのは変ですけど。

A：それもどこらあたりというのがわからなくて、ある日、突然、何だ、この人たち、田舎くさいと思っちゃうんですね。

N：へえ。大阪の言葉とか九州の言葉とかと比べても田舎くさいという感じですか。

A：そうですね。あと、多分、一番違和感感じたのが、違和感感じたというか、不愉快な思いしたんですよ。

N：不愉快な？

A：うん。中国に行ったときに、飛行機に乗って、なんかあの日のスチュワーデスさんが、中国の飛行機会社だから日本語話せなくて、隣に日本のおじさんが座ってたんですよ。そのおじさんが、スチュワーデスさんが言ったことわからなくて、どんな弁当頼むか、何飲み物飲むかわからなかったので、こっちもこっちも困ってて、通訳して。で、終わったでしょう。用が済んでからおじさんから何言われたと思う？

N：わからない。

A：福島から来たでしょうって言われたんです。それがすんごいショックだったんですよ。

【会話例 4】

N：さっきの話ですけど、福島の浪江の方言というのは好きですか、それとも嫌いですか、それとも好きとか嫌いじゃないですか。

B：嫌いでもないですね。

N：愛着は感じますか。

B：はい。

N：ちょっと話すのが自分で恥ずかしいと。

B：はい、ちょっと言えないんですけど。

N：お子さんに浪江の方言を覚えて、そのまま子どもの子どもとかというふうにつなでいってほしいとかという気持ちはありますか。

B：そういう気持ちはあまりないです。多分、自然に覚えれば別に構わないですけど、でも、子どもたちもわかってるんですよ、言ってることは。ばあちゃんがいつも言ってるから。でも、言えない、言わないだけで。でも、そこまでこう、浪江の言葉、ずっと自分の先祖代々とか続いていってねとかって、そこまではしないかもしれないですね。

【会話例 5】

N：福島の方言のイメージっていうのはどうですか。

C：最初は、のんびりしてる…、のんびり、穏やかかな。全体のイメージは穏やか、平和。

N：少し田舎とか、かっこいいとかっこ悪いとかっていうイメージはありました。

C：ああ…かっこいいという特にランクはないですね。

N：ランクはない。

C：ない。どっちかというと素朴なね、やっぱり地方らしい、地方の言葉。

N：さっき、お子さんが東京に行ったときに、むしろかっこいいといわれたって。

C：そう。ああ、すごいねって言いました。福島弁がかっこいいっていわれると、きっと福島のね、人も喜ぶんじゃないかなと思いましたね。

N：一般的にはね、ちょっと恥ずかしいから、東京に行ったらできるだけ話さないように。

C：それが逆でしたね。全然、堂々と福島弁で話してましたね。

３．３．方言使用とアイデンティティ

ここでは、具体的な方言使用の場面と、それにともなうアイデンティティについて語られている会話を抽出した。一般的に、外国人住民は方言使用についての限界があり、その使用機会は制限されている。また、いわゆる「正しい日本語」を話したいという欲求がつよく、それらがあらわれた会話例が多くみられる（【会話例 6】【会話例 7】【会話例 8】）。

その一方で、【会話例 9】のように、入院時に、方言で優しいことばをかけられたことによって福島方言へのイメージが変わったという語りや、【会話例 10】のような語りからは、方言が、「いつ」「どこで」「誰から」「どのように」使われたかによって、アイデンティティの形成や再構築をなし得ることがあることがわかる。また、親しみをあらわすストラテジーとしての方言という、ことばの力を感じとることもできる。

【会話例 6】

N：方言はどうですか。ふるさとのつながりとかというのの一つ。

A：ふるさとと…。

N：大切だと思いますか。方言というのでみんながつながるというのの、言葉って…。

A：大切っては思ってないんです。

N：思わない？

A：だんだんとね、なくなるんだったらなくなってもいいって思うんです。

N：それはハルピンも同じ考えですか。あそこの東北部の方言というのをいつまでも残したいとか。

A：別に残さなくてもいいと思う。その国、その国、一つの言葉にまとめられるんだったらそれが一番ベストじゃないですか。

N：ああ。あんまりそこの人たちのまとまりの象徴みたいので言葉とか方言とかという、アイデンティティのためにとかというの。

A：そんなもん必要ですか。私の感覚ではもう別にいいっていう感じ。

N：懐かしいとかはないですか、帰ったときに。ハルピンの言葉を聞いて、懐かしいな。

A：懐かしい…、あんまり言葉って懐かしいって思わないですね。物が見たりとか人見たりとか、うん、思ったりするけど、言葉聞いたら、うん。私って冷たいなとかって。

N：いや、わからない。そうですか。でも、結構合理的な考え方ですよね。

A：だな。例えば、うん、ずっと会ってない人に会ったら懐かしいとか、建物とかって、そんな感情はわいてきますね。言葉ってあまり感じなかったんですね。

N：へえ。ああ、この言葉を聞いて久しぶり、懐かしいなとかというのも…。

A：ない。

N：じゃあ、そんなに愛着とかというのないんですね。

A：ないですね。やっぱりある人はあるんだ。

N：ある人はあるのかな。

A：わからない。私、冷たいかな。

N：じゃあ、二本松市の今の福島方言もそんなに愛着はないですか。

A：うん、あまりね。なければないで便利と思ってるんです。

N：みんなが共通語を話してくれたほうが便利だなって。

A：そう思います。

【談話例 7】

N：これまで、方言に関して普段、日常的に使っているということはありましたか、意識して。

B：私は方言とかはあんまり使わないですね。

N：全然使わない？

B：はい。

N：そうですか。そうでしたか。あまり普段から使っている意識というのがない？

B：ただ、でも、聞いてるとわかるんですけど、でも、自分からなんか言おうとはしてないし。

N：聞いたらわかりますか。

B：わかりますね。

N：それはどこで覚えたというか。

B：なんか日本に来たばっかりのとき、津島だったんですよ。津島って、すごい方言とかいっぱい使ってるんですよね。ばあちゃんたちが結構、方言とか使うんですよ。でも、ちのだんなが、なんか、ばあちゃんの話は覚えちゃだめだよとかって言われて、それを覚えちゃうとなんか辞書とかで調べると出てこなかったりとかすると困るから、だから、もう自分で辞書見て、あとテレビとか、そういう標準語だけ覚えてねとかって言われて、そんなふうになったんですけど。

N：じゃあ、ご主人さんはあまり方言は使わないですか。

B：私とはあんまり使わないんですよ。

B：はい。ほかのご家族と話するときは普通にこう話するんですけど、私とだけはなるべく、なんかこう標準語で言うようにしてて。

【談話例 8】

N：最初に来たときにわからないときっていうのは、どういうふうな気持ちというか、どういうふうに思いましたか。

D：やっぱり、自分のことばかりお話ししてるんじゃないかっていうか、あと、何言ってるのかわからないから、怒ってるかどうか、だいたい日本人って、話して、大きい声で言うじゃないですか。怒ってるのかなと思って、おばあちゃんが。だから、わからないから。

N：その声が強く感じる。

D：そうそう、そうですよね。

N：で、おばあちゃんは何か言ってました。

D：なんか言ってるから、最初わからないっていって。

N：ご近所の方というのは方言を使うんですか。

D：あまり聞いてないんですね。

N：じゃ、一番困ったのは、その、おばあちゃんが話すとき。

D：おばあちゃんと、おばあちゃんの親戚が来ると、結構、方言使うので。だいたい方言って「だべえ」でしょう、それしか、だいたい聞いてるけど、深いの、たまにあるからわからない。

N：D さんは話すんですか。

D：あの、最初ころは結構方言使いましたね。やっぱり、それ聞いてるから、それ話してるんで、大笹生の＊＊＊＊＊に行くと、なんか言葉別みたいですよね。で、あたし言ってることがなんかわからないんだって、日本人が。ええっと思って、どうしてと思う。笹谷と、田舎、あたしのほう田舎だからかな。で、あんまり正しい…方言は正しいなんですけど、ただ、お話のときにはあんまり使わないみたいから、あれからもうあんまり使わなく。

N：最初はじゃあ使ってたんですか。

D：使ってたんですよね。すごい、なんか、福島弁使ってた。

N：もう最近は使わなくなった。

D：もう使わないんですね。

N：へえ。それは何で変えたんですか。やっぱりわからないから。

D：わからないから、最初はそれ正しい、それが丁寧な日本語かなと思って使ってたんだけど、やっぱり、こっち都会っていうか、福島市内のほうに出たら、それ、丁寧じゃないみたいに気づいたんですね。

【会話例 9】

N：ちょっと方言のことを教えていただきたいなと思ってるんですけど、いわきのときは、もちろんいわきにも方言があると思うんですけど、最初は聞いてわかりましたか。

E：最初は、まあ、そんなにはわからないけど、まあ、「だっぱい」とかさ、それはよく聞いた。それはよく、「だっぺ」とかさ、そういうのはよく、たまにね、仕事をしてる人たちがたまにね、言ってることはわかったんだけど、そんなにはあんまり言わないね、やっぱりね。たまには言ってる人がいましたね。

N：それは、わからないときっていうのはどうされてたんですか。

E：うーん、その言葉しか、わたしが気づいたのはその言葉しか、これは表現のなまりだなっていうことはわかったんだけど、それだけだったんです、そっちにいるときは。でも、こっちに、福島に戻ってからは、うん、会津の方言が、結構なまりが結構、うちのお母さんが、うちのばあちゃんが結構いつもそういう感じで使ってるから、もう、今も常にそういうふうな言葉に慣れてます。家族同士で、うちの＊＊といっしょに話するときは、それがもう楽になっちゃってるような感じ。「んだべ」「んだべした」とか。

N：へえ。じゃあ、自然と方言が身について。

E：そういうふうに身について、そっちのほうが自然と流れちゃうんですよね。ちょっと親しくなっちゃうと、それに慣れてくるんですよね。最初会ったときはあんまり言わないけど、ちょっと親しくなっちゃうと、「んだべしたあ」とかさ、そういうような言葉に出てしまう。

N：最初、戸惑ったとかわかんなかったってことはありませんでした。そのお母さん、おばあちゃんと話しているとき。

E：戸惑ってるっていうよりも、もう、すごい方言で言ってるから、なまりで言ってるから、そんなものじゃない。やっぱりじいちゃん、ばあちゃんはね、みんなそういうあれがあるから、そういうことなのかなと思って、おっぽってるとき聞いてみると、あまりよくない方言のアクセントかなと思ったんだけど、わたしが病院に入院して、子ども産むときね、そうしたら、周りの人たちが、結構すごいやさしい、気持ちのいい、あの、方言にもなるんだなっと思ってね。「んだべしたあ」とか、こういう。うちのばあちゃん、いつも怒るとき、「んだべしたー」「んだべー」とかいいながら、そういう言葉ずっと聞いていて、だから、周りのこうおばさんたちが、「んだべしたあ」とか「んだべえ」とか、そういうふうに言うから、ああ、なまり、結構やさしい言葉もあるんだな…。

N：最初はどっちかとうと強い、きついっていうイメージだったんですね。

E：ええ。うちのばあちゃん、結構ちょっといらいらっぽいだったので、いつもそういう方言でしゃべってる言葉がいつもいらいらしてるような方言だったから。

【会話例 10】

N：じゃ、うまく使い分けてるっていう感じですか。

E：そうですね。どこでも使っちゃいけないから、やっぱりちょっと、仲間同士でちょっとこう、わいわい、そういう雰囲気だったら、たまに「いいべはあ、もう、いいじゃないがあ」とかさ、そうふうに言うけど、きちんとしたね、初対面とかは、やっぱり言えないでしょう。それはあるでしょう、やっぱりね。だから、ちょっと仲よくなれてもいいんじゃないかなって、そういう感じたから、やっぱり、たまに取り入れたりとかすると、やっぱり距離感は縮まるよね。

N：結構意識して使うっていうときもあるんですね、方言を。

E：ええ、ええ、わざと。

N：わざと。

E：わざと。なんか高そう…ちょっとこう近づきにくいとか、あんまりニコニコしないとか、そういうような雰囲気持ってるんだったら、ちょっとこう、和らげたほうがいかなって思ったときは、うん、そういうふうな、たまにね。「んだべしたあ」とかそういうふうに、「いいべえ」とか、そういうふうに言ったりとかもするときもあるんです。そうすると、さりげなく自然とね、縮んで、距離が縮まれて、ちょっと自然と心が通じ合ってるような感じにもなる場合もあるから、方言はそういうときいいかなって思いますね。ちょっとやっぱり、上品に見えたいときはどうしても方言はあんまり使わないけど、仲よくなりたい、距離を縮めて、早く共通感を感じたいなと思ったときは、すごくなまりは助かりますね。

３．４．東日本大震災と方言

ここでは、東日本大震災と方言との関わりについて語られた会話を抽出した。中でも、【会話例 15】の B さんのことばには、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故によって避難を余儀なくされた人々の方言への思いがつよくあらわれている。

【会話例 11】

N：じゃあ、特に震災の関係で言葉で困ったとかというのはないですか。

A：なかったと…。

N：方言とか。

A：うん、震災ではなかったんですね。

N：方言にかかわらず、日本語でもこれが通じなかったから困ったとか、例えば、原発とか放射能とかというのも、普段ほとんどそれまでは全く、私もそういうの使うような言葉じゃ…。

A：でも、結局うちは漢字の国だったから、もう字見て大体、あっ、こういうことだって

はわかったけど、結局、わからないのが、放射能で出てきたいろんな元素、名前が。

N：ああ、シーベルトとか。

A：そうそう。それがもう全部片仮名でしょう。片仮名が弱くて、なかなか覚えられなくて、急に新しいことがどーんといっぱい出てきたじゃないですか。もう何が何だか訳わからなくなったのはそっちのほうですね。

N：私なんかも全然、セシウムとか、今まで使ったこともないし、聞いたこともないね。

A：ですよね。その測る単位も急に変わったりもするじゃん、テレビで報道したから。

N：そうですよね。

A：え、何でこれ、大きいのか小さいのかわからなくなって、そっちのほうが困ってたんです。

【会話例 12】

N：その避難所に一緒にいる方と話すときというのは、方言で話すわけですか、それともそのときの言葉は…。

B：でも、向こう、なんか避難したとき、結構こう浪江のちょっとお年寄りの方が結構いたんですよ。でも、その方はみんなこう方言で話してるんですけど、でも、私が聞くとき方言で聞いて、返すときはこう普通に。

N：じゃあ、聞くのはわかるわけですか。

B：大丈夫です。

N：じゃあ、特に困ったということはないですか。避難所の生活とかで方言で困ったとか。

B：困ったことはないですね。

N：言葉で困ったというのはないですか。

B：はい。

N：で、B さんが標準語で話しても、相手の方はわかるんですか、お年寄りの方。

B：わかります、はい。

N：わかるんですね。じゃあ、そういう形で、聞くのは方言で聞いて、話すのは標準語という感じだったんですね。

B：自分で方言、言えないんですね、何だか。

【会話例 13】

N：D さんはすぐこっちに、協会に来たんですか。

D：あの…2 日後電話が来て、外国人だれもいないので、あの、援護できる方がいないから、出れないんですかっていって、出てきて。

N：ボランティアの人たちとかといっしょに仕事したりっていうのはありましたか。

D：ボランティアの、あんまり、あの、わたしの団体が避難所に行ったときに、あんまり、

いろんな…何ていうの、福島の方じゃないしね、京都とか、横浜とか、だから、お話は普通の日本語使ってた。

N：避難所で、例えば避難される方っていうのは、方言話しますよね。D さんと話すときは。

D：方言って使ったのかな。

N：あまり方言じゃなかったんですか。

D：普通の日本語ですね。あんまり…なんか、あの…あんまりなかったね。1 回ぐらいかな。「よかんべ」っていって、こうやってとか。

N：それはどうしてそのときに、「よかんべ」っていう。

D：炊き出しやってて、で、帰らないでいるからって、いっしょにやってみたいな。「よかった」みたいな言い方してるのかなっていって。

【会話例 14】

N：福島の方言も同じような気持ちですか。

D：そうですね、やっぱり。福島から来たから。東京と福島は比べられない。もう、福島のほう住みたい、東京より。東京、人多いでしょう。

N：その福島に対する気持ちっていうのは。

D：もう、第二ふるさと。だから、今、こうなると、前のふるさとに戻り…前の福島、戻りたいなって、自然がいっぱいあるところ。本当に福島は原発なければすごい普通ですよね。だって、あんまり地震の影響ないし。

N：津波もないですし。

D：ないし。だから、すごいいいところだった。ただ、その原発だけが。

N：最初に来たときっていうのはどういう気持ちでしたか、福島に。

D：福島は、最初は、もう平和の…場所っていうか、そして、すごい何でも新鮮な野菜とか果物の、わたし、果物も、果樹園の近くなんですよね、住んでるの。だから、何でも新鮮なものとか。

N：最初からもう気に入ったというか、好きになりましたか。

D：あんまり、住んでるところすごい離れてるから、あの、不便ですよね、最初は。でも、だんだん住んで、そして東京とか行ったら、福島のほうがいいって、やっぱり。住むなら福島。

N：その、震災と、震災の前とあとで、そういう福島に対する気持ちって変わりましたか。

D：変わらないですね。

N：変わらない。

D：福島は、愛してる。わたしはこっち、人生の半分は福島ですから、だから。

N：フィリピンのご家族から、例えば避難してきなさいとかっていうのはありませんでし

た。

D：ありました。もう何度も。

N：そうですか。

D：強制的があったときに、帰らなかったないのは、自分だけ帰んなかった、残ってたから、すごい…。

N：それはどういう気持ちからですか。

D：何ていうかな、それも、家族もここにいるから、もちろん。そして、あの時、わたしだけじゃなくていろんなフィリピンの方たちが残ってたんですよね。その方たちを手伝いをする方がいなくて、わたし行ったら、彼らはかわいそうだなと、言葉あんまりわかんないから、だから、残る決心をしました。

【談話例 15】

N：さっきちょっと方言の話もですけれども、お祭りもそうなんですけど、ふるさととか地域を結ぶという意味でこういうお祭りとかというのはありますけど、方言というのがやっぱりこうありますかね、地域を結ぶとか。

B：でも、なんか、何ていうのかな、これ、今みんな今避難してばらばらじゃないですか。それってどこかにあって、ああ、私も浪江だって、たまにこう浪江の話ってすると、なんかすごくなんか落ち着いたりとかするんじゃないかなって思うんですよね。

N：B さんもありますか、同じ浪江の人と、方言話さないんですけど。

B：方言じゃなくても、なんか浪江の人だ、同じ浪江の人だっていうだけでも、すんごくなんかこう、何ていうのかな、すごくお互いに頑張ろうねとかって、その話にもなったりとかするし、なんか懐かしいって、そういう、前いた子どもたちの下の子のなんか、震災前は 2 年生だったんですけど、下の子が、1 回、猪苗代のほうに集まったんですよ。でも、集まって、本当にみんなばらばらで、1 年半ぶりに会ったんですよね。だからみんな、会った瞬間にみんな泣くんですよ。何で泣くのかって、わかんないんだけど、すんごくなんかこう、久しぶりで懐かしいとか、そういうのでみんな泣いてるんですよ、もう、そのとき。だからもう同じ浪江だとかって、その気持ちだけでもすごくこう助かるんじゃないかなと思うんですよね。あと、その、自分がいつも話してた言葉、今までは他のところにいて、ちょっと我慢してたんですけど、浪江の方言で 2 人で話したりとかすると、なんかすごく楽になったりとかはするんじゃないかなと思うんですよね。私も最初こう日本に来て、日本語あんまりわかんなかったんじゃないですか。で、それで、たまになんかこう、同じ中国の人と話して、中国語で話しすると、ああ、すごく楽になったって、今までのストレスがぱっとなくなったって、別にストレスっていうか、どんなストレスとかっていうとわかんないんですけど、ただ、ただなんかこう、自分が言いたいこと言えなくて、そういう我慢とかっていうのもあるんですよね。私がその言葉を

聞いたんだけど、意味はわかってるんですけど、その言葉に対して返す言葉を自分で言えないのがすんごくストレスになったりとかはするんですよ。だから、それで同じ中国人として、なんか行ったり来たりする会はあって、それですごく助かったんですよね、私は、もうストレス解消になったりとかして。

N：やっぱりちょっと遠慮するというのはあるのかもしれないですね。

B：そうですよね。

N：浪江から、それこそ荒井に移ったとして。

B：はい。例えば福島はまだちょっといいかもしれなないけど、例えば浪江から東京のほうに行ったとかというと、多分、まだ今もいろんなあるんじゃないですか。なんかこう、向こうの放射能がついてるとかって、なんかいじめ問題とかってあるんじゃないですか。そういう面を考えたりとかすると、なんか浪江の田舎弁をちょっと我慢する人も多いと思うんですよね。その中でなんかみんなで、今もたまにあるんですけど、どこでみんなで会いましょうとかって、そういうの、イベントとかあるんですよ。例えば東京だったらどこでみんな浪江の人、集まろうとかって、そういうのイベントあって、仲間、浪江の人たちでみんな集まって、方言でしゃべったりとかすると、すごくなんかストレス解消になるんじゃないかなって思うんですよね。

4．結び

一般に、外国人住民は共通語志向がつよく、方言に対してマイナスイメージを持っていることが多い。その一端は、上掲の実際の会話例からもうかがい知ることができる。それは、外国語として日本語を後天的に習得し、日常的にコミュニケーション上の障害を抱えていることに起因するのであろう。

その一方で、福島県住民として長く地域コミュニティの中で暮らしているうちに、生活の場としての福島県に対して深い愛情を抱くようになっていることがわかる。皮肉なことに、そのことは東日本大震災という未曾有の災害によって意識化されている。中でもBさんは、福島第一原子力発電所の事故による避難地域となった浪江町に居住しており、津波と原発事故によりコミュニティが分断され、人々のつながりも分断された。Bさんは、自身が中国出身者として言葉によるストレスを感じた経験を子どもに重ね合わせ、「自分がいつも話してた言葉、今まではほかのところにいて、ちょっと我慢してたんですけど、浪江の方言で2人で話したりとかすると、なんかすごく楽になったりとかはするんじゃないかなと思うんですよね」と語る。

今回の大震災を通して、外国人、日本人を問わず、日常のことば、生活のことば、自分たちのことば（＝方言）という、あまりに当たり前で空気のような存在が損なわれるということの意味の大きさを突きつけられた。そして、否応なくその重みを意識せざるをえない状況となった。このことは、長い時間をかけて私たちが考え続けていかなければならな

い大きな課題であり、これを解決することが地域コミュニティの復興のためにも必要不可欠であろう。

付記

本報告の調査および調査結果は、2012年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（福島県）」による。また、その内容の一部は、『2012年度文化庁委託事業報告書 東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（福島県）』に記載している。

〔注〕

[1] 福島県のホームページ「福島県の推計人口」による。

[2] 以下、福島県の在留外国人に関するデータは、『福島県の国際化の現状』（福島県生活環境部国際課 2013）による。

外国人が言い換えた「やさしい日本語」

-茨城県・千葉県におけるインタビューを通して-

中西太郎（明海大学）
nknshtr@meikai.ac.jp

【要約】

本稿は、茨城県・千葉県在住の外国人を対象にして、災害時におけるコミュニケーションに必要な用語を「やさしい日本語」へ言い換えてもらう調査の結果を報告し、外国人が言い換えた「やさしい日本語」を検討・提案した。具体的には、理解度の低い災害時の用語上位10語についてという言い換えの提案（「常備薬」⇒「いつもおいてある薬」など）をするとともに、在住外国人が「やさしい日本語」への言い換えに外来語を使用している実態がある、より簡単な語を用いて言い換えを行っているなどの知見を得た。

【キーワード】 やさしい日本語、災害時コミュニケーション、在住外国人、命綱としての日本語

1．はじめに

本稿では、2013年6月～9月に、茨城県、千葉県で行った、災害時の日本語によるコミュニケーションに必要な用語、「命綱としての日本語」についての調査の結果を報告する。

調査は、外国人の災害時におけるコミュニケーションの問題を解決するため、前年度に作成した災害関連用語に対訳（ローマ字表記・英語訳・中国語訳・韓国語訳）をつけたカード、「救急文箱」（写真１）を洗練し、より有用な対訳カードを作成することを目的の一つとして行われた。

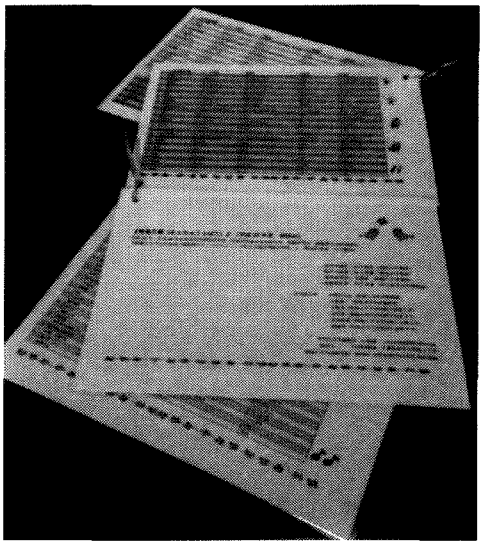


写真１．救急文箱

調査のうち、言語に関する項目では、救急文箱に掲載している91語について、それぞれの語の①理解度と②重要度を尋ね、さらに、それぞれの単語について③「あなたが考えるやさしい日本語でこの語を言い換えるとどのようになりますか」といった質問で、外国人の目線で、災害時の用語の言い換え案を回答してもらった。

このうち、①理解度と②重要度の調査結果及び分析は、本書の山下が報告している。本稿で扱うのは、③、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の調査結果である。

2．外国人が言い換えた「やさしい日本語」着想の背景

本節では、まず、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の概念と背景について述べる。

1995年の阪神淡路大震災に端を発し、それ以来、災害時における外国人への情報支援のあり方の問題は我が国の課題となっている。その中で、緊急時の情報を伝えるための手段として「やさしい日本語」が提唱され、実用化されるようになった（弘前大学人文学部社会言語学研究室研究会 1999、2005 など)。「やさしい日本語」とは普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことである。あえて簡単な日本語を選ぶのは、情報伝達の緊急性を要する災害時に翻訳する手間も少なく、母語話者なら誰にでも扱えて、日本に住む外国人、出身国別の多寡も踏まえた上で、皆が普段触れており、最も多くの人に情報を伝えられる言語として考えられるからである。

その理念には大いに共感するが、現行の「やさしい日本語」は、まだ解決すべき課題がある。例えば、佐藤は、「やさしい日本語」実用化にあたっての課題として、「その課題は、現在、日本政府は日本国内にいる外国人の日本語能力を把握していない点です。そのため日本語能力3級以上の人には理解してもらえるように作られている「やさしい日本語」が、どのくらいの人数に有効であるかは未知数です。」と述べている。こういった課題を踏まえると、より多くの在住外国人に情報を伝達するには、現行の「やさしい日本語」の基準、日本語能力 3 級に拘り過ぎることなく、情報を受容することになる在住外国人の視点で、「やさしい日本語」を考えることが、実態に即した「やさしい日本語」提案のための一つの選択肢として考えられる。

山下(2012)は、そのような問題意識のもと、大震災直後、浦安市の在住外国人を対象に、外国人が言い換えた「やさしい日本語」について、調査を行っている。その分析結果では、「日本人が考えるより外国人は多く外来語を使用している」こと、「日本人が考えた「やさしい日本語」より、外国人の日本語のほうが語彙総数は増えるもののさらにやさしい日本語になっていた」ことなどが指摘されている。そして、「やさしい日本語」について外国人の意見を導入する必要があるとの示唆を示している。これは、「やさしい日本語」をより有用なものにするという視点から言っても大変重要な指摘であり、外国人が言い換えた「やさしい日本語」について、その可能性を検討する必要があることを示している。

そこで、2013年における調査において、外国人が言い換える「やさしい日本語」を調査項目に据え、より本格的に調査するに至った。

3．言い換え案の検討対象

前節では、外国人が言い換えた「やさしい日本語」への言い換え案検討の必要を訴えたが、本調査で対象とした 91 語、すべてについて言い換える必要があるというわけではない。実態に即した言い換えの採用を考えるならば、在住外国人の理解度の低いものが優先して検討されるべきである。そこで本稿では、今回の調査で、理解度について「分からない」の割合が高い（＝理解度が低い）語、上位10語について、外国人が言い換えた「やさしい日本語」案を示し、検討したい。「分からない」の回答が多かった上位10語は、表1のとおりである。

表１．理解度が低かった上位 10 語

1	救援物資	56.5%
2	炊き出し	55.1%
3	勧告が出る	53.6%
4	空路	52.2%
	常備薬	52.2%
6	ハザードマップ	49.3%
	ライフラインが寸断	49.3%
8	経路	47.8%
9	応急処置	46.4%
10	出火	44.9%

（各語について、{○分かる／△分かるけど自信がない／×分からない} の 3 段階で尋ね、そのうち×の割合のみを集計した値）

以降の節では、これらの語について、まず、辞典による意味説明を示す。その際参照するのは、日本最大の国語辞典『日本国語大辞典』とする。

その上で、弘前大学人文学部社会言語学研究室の Web サイト「減災のための「やさしい日本語」」の言い換えと、本調査による外国人が言い換えた「やさしい日本語」言い換えの代表的なものを提示する。そして、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の中に有用なものがあるか、その特徴を踏まえて検討し、提案する。

３－１．外国人が言い換えた「救援物資」

今回、最も理解度が低かった語は「救援物資」である。

「救援物資」は、『日本国語大辞典』にも項目が見られず、意味説明が確立していない。

「やさしい日本語」では、次のように示される。

（1）「減災のための「やさしい日本語」」

地震・津波で　たいへんな人の　ための　物

(http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/tabu-touhoku86.html)

類義語「支援物資」⇒

毛布や　おむつなど　生活に　必要なもの

(http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/tabu-touhoku56.html)

これらの表現は、「救援物資」をやさしく言い換えるのに適している。

一方、本調査で得られた回答のうち、3 級以下の単語で構成されたものとしては、「いろいろ大切なものをくれる」、「必要なものを届けてくれる」、「物をくれる」などがある。ここでは、救援物資として送られてくるものの多様さを考慮に入れ、（2）を合わせて提案したい。

（2）救援物資：いろいろ大切なものをくれる、必要なものを届けてくれる

３－２．外国人が言い換えた「炊き出し」

「炊き出し」について辞書の意味説明は以下の通り。

（3）たき-だし【炊出・焚出】

［名］大勢の人に飯をたいて出すこと。特に、火事、洪水、地震などの非常時に、飯をたいて被災者に配ること。　（『精選版　日本国語大辞典』）

「やさしい日本語」では、次のように示される。

（4）「減災のための「やさしい日本語」」

あたたかい　食物(たべもの)を　作(つく)って　配(くば)る

(http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/tabu-touhoku90.html)

避難所(ひなんしょ)などで　みんなの　食物(たべもの)を　作(つく)って　配(くば)る

(http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/tabu-touhoku70.html)

これらの表現、特に「避難所などで　みんなの　食物を　作って　配る」は、「炊き出し」をやさしく言い換えるのに適している。

一方、本調査で得られた回答のうち、3級以下の単語で構成されたものとしては、「ご飯を作ること」、「家で作れないときごはんを出してもらう」「食べ物をもらえる」「大変な時の食べ物」などがある。また、「フードプロバイディング」、「フリーごはん」などの回答もあった。ここでは、（5）を合わせて提案したい。

（5）炊き出し：大変な時の食べ物

３－３．外国人が言い換えた「勧告が出る」

「勧告が出る」について辞書の意味説明は以下の通り。

（6）かん-こく【勧告】

［名］ある行動をとるように説きすすめること。また、指揮命令の関係のない行政機関が、互いに自主性を尊重しつつ、相手の機関の任務達成について、専門的立場からの意見を提供すること。　（『精選版　日本国語大辞典』）

「勧告が出る」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3級以下の単語で構成されたものとしては、「危ないと言われる」、「大切なお願いが出る」、「注意」などがある。さらに、この言い換え案の回答には特徴的な傾向が見られた。それを示した言い換え案の回答内訳は表２の通りである。表は、話者の出身により、漢語・外来語の使用など、言い換え傾向が異なる可能性があるため、非漢字圏（表中、「非漢」と示す）／漢字圏（表中、「漢」と示す）、それぞれ別に集計を示した。なお、回答 31 には「勧告が出る」と言い換え前のままの表現があるが、これは考えてもらった結果、思いつかないなどの理由で、そのままの表現でよいとした回答などを示している。

表２を見ると、「information（インフォメーション）」、「アドバイス」、「アドバイスが出る」、「アドバイスをあげる」、「いいアドバイス」、「スピーカーでサイレン」、「リコメンデーションリーブス」と、外来語による言い換えが複数回答されている。外来語は、「やさしい日本語」の言い換え規則でなるべく使わないことが推奨されているが、一部の在住外国人には、馴染みのある簡単な語として認識されている可能性がある。今後、より多くのデータで

の検証を要する。

表２．外国人が言い換えた「勧告が出る」集計

	勧告が出る	非漢	漢
1	information(インフォメーション)	1	
2	SOS	1	
3	アドバイス		1
4	アドバイスが出る		1
5	アドバイスをあげる		1
6	いいアドバイス		1
7	こうしてほしいという知らせ	1	
8	スピーカーでサイレン	1	
9	やった方がいい知らせ	1	
10	リコメンデーション　リーブス	1	
11	意見		1
12	意見を言う		1
13	危ないと言われる	1	
14	教え	1	
15	緊急の事	1	
16	緊急情報	1	
17	説得する		1
18	大事の言葉		1
19	大切なお願いが出る	2	
20	大切な指示	1	
21	注意		1
22	注意しようという気を付けること		1
23	注意の知らせ	1	
24	津波があるときは役所の人から警告	1	
25	避難してください	1	
26	避難してください/避難勧告が出る		1
27	避難しなきゃだめ	1	
28	避難する方がいいと進めること		1
29	必要なこと	1	
30	必要な情報を出すこと	1	
31	勧告が出る	1	3
	総計	19	12

以上のような特徴が指摘できるが、ここでは、より原義に近いものとして、（７）を提案したい。

（７）勧告が出る：危ないと言われる、大切なお願いが出る、注意

３－４．外国人が言い換えた「空路」

「空路」について辞書の意味説明は以下の通り。

（８）くう-ろ【空路】

［名］交通機関として航空機を用いること。　（『精選版　日本国語大辞典』）

「空路」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。一方、本調査で得られた回答のうち、3 級以下の単語で構成されたものとしては、「飛行機」、

「飛行機を乗ること」、「飛行機を利用してどこかへ行く」などがある。ここでは、（9）を提案したい。

（9）空路：飛行機、飛行機を利用してどこかへ行く

３－５．外国人が言い換えた「常備薬」

「常備薬」について辞書の意味説明は以下の通り。

(10) じょうび-やく【常備薬】
［名］平常備えておく薬。医者、薬局、家庭などでいつも用意しておく薬品。
（『精選版　日本国語大辞典』）

「常備薬」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3級以下の単語で構成されたものとしては、「いつもおいてある薬」、「いつも家にある薬」、「普通の生活でいつも使う薬」などがある。ここでは、(11) を提案したい。

(11) 常備薬：いつもおいてある薬、いつも家にある薬、普通の生活でいつも使う薬

３－６．外国人が言い換えた「ハザードマップ」

「ハザードマップ」について辞書の意味説明は以下の通り。

(12) ハザード-マップ
［名］(英 hazard map) 災害予測地図。防災のために、災害発生確率を図にしたもの。
（『精選版　日本国語大辞典』）

「ハザードマップ」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3級以下の単語で構成されたものとしては、「危ない場所の地図」、「危険な所安全な所」、「準備のための地図」などがある。

また、この項目にも、言い換え案によく現れる外来語がある。言い換え案の回答内訳は表3の通りである。「マップ」、「安全マップ」、「緊急マップ」、「被害予測マップ」など、「マップ」という単語がよく回答される。この項目については「ハザードマップ」そのままでよいとした回答も多い。例えば「マップ」という語は、ほぼ「地図」と等価で用いられ、受け入れられていると思われる。こういった単語については、特に非漢字圏の人に通用しやすい表現として、採用を検討してもよいものと考える。今後、より多くのデータでの検証を要する。

表３．外国人が言い換えた「ハザードマップ」集計

	ハザードマップ	非漢	漢
1	{防災/避難}地図		1
2	ピカピカ	1	
3	マップ		1
4	安全マップ	2	
5	危ない場所の地図	1	
6	危ない地図		1
7	危険な所安全な所	1	
8	危険な色の地図	1	
9	危険を表す地図		1
10	緊急マップ	1	
11	警告の地図	1	
12	災害が発生する可能性がある地域		1
13	災害の時に行ける場所	1	
14	準備のための地図		1
15	震災、火事などのほしい地図		1
16	地図	2	4
17	逃げる道路、行き所		1
18	被害予測マップ	1	
19	防災のところ		1
20	防災地図		1
21	良いとダメなところの地図	1	
22	ハザードマップ	7	2
	総計	20	16

ただし、今回得られた回答の中からは、ここでは、(13) を提案したい。

(13) ハザードマップ：危ない場所の地図

３－７．外国人が言い換えた「ライフラインが寸断」

「ライフライン」、「寸断」について辞書の意味説明は以下の通り。

(14) ライフ-ライン

［名］(英 lifeline) 都市生活の維持に必要不可欠な、電気・ガス・水道・通信・輸送などをいう語。多く災害対策との関連で取り上げられる。生命線。(『精選版　日本国語大辞典』)

(15) すん-だん【寸断】

［名］細かく切りきざむこと。ずたずたに切ること。また、そうなった状態。

(『精選版　日本国語大辞典』)

「ライフラインが寸断」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3級以下の単語で構成されたものとしては、「ガス電気水が使えません」、「生活に必要な物がない」、「電気、水、ガスが止まる」などがある。この項目にも、よく現れる外来語がある。言い換え案の回答内訳は表４の通りである。

表４．外国人が言い換えた「ライフラインが寸断」集計

	ライフラインが寸断	非漢	漢
1	インフラが使えない	1	
2	ガス、電気などが使えなくなる	1	
3	ガス電気水が使えません	1	
4	ライフライン	1	
5	ライフラインがない		1
6	ライフラインが使わない、こっちからだめ	1	
7	ライフラインが止まる	1	
8	ライフラインが切れちゃった	1	
9	ライフラインが崩れる	1	
10	ラジオの電波が届かない		1
11	安全がない		1
12	携帯やPCが使えない	1	
13	使えない	1	
14	事故		1
15	水・電気がない	1	
16	水が届かない		1
17	水とかが使えない	1	
18	水や電気がなくなる	1	
19	水電気ガス止まる	1	
20	水電気食べ物がない		1
21	水道、ガス、道路がダメになった	1	
22	生活ができなくなる		1
23	生活が止まった	1	
24	生活が止まる	1	
25	生活が不便	1	
26	生活に必要な物がない	1	
27	生活の水・ガス・電気全部切れた		1
28	生活ライン寸断		1
29	電気、水、ガスが止まる	1	
30	電気、水道、全部今使ってはいけません		1
31	電気・電話が止まった	1	
32	電気やガスがダメ	1	
33	命に係わる物がない		1
34	命を助けられるもの	1	
35	ライフラインが寸断	3	4
	総計	26	15

特に「ライフライン」という単語が多いことが分かる（回答 4～9、35）。この「ライフライン」は、「やさしい日本語」にするための 12 の規則（「減災のための「やさしい日本語」」）による説明で、「カタカナ・外来語はなるべく使わないでください」の中に、注意を要する語として載っている。

（16）例．ライフライン…日本語では、電気・ガス・水道などの生活に必要な設備のことを意味します。しかし、英語では「命綱」を意味するので、外国人には誤解されやすいことばです

（減災のための「やさしい日本語」＜http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ9tsukurikata.ujie.htm#4＞（2013 年 12 月 1 日））

しかし、この言い換え案の実態を見ると、非漢字圏の外国人でも、日本の外来語としての「都市生活の維持に必要不可欠な、電気・ガス・水道・通信・輸送など」を指す意味を受け入れている可能性がある。また、「生活ライン」(回答 28) と、一部を置き換え、分かりにくさを解消しようとする回答も見られる。今後、より多くのデータでの検証を要する。

以上のような指摘ができるが、ここでは、(17) を提案したい。

(17) ライフラインが寸断：生活に必要な物がない、電気、水、ガスが止まる

3－8．外国人が言い換えた「経路」

「経路」について辞書の意味説明は以下の通り。

(18) けい-ろ【経路・径路・逕路】
[名] あるものが通っていく道。通り道。　(『精選版　日本国語大辞典』)

「経路」について「減災のための「やさしい日本語」」では、次のような例が見つかる。

(19)「減災のための「やさしい日本語」」
(運行)　経路　⇒
(走(はし)る)　道路(とうろ)
(http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/sira-bus.html)

この表現は、「経路」をやさしく言い換えるのに適している。

一方、本調査で得られた回答のうち、3 級以下の単語で構成されたものとしては、「通る道」、「逃げる時行く道」、「歩く道」などがある。ここでは、(20) を合わせて提案したい。

(20) 経路：通る道

3－9．外国人が言い換えた「応急処置」

「応急処置」について辞書の意味説明は以下の通り。

(21) おうきゅう-しょち
[名] 急場の間に合わせるためにとりあえず施す処置や手当て。応急措置。
(『精選版　日本国語大辞典』)

「応急処置」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3 級以下の単語で構成されたものとしては、「最初に病気の人に薬をあげる」、「最初自分でやる」、などがある。ただし、これら 3 級以下の単語で構成された表現は、応急処置の言い換え案として、妥当かつ十分と言えないように思われる。ここでは、今回の調査で得られた回答の範囲での最上の案として (22) を提案したい。

(22) 応急処置：最初に病気の人に薬をあげる

３－１０．外国人が言い換えた「出火」

「出火」について辞書の意味説明は以下の通り。

(23) しゅっ-か【出火】
［名］火事を出すこと。火災が起こること。　　(『精選版　日本国語大辞典』)

「出火」について「減災のための「やさしい日本語」」では、言い換え例が見られない。

一方、本調査で得られた回答のうち、3 級以下の単語で構成されたものとしては、「火が出た」、「火事が出た」、「火が始まる」などがある。ここでは、(24) を提案したい。

(24) 出火：火が出る、火が出た

４．外国人が言い換えた「やさしい日本語」の全体の傾向と課題

以上、本稿では、茨城県、千葉県で行った「命綱としての日本語」についての調査で、理解度が低かった上位 10 語について、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の調査結果を検討し、その中から一定の言い換え案を提示してきた。

山下 (2012) は、これらの外国人が言い換えた「やさしい日本語」は、よりやさしい日本語になっていたと指摘しているが、今回のデータについて、全体の傾向を単語の難易の面で見ると、次のようになる。

表５．外国人が言い換えた「やさしい日本語」表現の難易内訳

	語彙総数（延べ語数）	級外	1級	2級	3級	4級	その他
救援物資	136	3%	4%	14%	24%	55%	4%
炊き出し	137	4%	1%	13%	12%	70%	1%
勧告が出る	101	5%	13%	11%	18%	54%	2%
空路	64	6%	2%	9%	11%	72%	3%
常備薬	89	4%	0%	8%	13%	74%	1%
ハザードマップ	77	13%	6%	14%	17%	49%	0%
ライフラインが寸断	163	7%	1%	7%	20%	65%	1%
経路	62	10%	6%	5%	13%	66%	0%
応急処置	150	3%	11%	6%	16%	63%	0%
出火	58	10%	2%	10%	22%	55%	2%

どの項目でも、日本語能力 4 級の日本語がほぼ 50%を超えており、3 級の単語ですら、20%前後しか用いておらず、まさに「やさしい日本語」となっていることがわかる。在住外国人の方々に「やさしい日本語」への言い換えを考えてもらうことで、その人たちの実態に合った「やさしい日本語」への言い換え案が得られると言えるだろう。

ただし、どの表現の言い換えも、3、4 級の語が合わせて 80%前後以上を占めているのに対し、「勧告が出る」、「ハザードマップ」は、70%前後とやや低い。このことから、項目によって、より「やさしい日本語」への言い換えがしやすいものとそうでないものがある、と

いうことが言える。

最後に、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の検討を行うことで見えて来た「やさしい日本語」に関するいくつかの知見と課題について、報告する。

(25) 外国人が言い換えた「やさしい日本語」の評価について
外国人が言い換えた「やさしい日本語」のわかりやすさ、正確さなどを、「やさしい日本語」と比較しながら、非母語話者に評価してもらう必要がある。

(26)「やさしい日本語」のやさしさのあり方について
外国人が言い換えた「やさしい日本語」の実態も視野に入れて、「やさしい日本語」の「やさしい」の基準を検討する必要がある。

(27)「やさしい日本語」考案の方法について
災害時の用語についての「やさしい日本語」での言い換えを、母語話者の目線と非母語話者の目線、両方から検討する必要がある。

5.【資料】外国人が言い換えた「やさしい日本語」の上位 10 語の言い換え

本文で取り上げたものも含め、今回の調査で得られた、外国人が言い換えた「やさしい日本語」の言い換え案の集計一覧を、本節に示す。

表6．外国人が言い換えた「救援物資」／「炊き出し」集計

	救援物資	非漢	漢		炊き出し	非漢	漢
1	いろいろ大切なものをくれる	1		1	いろんなところでもらう食べ物		1
2	もらえる	1		2	ご飯	1	
3	もらえる食べ物	1		3	ご飯を作って配る		2
4	もらえる物	1		4	ご飯を作る	1	
5	レリーフサプライ	2		5	ご飯を作ること		1
6	安全なことを配ること	1		6	ご飯を炊いてみんなにあげる		1
7	寄付された物とか被災者にあげる		1	7	ご飯を炊きました		1
8	救助の物		1	8	そこで作る		1
9	緊急のもの	1		9	その場で作って配る		1
10	持ってきてくれる		1	10	フードプロバイディング	2	
11	助けてもの		1	11	フリーごはん	1	
12	助けてもらえるもの		1	12	家で作れないときご飯を出してもらう	1	
13	助けること	1		13	救済		1
14	助けるためのもの	1		14	共同で食事を作る	1	
15	助けるための贈り物	1		15	災害時にくれる食事	1	
16	助ける物	2		16	作ってごはんを分けてくれる	1	
17	助け物	1		17	食べ物もらうの所		1
18	食べ物、ふとん、毛布とか危ない時配るもの		1	18	食べ物をもらう	1	
19	食べ物や水などを配る	1		19	食べ物をもらえる	1	
20	人を助けるためのもの	1		20	食べ物を作ったり配ったりする	1	
21	人を助ける物		1	21	食べ物を出してもらう	1	
22	足りないものをもらう	1		22	食べ物を出す	1	
23	地震の時まわりから助けるために送られてくるもの		1	23	食べ物を配っている	1	
24	被害の時あげるもの		1	24	食べ物を配る	1	
25	被災者たちに手伝ってあげる物		1	25	食べ物を配ること	1	
26	必要なもの	1		26	食べ物作る	1	
27	必要な物を届けてくれる	1		27	人を助けるために作る	1	
28	必要な物を分けてくれる	1		28	大変な時の食べ物	2	
29	物をくれる		1	29	被災地にお金あげること		1
30	無料でくれる、もらえるもの	1		30	米を炊いたりご飯作ったり被災者に助けてあげる		1
31	救援物資	2	4	31	炊き出し	2	3
	総計	24	15		総計	23	15

表７．外国人が言い換えた「勧告が出る」（再掲）／「空路」集計

	勧告が出る	非漢	漢
1	information(インフォメーション)	1	
2	SOS	1	
3	アドバイス		1
4	アドバイスが出る		1
5	アドバイスをあげる		1
6	いいアドバイス		1
7	こうしてほしいという知らせ	1	
8	スピーカーでサイレン	1	
9	やった方がいい知らせ	1	
10	リコメンデーション リーブス	1	
11	意見		1
12	意見を言う		1
13	危ないと言われる	1	
14	教え	1	
15	緊急の事	1	
16	緊急情報	1	
17	説得する		1
18	大事の言葉		1
19	大切なお願いが出る	2	
20	大切な指示	1	
21	注意		1
22	注意しようという気を付けること		1
23	注意の知らせ	1	
24	津波があるときは役所の人から警告	1	
25	避難してください	1	
26	避難してください/避難勧告が出る		1
27	避難しなきゃだめ	1	
28	避難する方がいいと進めること		1
29	必要なこと	1	
30	必要な情報を出すこと	1	
31	勧告が出る	1	3
	総計	19	12

	空路	非漢	漢
1	Air way/飛行機行ける		1
2	エアルート	1	
3	スペース	1	
4	帰る時(帰国のための人	1	
5	空いている道	1	
6	空の移動	1	
7	空の道	2	
8	飛ぶ物の道路	1	
9	飛行機	6	5
10	飛行機({飛ぶ/飛べない})		1
11	飛行機/航空線路		1
12	飛行機が使う道路		1
13	飛行機が通る道	1	
14	飛行機が飛ぶ道		1
15	飛行機の場所		1
16	飛行機の道	4	1
17	飛行機を乗ること		1
18	飛行機を利用してどこか行く		1
19	空路	1	3
	総計	20	17

表８．外国人が言い換えた「常備薬」／「ハザードマップ」（再掲）集計

	常備薬	非漢	漢
1	Medicine	1	
2	いつもおいてある薬	1	
3	いつもよく使う置いておいた方が良い薬		1
4	いつも飲んでいる薬	1	
5	いつも家にある薬	1	
6	いつも使う薬	1	2
7	いつも持ってる薬	1	
8	ガーゼとか包帯とか		1
9	すぐ使える薬	1	
10	メディスン	2	
11	自分が必要な薬	1	
12	自分でよく使う薬	1	
13	常に準備する薬		1
14	常に用意する薬		1
15	常備くすり	1	
16	大切な薬	1	
17	日常用の薬		1
18	普段使っている薬		1
19	普通の時飲む薬		1
20	普通の生活でいつも使う薬		1
21	風邪薬とかアルコールとか		1
22	薬	12	3
23	常備薬	2	3
	総計	27	17

	ハザードマップ	非漢	漢
1	{防災/避難}地図		1
2	ピカピカ	1	
3	マップ		1
4	安全マップ	2	
5	危ない場所の地図	1	
6	危ない地図		1
7	危険な所安全な所	1	
8	危険な色の地図	1	
9	危険を表す地図		1
10	緊急マップ	1	
11	警告の地図	1	
12	災害が発生する可能性がある地域		1
13	災害の時に行ける場所	1	
14	準備のための地図		1
15	震災、火事などのほしい地図		1
16	地図	2	4
17	逃げる道路、行き所		1
18	被害予測マップ	1	
19	防災のところ		1
20	防災地図		1
21	良いとダメなところの地図	1	
22	ハザードマップ	7	2
	総計	20	16

表９．外国人が言い換えた「ライフラインが寸断」（再掲）／「経路」集計

	ライフラインが寸断	非漢	漢
1	インフラが使えない	1	
2	ガス、電気などが使えなくなる	1	
3	ガス電気水が使えません	1	
4	ライフライン	1	
5	ライフラインがない		1
6	ライフラインが使わない、こっちからだめ	1	
7	ライフラインが止まる	1	
8	ライフラインが切れちゃった	1	
9	ライフラインが崩れる	1	
10	ラジオの電波が届かない		1
11	安全がない		1
12	携帯やPCが使えない	1	
13	使えない	1	
14	事故		1
15	水・電気がない	1	
16	水が届かない		1
17	水とかが使えない	1	
18	水や電気がなくなる	1	
19	水電気ガス止まる	1	
20	水電気食べ物がない		1
21	水道、ガス、道路がダメになった	1	
22	生活ができなくなる		1
23	生活が止まった	1	
24	生活が止まる	1	
25	生活が不便	1	
26	生活に必要な物がない	1	
27	生活の水・ガス・電気全部切れた		1
28	生活ライン寸断		1
29	電気、水、ガスが止まる	1	
30	電気、水道、全部今使ってはいけません		1
31	電気・電話が止まった	1	
32	電気やガスがダメ	1	
33	命に係わる物がない		1
34	命を助けられるもの	1	
35	ライフラインが寸断	3	4
	総計	26	15

	経路	非漢	漢
1	どこを行くか決まったところ		1
2	ひとつの所から違うところまでの間		1
3	ルート	1	1
4	行き方、道	1	
5	行く道	2	4
6	地図に書いてある道	1	
7	通っていく道	1	
8	通る道	1	
9	渡る道、行く道	1	
10	途中の道		1
11	逃げるとき行く道	1	
12	逃げる道	3	
13	道	5	3
14	道をどういうふうに行くか	1	
15	道路		1
16	避難の地図		1
17	避難場所の地図	1	
18	歩く道	1	
19	経路	2	4
	総計	22	17

表 10．外国人が言い換えた「応急処置」／「出火」集計

	応急処置	非漢	漢
1	けがの時とりあえずやった方がいいこと		1
2	けがをしてすぐに痛みをとること	1	
3	すぐに手当てをすること	1	
4	ファーストエイド	3	
5	怪我するとき医者がいない、 まわりの人が怪我した人を 怪我を簡単に処理するすること		1
6	危ない時一時的に処置する		1
7	急いで血がでていたら助ける		1
8	急いで手当てをする	1	
9	急に怪我したら手当する		1
10	救急		1
11	救急の手術		1
12	救急処置		1
13	緊急の使いもの		1
14	緊急の時に大切なこと	1	
15	緊急処置	1	1
16	最初に病気の人に薬をあげる	1	
17	最初自分でやる/最初やる助かる	1	
18	事故のとき怪我があったらすぐに血を止まる方法	1	
19	治療	1	
20	手伝う	1	
21	手当て	1	1
22	助けて		1
23	助けようとしている	1	
24	人を助ける	1	
25	非常する時の手当て		1
26	病院へ行く前にする手当て	1	
27	薬どこにある	1	
28	応急処置	2	3
	総計	20	16

	出火	非漢	漢
1	fire		1
2	ご飯作ったりするとき不注意		1
3	バーンド	1	
4	ファイアーになりそう	1	
5	ファイヤ	1	
6	火がありそう	1	
7	火が始まる	1	
8	火が出た	2	1
9	火が出ます	2	
10	火が出る	5	6
11	火が燃えます	1	
12	火事	3	3
13	火事が出た	1	
14	火事が発生した		1
15	火事の動詞		1
16	最初燃えたところ		1
17	大火事	1	
18	燃え始めている	1	
19	出火	5	3
	総計	26	18

参考文献

井上裕之（2011）「大洗町はなぜ「避難せよ」と呼びかけたのか」『放送研究と調査』第 61 巻 9 号，32-53.

庵功雄 ・岩田一成・森篤嗣（2012）「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え―多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて」『人文・自然研究 』第 5 号，115-139.

坂内泰子（2013）「「やさしい日本語」の普及をめぐって」『神奈川県立国際言語文化アカデミア紀要』第 2 号，65-74.

柴田武（1999）「「緊急言語」を“保険”のつもりで―応用言語学の課題―」『言語』第 28 巻 8 号 26-31.

弘前大学人文学部社会言語学研究室研究会（1999）『災害が起こった時に外国人を助けるマニュアル』

弘前大学人文学部社会言語学研究室研究会（2005）『新版　災害が起こった時に外国人を助けるマニュアル』

村上聖一（2011）「東日本大震災・放送事業者はインターネットをどう活用したか」『放送研究と調査』第 61 巻 6 号，10-17.

山下暁美（2012）「災害時の「やさしい日本語」再考」『東呉大學日本語文學系創系 40 周年紀念 2012 年日語教學國際會議大会手冊』，1-13.

ロドリグ=マイヤール・横山滋（2005）「在住外国人に災害情報はどう伝わったか―中越地震被災外国人アンケートから」『放送研究と調査』第 55 巻 9 号，26-34.

Yasushi MIYAZAKI (2007) Yasashii Nihongo (Easy Japanese) on Community Media：Focusing on Radio Broadcasting, Kwansei Gakuin policy studies review 8, 1-14.

減災のための「やさしい日本語」＜http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm＞（2013 年 12 月 1 日）

災害時語彙の理解度と情報収集方法から考えた外国人住民への日本語支援

ー家庭内での日本語使用を指標としてー

沢野美由紀（立教大学）
5541653@rikkyo.ac.jp

【要約】

本稿では、茨城・千葉県における在日外国人への語彙調査をもとに、家庭内で日本語を使用する環境にあるか否かが災害時語彙の理解度や発災後の情報収集に関わっているか、分析を試みた。その結果、語彙の理解度、情報収集の方法ともに差異が見られた。さまざまな背景を持つ外国人が日本各地に居住している現在、今後起こる可能性がある震災などの災害に備え、日本語使用の環境に応じた適切な支援方法を考える必要があることが示唆された。

【キーワード】家庭内での日本語使用、災害時語彙、情報被災者、緊急情報、事後行動

1．はじめに

2011 年の東日本大震災の際、法務省の統計によると、被災地である青森・岩手・宮城・福島・茨城・栃木・千葉県の災害救助法が適用された市町村に外国人登録をしていた外国人は 111,672 人に上ったという。震災から間もなく 3 年がたとうとしているが、さまざまな分野において東日本大震災を扱った調査研究がなされている。どの分野の研究に関しても、その第一の目的は、今後自然災害が起こった場合、できる限り犠牲者を最小限に抑えるためであると言える。政府は東南海・東海地震が起こった場合の犠牲者数を最大 32 万人と発表しているが、いつどこで起こるかわからない災害に外国人が巻き込まれないために、何ができるのだろうか。

本稿では 2011 年 3 月の東日本大震災時の在住外国人の行動、災害時語彙に関する調査データのうち、日本語使用環境による災害時語彙の理解度、震災時の情報収集の方法を比較、分析した。その結果から、今後の自然災害に備えるための支援方法についての考察を行うものとする。

尚、本研究は平成 24 年度－平成 26 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金　基盤研究 C　課題番号 24520582）『命綱としての日本語－緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究－』（研究代表者　山下暁美）の調査をもとに行ったものである。

2．データについて

本稿では、2013年6月～9月にかけて茨城県、千葉県で在日外国人を対象に行われたインタビュー調査のデータを用いた。調査協力者は69名に上るが、全員が2011年3月11日の東日本大震災を経験している。インタビューは日本語で行われた。

調査では、93の災害時語彙・表現について、日本語で聞いて意味がわかるかどうか、その語彙・表現の重要度、日本語で言い換えた場合どのように表現するか、及び震災時の状況や行動についての回答を得た。93の語彙・表現の内訳は、災害の現象関連の語彙・表現が24、健康関連の語彙・表現が10、事後行動関連の語彙・表現が29、環境関連の語彙・表現が30である。

69名のデータを分析するに当たり、日本語の使用環境が災害時語彙の理解に影響を与える要因の一つではないかと考え、家庭内での日本語使用、不使用を指標とし分類した。データは次の通り、1）家庭内で日本語のみを使用している、2）家庭内で外国語のみを使用している、3）家庭内で日本語及び他の言語を併用している、4）学生（大学生）、の4グループに分類した。その上で生活者としての在日外国人の日本語支援について考えるため、今回は1）～3）に該当する60名を分析の対象とした。

調査協力者の属性と環境（国籍、職業、平均滞日年数、既婚の割合）を表1に示す。表で「日本語のみ」としたのは上記の1）のグループ、「外国語のみ」は2)、「日本語・外国語使用」は3）のグループを表している。

表1　調査協力者の属性と環境

	日本語のみ（30名）	外国語のみ（18名）	日本語・外国語使用（12名）
国籍	中国(8)、韓国(6)、フィリピン(7)、台湾(3)、タイ(2)、マレーシア、モンゴル、インド、チリ、	ベトナム(4)、インド(2)、インドネシア(2)、韓国(2)、中国、台湾、メキシコ、オーストラリア、パキスタン、アイルランド、アメリカ、フィリピン	中国(3)、ペルー、シンガポール、メキシコ、インドネシア、オーストラリア、フィリピン、アメリカ、インド、（不明1）
職業	専業主婦(12)、兼業主婦（14）、会社員(3)、研究員(1)	専業主婦(4)、研修生(3)、公務員(3)、会社員等（7）、伝道師	専業主婦(4)、公務員、会社員等(7)
滞日年数	15年	10.3年	15.8年

(平均)			
既婚の割合	97%	66.7%	91.7%

調査では既婚者に対して配偶者の国籍を聞いていないが、日本語のみのグループ 30 名のうち 18 名（フィリピン 6 名、韓国 4 名、中国 3 名、台湾 2 名、タイ 2 名、マレーシア 1 名）が日本の名字を名乗っている。12 名（中国 5 名、韓国 2 名、モンゴル、インド、フィリピン、チリ、台湾各 1 名）は日本の名字を名乗っているわけではないが、家庭内で日本語を用いていることを考えると、既婚ではないと答えた 1 名を除き、配偶者は日本人である可能性が高いと思われる。外国語のみのグループではフィリピン、インドネシア、台湾の 3 名が日本の名字を名乗っているため配偶者は日本人だと推測されるが、家庭内の言語はそれぞれ英語、インド（ヒンディー語を指すのか他の方言なのかは不明）、英語としている。他の 15 名は家庭内でそれぞれの母語を使用しているため、既婚の場合、配偶者は同国人である可能性がある。一人暮らしの既婚者、独身者もこのグループに分類した。日本語・外国語使用のグループでは 12 名中 7 名が日本の名字を持つ。家庭内で用いる日本語以外の言語は、複数回答で英語（シンガポール、メキシコ、インドネシア、オーストラリア、アメリカ、インド）、中国語（中国 3、国籍不明 1）、スペイン語（メキシコ）、モンゴル語（中国）となっている。

職業は 3 分の 2 が何らかの仕事を持っており、会社員という回答が 8 名、公務員が 4 名、企業の研修員と通訳が各 2 名、他は研究員、美容師、介護士、農業、酪農業、自営業手伝い、講師等である。残りの 3 分の 1 は専業主婦であった。

3．結果と分析

3－1．災害時語彙・表現の理解度

調査では、前述の通り 93 の災害時語彙・表現について、日本語で聞いて意味がわかるかどうかを聞いた。ここでは「意味がわかる」を 2、「意味がわからない」を 0 とし、それらを家庭内での日本語使用によってグループ別に集計して、理解度とした。表 2 は理解度が平均 1.0 以下になった語彙・表現である。各語彙・表現の後に（ ）を付けたが、（現）は現象関連の語彙・表現であることを示し、以下、（事）は事後行動関連、（環）は環境関連、（健）は健康関連であることを示す。

表 2　理解度が 1.0 以下の語彙・表現

日本語のみ		外国語のみ		日本語・外国語使用	
ライフラインが寸断(現)	0.67	炊き出し(環)	0.44	救援物資(環)	0.33
勧告が出る(事)	0.70	耐震性(環)	0.61	応急処置(事)	0.67
ハザードマップ(事)	0.70	救援物資(環)	0.61	感電(事)	0.75
空路(事)	0.87	出火(現)	0.67	炊き出し(環)	0.75

常備薬(事)	0.90	土砂崩れ(現)	0.67	家屋(現)	0.83
倒壊(現)	0.97	経路(事)	0.67	出火(現)	0.83
耐震性(環)	1.00	常備薬(事)	0.72	経路(事)	0.83
配給(環)	1.00	ライフラインが寸断(現)	0.78	空路(事)	0.83
救援物資(環)	1.00	応急処置(事)	0.78	安否(環)	0.83
		空路(事)	0.78	勧告が出る(事)	0.92
		勧告が出る(事)	0.83	常備薬(事)	0.92
		救助する(事)	0.83	配給(環)	0.92
		防火水槽(環)	0.83	ハザードマップ(事)	1.00
		復旧の見通し(環)	0.83		
		安否(環)	0.89		
		家屋(現)	0.94		
		配給(環)	0.94		
		災害用伝言ダイヤル(環)	0.94		
		領事館(環)	0.94		
		亀裂(環)	1.00		

表 2 を見ると、理解度が平均 1.0 以下の語彙・表現は、日本語のみのグループに 9、外国語のみのグループにはその倍の 20、日本語・外国語使用のグループには 13 あることがわかる。これらを種類別に表したものを表 3 にまとめる。

表 3　理解度 1.0 以下の語彙・表現の種類の割合と数

	日本語のみ	外国語のみ	日本語・外国語使用	計
現象	8.3 %(2)	16.7%(4)	8.3%(2)	(8)
健康	0	0	0	(0)
事後行動	13.8%(4)	20.7%(6)	24.1%(7)	(17)
環境	10%(3)	33.3%(10)	13.3%(4)	(17)
計	9.7%(9)	21.5%(20)	14%(13)	(42)

表 2、表 3 からわかることは、まず、種類別について健康関連の語彙・表現はいずれも 1.0 以下のものはなく理解度が比較的高いと言えること、逆に最も理解度が低いのは事後行動関連、次いで環境関連、現象関連の順になっているということである。

また、グループ別では外国語のみのグループが最も理解度が低く、次いで日本語・外国語

使用、日本語のみの順である。

次に、理解度が高い語彙・表現を表 4 に示す。

表 4　理解度が 2.0 の語彙・表現

日本語のみ使用	外国語のみ使用	日本語・外国語使用
震度 7 強/弱、台風(現)、けがをした、助けて、痛い、病気、熱がある、下痢(健)、毛布(事)、救急車、警察(環)	火事、台風(現)、けがをした、助けて、痛い、病気、熱がある、元気が出ない、医者(健)、携帯ラジオ(事)、救急車、無料(環)	台風、燃える(現)、ヘルメット、住宅(事)、救急車、無料、ホットライン、警察、大使館、危険(環)

表 4 は理解度が 2.0、すなわち回答者全員が「聞いて理解できる」と答えたものである。日本語のみ使用が 10、外国語のみが 12、日本語と外国語ともに使用が 10 ずつで、数に大きい差はない。種類別に見ると、日本語のみ、外国語のみのグループは健康関連語彙・表現が半分以上を占めている。

次に、93 の語彙・表現全てについての理解度の平均を表 5 に示す。

表 5　種類別の語彙の理解度

	現象関連	健康関連	事後行動関連	環境関連
日本語のみ	1.54	1.96	1.46	1.49
外国語のみ	1.49	1.94	1.37	1.37
日本語・外国語使用	1.49	1.80	1.46	1.48
全体平均(学生を含む)	1.56	1.93	1.48	1.50

表 2～5 から言えることとして、健康関連の語彙はおおむね理解されていること、全体平均を見ても事後行動関連の語彙・表現の理解度が低いこと、日本語使用の点からは、家庭で外国語のみ使用しているグループは理解度が他より低いということである。

３－２．　災害時語彙に関する分析

災害時に被災者がどのような情報を求めるのか、総務省の平成 24 年情報通信白書では、首都圏の住民が東日本大震災当日に知りたかった情報として、①「家族や知人の安否」(73.2%)、②「地震・津波の規模や発生場所」(57.6%)、「余震や津波の今後の見通し」(40.2%)、「道路・鉄道の開通／運行状況」(40.0%) を挙げている。

ロング・姜（1996）は、情報を、災害が起きた直後の「緊急情報」と、災害が起きてからの数日後に必要な「生活情報」とに分類した。そして、「緊急情報」は命がかかっている大事な情報であるが、1995 年 1 月の阪神淡路大震災の際にマスコミが流した情報は、緊急情報としては災害弱者である外国人への配慮が乏しかったと主張している。

また、佐藤（1996）は、外国人を「情報弱者」と位置付け、災害時に提供すべき必要最小限の情報は、「日本人が最も初めに求めた直後情報や火事の行方といった緊急性の高い情報」と、「より詳しい情報が得られる時間と場所へのアクセスのための源となる情報」だと述べている。「直後情報」とは、例えば地震の規模や発生場所、余震、津波についての情報である。そして、それらを考えることで、外国人を「情報被災者」という立場から解放できると述べている。

これらの主張と今回の調査をあわせて考えると、今回の調査での現象関連、事後行動関連の語彙・表現が上記の「緊急情報」「直後情報」に重なると言えるが、表 2、3 でも表 5 でも特に事後行動関連の語彙・表現の理解度が低く、この点を今後の日本語支援のポイントとして考えることができる。

国立国語研究所が 2008 年に在日外国人を対象に行った「生活のための日本語」に関する全国調査では、在日外国人のニーズが高い言語行動として、「災害・事故時に他の人に助けを求める」、「テレビやラジオから災害情報を得る」がそれぞれ 105 項目中の 3 位と 5 位に来ているが、「それが現在日本語でできるか」については、「できない」とした回答者が 42.2% と 40.5%になっている。外国人の 4 割が災害時の日本語での言語行動について不安に感じているのである。命を守るための言語行動に関して知っておきたいという外国人の声に、支援者として答える義務があるのではないだろうか。

4．情報収集の方法について

次に、在日外国人が東日本大震災の際にどのように情報を収集したのかという側面から支援の方法について考える。

今回の調査では、震災時にどこで何をしていたかという質問をはじめ、当時置かれた状況や行動についても調査協力者に尋ねた。本稿ではそれらのうち、情報収集に関する項目について分析する。

前述の通り、災害が起こった場合、情報収集がうまくできなければ、「情報被災者」と言うべき立場となり、それは時に生命の危機にもつながる。では、実際にどのくらいの割合の在日外国人が震災時に情報収集ができなかったと感じているのだろうか。

調査では、震災時に最も困ったことと、日本人にしてほしかったことについて回答を得た。最も困ったことについては、水、食糧、電話等通信の不具合についてなどさまざまな問題が複数回答で挙げられており、情報がなかったため困ったという回答はいずれも 10%台だった。しかし、日本人にしてほしかったことについて聞くと、情報がほしかったという回答は以下

の通りになった。

表 6　A 震災時困ったこと、B 日本人にしてほしかったことに「情報」を挙げた割合

	日本語のみ	外国語のみ	日本語・外国語使用
A 情報がなくて困った	10.0%	11.1%	16.7%
B 情報がほしかった	26.7%	33.3%	25.0%

A に比べ、B で情報に言及した回答の割合が上がったことについては、震災時に困ったことに挙げられていた水や食料の不足に関して、それらをどうすれば手に入れられるかという情報がほしかったからだというようにも読み取れる。グループ別では外国語のみを使用するグループが他よりも情報不足だと感じた割合が高い。

それでは在日外国人は震災時にどのように情報を得たのか、その情報源と、彼らが震災後に行った情報交換について述べる。

表 7　地震の際の主な情報源（複数回答）

	日本語のみ	外国語のみ	日本語・外国語使用
人	26.7%	38.9%	25.0%
TV/ラジオ	70.0%	33.3%	50.0%
携帯/パソコン	13.3%	33.3%	41.7%

表 8　震災後の情報交換の方法とその際の日本語使用の割合

	日本語のみ	外国語のみ	日本語・外国語使用
直接会って話した	40.0%	55.6%	16.7%
間接的に話した	56.7%	44.4%	58.3%
日本語使用の割合	23.3%	22.2%	25.0%

表 7 からは、震災後にどのような手段で情報を得ようとしたか、グループ別の差異が見られる。特筆すべきは、日本語のみを使用するグループの 7 割、次いで日本語・外国語とも使用するグループの 5 割がテレビ、ラジオを主な情報源にしていることである。外国語のみを使用するグループではその割合は下がり、3 人に 1 人に過ぎない。逆にこのグループでは、人を情報源にした割合が 10 ポイント以上高くなっている。これは、表 8 の震災後の情報交換の方法で、外国語のみのグループだけが「人に直接会って話した（情報を交換した）」割合が「（電話やメール等で）間接的に話した（情報を交換した）」より高くなっていることに通じるものがあると思われる。これはどのような意味を持つのだろうか。

加賀美（1997）は、1995 年の阪神大震災後の外国人学生の情報収集について、初級者は

日本語ができないゆえに積極的に情報収集活動をしていたこと、日本語に自信がついてきた中・上級者は、日本人にも母国の友人にも依存せず、自分から情報に直接接近する傾向があったと報告している。しかし、実際には上級者は救援・支援機関を知らず、利用する頻度も少なかったこと、母国の人との接触や母語による正確な情報を欲していたこと、また、初級者よりも上級者のほうが重要な情報を見逃がしたり、外から入ってくる情報が少なくなってしまう可能性を指摘している。

今回の調査は、前述の通り日本語で行ったため、日本語で答えられることを条件に協力をお願いしたが、それぞれの日本語の発話能力のレベルはばらばらであった。しかし、表2や表5を見ると、3つのグループの日本語力は、外国語のみ→日本語・外国語使用→日本語のみ使用の順で高くなっていると言える。このデータを加賀美（1997）の主張に重ねて考えると、表7、表8のように、外国語のみのグループは人を介して直接、つまり確実に情報を得ようとし、日本語のみのグループは自分自身で対処すべく、テレビやラジオを通じて情報を収集しようとしたと言えるのではないだろうか。

ちなみに、日本語のみのグループは日本人とのネットワークを持つ場合が多い。家族以外に頼りになる人について聞いた結果を表9に示す。

表9　家族以外で頼りになる人

	日本語のみ	外国語のみ	日本語・外国語使用
日本人	70.0%	55.6%	83.3%
外国人	20.0%	44.4%	8.3%
いない	10.0%		8.3%

表9の通り、日本語のみのグループは、震災後の主な情報収集の手段がテレビ・ラジオであったが、頼りになる人として日本人の存在を挙げた割合は、日本語・外国語ともに使用するグループには及ばないが、7割に達する。具体的には、外国語のみのグループは頼りになる人としての日本人と外国人の差が10ポイント強であり、母語でのネットワークの方が日本語を用いるネットワークより強いことが示唆されている。この数字を見ると、日本語のみのグループは日本人の友人、知人を介して情報収集・交換をすることも十分可能である。しかし、やはりこれも加賀美（1996）の調査結果と同様に、家庭での日本語使用が日本語力を高めることに結びついており、それが震災の際にもまず自分で情報を収集するという行為につながったとも言える。

5．まとめ

以上、千葉県、茨城県における調査結果をみてきたが、調査でいろいろな自治体を訪れ、インタビューを行うごとに、在日外国人と言っても来日目的も国籍も多様化しているため、支援の方法も変えていかなければならないということを実感した。

本稿では、家庭内での日本語使用を指標に分析を試みたが、家庭内で日本語を使用しないグループの場合、テレビやラジオから得る情報ではなく、人から直接情報を得ようとする傾向にあった。この点を考えると、もし今後大規模な自然災害が起こった場合、情報を得やすくするために地域住民とのネットワーク作りや、自治体に直接アクセスし、情報を得られるよう方法を考えておく必要がある。村岡他（2013）は、東日本大震災後の千葉県浦安市での調査において、市は外国人向けの情報を提供しているが、外国人が自ら避難所、窓口、ホームページなどの提供先にアクセスして情報を収集したという報告は限られていたと述べている。そもそも自治体が情報を提供するシステムを持つことが外国人に認識されていなかったとの記述があるが、これについては筆者も日ごろ留学生と接していて、彼らが自治体などの情報を知らないことに驚かされている。外国人のために自治体がさまざまなサービスを行っているということを、在日外国人が認識できるようする必要があるのではないか。山下（2013）は、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島県での調査を通して、地域コミュニティーが外国人をメンバーとして受け入れ、今後の町づくりや災害対策問題を考える際、日本人、外国人がともに考える必要性を指摘しているが、災害時の情報伝達システムについて、一方向の情報の伝達方法を考えるのではなく、在日外国人の意見を取り入れたシステムの構築を考えるべきである。

また、家庭内で日本語を使用するグループに関しては、配偶者が日本人でわからない日本語について質問できるとしても、日中は互いに別の場所にいることが考えられ、災害が起こった場合には連絡がつかなくなることもあるだろう。2012 年に行った岩手県大船渡市での調査（平成 22 年度－平成 26 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金　基盤研究 C　課題番号 24520582）『命綱としての日本語－緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究－』（研究代表者　山下暁美）のための調査）では、日本人の夫と震災後丸 2 日間連絡がつかなかったという話を聞いた。テレビでの情報収集ならば、字幕を見て文字で認識することができる。ロング・姜（1996）は「文字でなら「家屋」くらいはわかるであろう。しかし、それが音声として耳に入ったときにわかりにくくなる」と述べているが、災害と同時に停電が起こった場合は、携帯ラジオや防災無線で避難指示などを聞くことになるかもしれない。また、同じく 2012 年の調査では、日本人の配偶者として被災地で暮らす在日外国人女性から、夫の両親の用いる方言が聞き取りにくく、しばしば意味がわからないという話も聞いたが、このグループでは災害時の日本語に方言の問題も取り入れて検討されるべきかもしれない。これについては山下（2012）も在日外国人の日本語支援として方言の問題も考える必要があると述べている通りである。

災害が起こった場合、少なくとも事後行動関連の語彙・表現、つまりロング・姜（1996）

が言うところの「緊急情報」に関する日本語については、聞いてわかるようにしておく必要がある。災害時は誰しもパニックになり、普段よりも聞き取ることができなくなっている可能性も高く、そもそも知らない言葉を聞くことはできない。筆者は 2012 年、岩手県陸前高田市の調査において、「高台に避難」と言われたのを「(陸前) 高田に避難」ととらえた韓国出身の住民が、低地である陸前高田の中心部に向かおうとしたという事例を聞いた。それに気づいた人が、「高田じゃない，高台だ」と必死に言い聞かせ，何とか危機を逃れたという。市役所を含め市の中心部が津波に襲われ，甚大な被害が出た陸前高田市において、「たかた」と「たかだい」の聞き間違いによって危うく命を失いかけたというこの例を思い出すたびに、背筋が寒くなる思いである。このようなことが起こらないためにも、「緊急情報」に当たる日本語の選定と、また本稿では触れなかったが、それらを「やさしい日本語」で言い換えた表現の確立は急務である。

本稿では生活者としての在日外国人を分析の対象としたため、学生のデータには触れなかった。今後、滞在期間が限られる学生のケースと、今回行った生活者としての在日外国人のケースを比較し、対象者別の支援の方法を考える一助としたい。

参考文献

1. 総務省平成 24 年版情報通信白書のポイント
＜http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc131220.html＞

2. ダニエル・ロング・姜錫祐（1996）「外国人における緊急時報道の理解について」『月刊言語』5 月号，大修館，98-104

3. 佐藤和之（1996）「外国人のための災害時のことば」『月刊言語』2 月号，大修館，94-101

4. 国立国語研究所日本語教育研究・情報センター（2010）「「生活のための日本語：全国調査」の集計結果および分析　Ⅰ.外国人調査」『「生活のための日本語」に関する基盤的研究－段階的発達の支援をめざして－＜中間報告書＞』，5-23

5. 加賀美常美代（1997）「阪神大震災被災外国人学生の日本語能力から見た情報収集と救援・支援活動に対する評価」『日本語と日本語教育』25 号　慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター，149-162.

6. 村岡英裕・高民定・今千春・ミラー成三（2013）「外国人住民は被災情報をどのように受容したか－浦安市の事例にみるリテラシー・ネットワークの意義－」『社会言語科学』第 16 巻 1 号 社会言語科学会，39-48

7. 山下暁美（2013）「災害時の日本語－東北 3 県における在日外国人調査結果をもとに－」『東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（岩手県）』291-307

8. 山下暁美（2012）「災害時の「やさしい日本語」再考」『東呉大學日本語文學系創系四十週年紀念「2012 年日語教學國際會議」大會手冊』東呉大學日本語文學系，1-13

（科研報告会発表要旨）

公共機関の言語使用実態と考察　－東京23区を中心に－

明海大学大学院応用言語学研究科博士前期課程２年
張　海燕

はじめに

グローバル化にともない文化交流、経済行動が全世界で活発になってきた。日本でも世界各地からきた外国人がますます増えてきている。そのため、いろいろな社会の変化が必要だが、公共機関の多言語表示は非常に重要になる。

2011年3月11日に東日本大震災が起きたとき外国人が震災や、生活の情報などをどのように得たかという問題もある。

１．研究目的

本研究の目的は、外国人の多い東京23区の各区役所と交通機関の言語表示の実態を明らかにし、問題点を明らかにする。そうすることにより、首都圏への旅行者や居住者の言語環境が良くなり、快適に過ごすことができると考える。現在政府が推し進めている観光立国という政策に寄与できるものと考える。

２．研究方法

①東京23区の各区役所

調査方法：面接法とメールでのやり取り

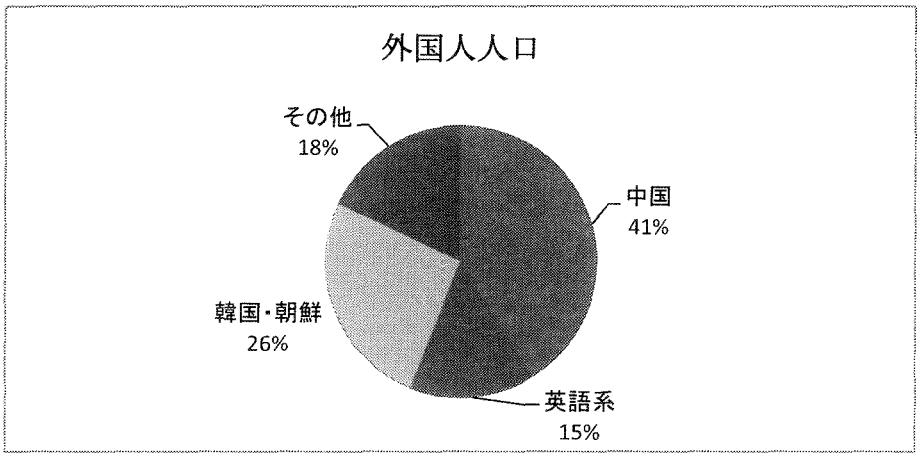
調査時期：平成25年6月～8月

②交通機関（東京駅、新宿駅、池袋駅、渋谷駅、上野駅）

調査方法：現地へ行って写真を撮り、言語表示の実態を分析する

調査時期：平成25年1月～2月

３．東京都における外国人住民の国籍別人口比率



4．公共機関の定義

1．本稿で扱う地域は東京 23 区である。ここでいう東京 23 区は地方自治法で定められた東京 23 区およびその出先機関、区立と名のつく全ての機関を指す。

2．公立の施設としては市立、町立、村立、公立と名のつく全ての機関であるが、ここでは公共機関を区役所と駅構内に絞った。

3．ほかにも公共機関に含まれる国会、裁判所、消防・警察組織、公的医療機関などがあるが、これらの機関の調査については今回行わず、次回の機会にする。

5．先行研究

言語景観の先駆的な研究は正井（1969）では、新宿の看板を調査した。言語、文字、業務を分析した。当時、新宿はローマ字が多く使われているという国際風景が見られた。

染谷（2002）では、小田急線沿線を中心に調査した。日本語表記で使われる漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベットの中で、漢字の勢力が大きいことを明らかにした。

ペート・バックハウス（2009）では行政的背景における言語景観を調べた。東京を中心に、都庁及び 23 区で使われている言語に関して言語政策を紹介した。

山下（2010）は、外国人集住都市の言語景観について調査し、外国人人口が地域全体の 5%を超えると景観表記に影響を与えると述べている。

6．調査結果（1）在日外国人の増減の状況

区役所	外国人人口変化	区役所	外国人人口変化
墨田区	増	葛飾区	減
新宿区	増	杉並区	減
台東区	増	足立区	変化なし
板橋区	増	荒川区	変化なし
大田区	増	中央区	変化なし
中野区	増	世田谷区	変化なし
品川区	減	千代田区	変化なし
港区	減	渋谷区	変化なし
江東区	減	文京区	変化なし
豊島区	減	練馬区	変化なし
目黒区	減		
北区	減		
江戸川区	減		

７．調査結果（２）多言語化への取り組みの有無

区役所	多言語化への取り組み	区役所	多言語化への取り組み
墨田区	ある	葛飾区	ある
新宿区	ある	杉並区	ある
足立区	ある	千代田区	ある
中央区	ある	渋谷区	ある
板橋区	ある	江戸川区	ある
大田区	ある	台東区	なし
中野区	ある	北区	なし
品川区	ある	荒川区	なし
港区	ある	文京区	なし
江東区	ある	練馬区	なし
豊島区	ある	世田谷区	なし
目黒区	ある		

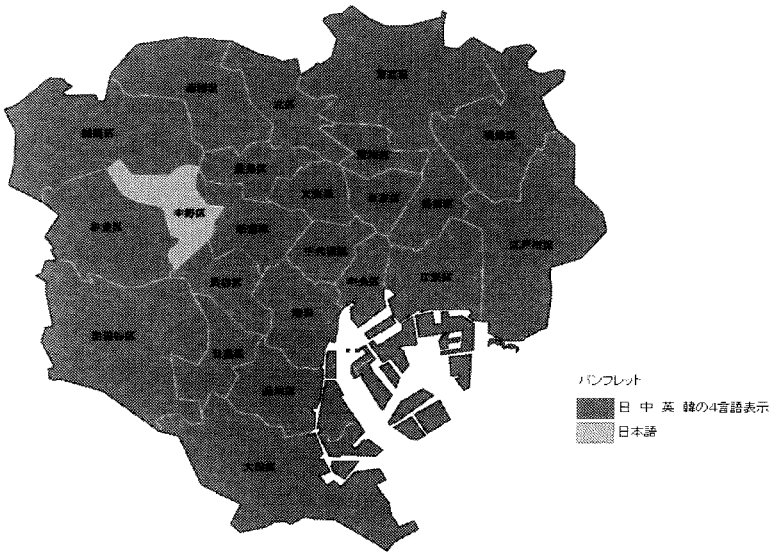
８．調査結果（３）多言語表示についての予算の増減

区役所	予算	区役所	予算
墨田区	増	葛飾区	変化なし
大田区	増	杉並区	変化なし
港区	増	千代田区	変化なし
江東区	増	渋谷区	変化なし
豊島区	増	江戸川区	変化なし
練馬区	増	台東区	変化なし
中野区	変化なし	北区	変化なし
品川区	変化なし	荒川区	変化なし
足立区	変化なし	文京区	変化なし
中央区	変化なし	新宿区	変化なし
板橋区	変化なし	世田谷区	変化なし
目黒区	変化なし		

９．調査結果（４）区役所の多言語使用の状況（パンフレット）

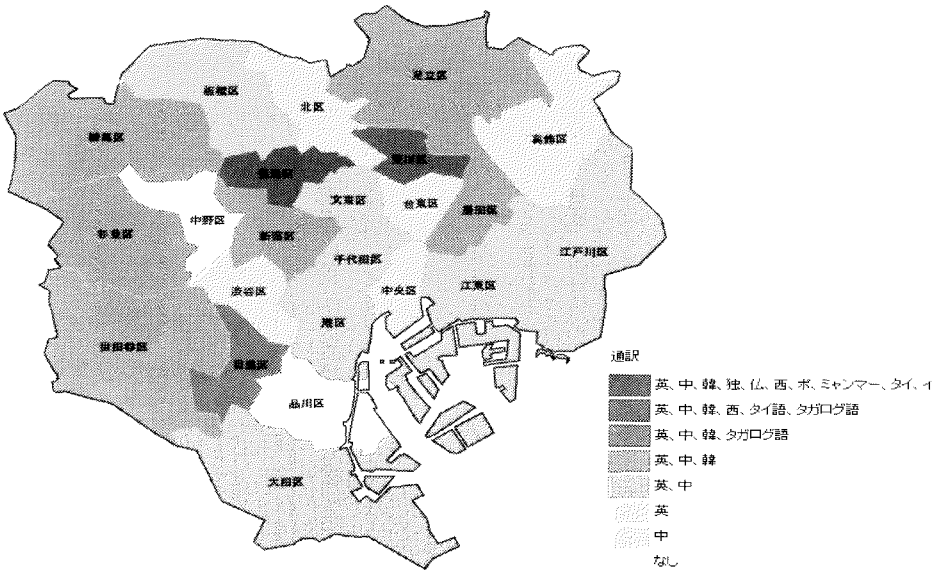
区役所	言語数	言語名	区役所	言語数	言語名
港区	4	日英中韓	目黒区	4	日英中韓

中央区	4	日英中韓	品川区	4	日英中韓
墨田区	4	日英中韓	板橋区	4	日英中韓
新宿区	4	日英中韓	練馬区	4	日英中韓
台東区	4	日英中韓	大田区	4	日英中韓
世田谷区	4	日英中韓	北区	4	日英中韓
千代田区	4	日英中韓	江戸川区	4	日英中韓
渋谷区	4	日英中韓	葛飾区	4	日英中韓
文京区	4	日英中韓	杉並区	4	日英中韓



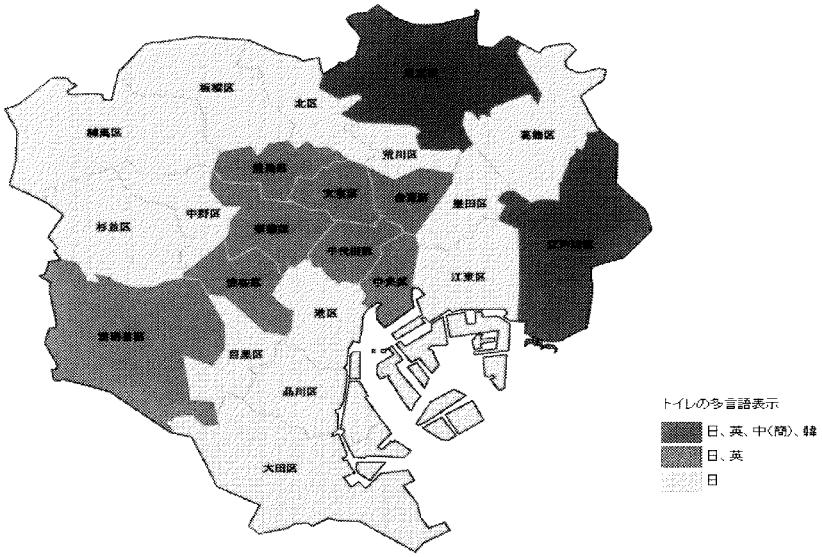
10. 調査結果（5）区役所の多言語使用の状況（通訳）

区役所	言語数	言語名	区役所	言語数	言語名
豊島区	10	英、中、韓、独、仏、西、ポ、ミャンマー、タイ、イタリア	千代田区	2	英、中
荒川区	6	英、中、韓、西、タイ語、タガログ語	文京区	2	英、中
目黒区	4	英、中、韓、タガログ語	江東区	2	英、中
墨田区	3	英、中、韓	板橋区	2	英、中
新宿区	3	英、中、韓	大田区	2	英、中
世田谷区	3	英、中、韓	中央区	1	英
練馬区	3	英、中、韓	台東区	1	英
杉並区	3	英、中、韓	渋谷区	1	英
足立区	3	英、中、韓	北区	1	中
港区	2	英、中			



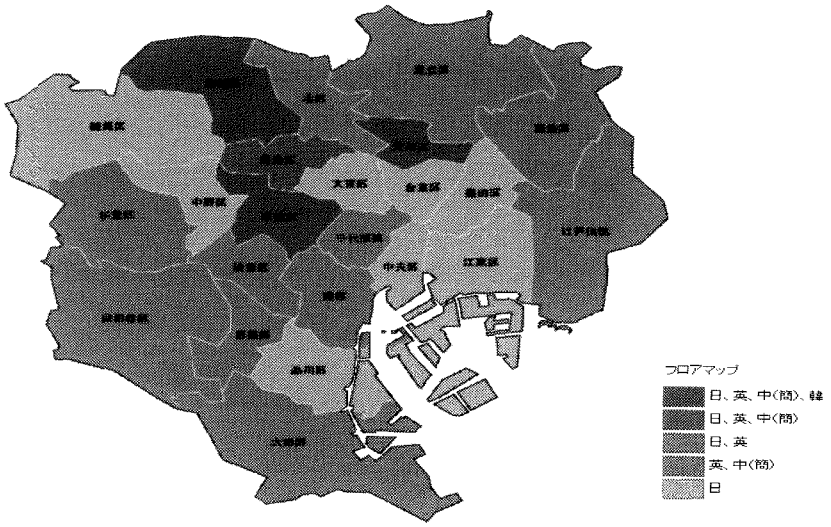
11. 調査結果（6）区役所の多言語使用の状況（トイレ）

区役所	言語数	言語名	区役所	言語数	言語名
江戸川区	4	日、英、中（簡）、韓	江東区	1	日
足立区	4	日、英、中（簡）、韓	目黒区	1	日
中央区	2	日、英	品川区	1	日
新宿区	2	日、英	板橋区	1	日
台東区	2	日、英	練馬区	1	日
世田谷区	2	日、英	大田区	1	日
千代田区	2	日、英	北区	1	日
渋谷区	2	日、英	杉並区	1	日
文京区	2	日、英	中野区	1	日
豊島区	2	日、英	荒川区	1	日
港区	1	日	葛飾区	1	日
墨田区	1	日			



12. 調査結果（7）区役所の多言語の状況（フロアマップ）

新宿区	4	日、英、中（簡）、韓	葛飾区	2	日、英
板橋区	4	日、英、中（簡）、韓	杉並区	2	日、英
荒川区	4	日、英、中（簡）、韓	北区	2	英、中（簡）
豊島区	3	日、英、中（簡）	中央区	1	日
港区	2	日、英	墨田区	1	日
足立区	2	日、英	台東区	1	日
世田谷区	2	日、英	文京区	1	日
千代田区	2	日、英	江東区	1	日
渋谷区	2	日、英	品川区	1	日
目黒区	2	日、英	中野区	1	日
大田区	2	日、英	練馬区	1	日
江戸川区	2	日、英			



13. 調査結果（９）交通機関の多言語使用の状況

駅名＼項目	路線表示（新幹線）	路線表示（在来線）	路線表示（地下鉄）	改札口の案内表示	切符売り場	注意書き	トイレ	禁煙マーク
東京	日英中韓	日英	日英	日英中韓	日英	日	日英	日英中韓（ト）日英（構内）
新宿	なし	日英	日英	日英中韓	日英	日	日英中韓	日英中韓
上野	なし	日英	日英	日英中韓	日英	日	日英中韓	日英中韓（構内）日英（ト）
渋谷	なし	日英	日英	日英中韓	日英	日	日英中韓日英（内）	日英中韓
池袋	なし	日英	日英	日英	日英	日	日英	日英

14. 考察１　外国人の人口と関連

日本人地区と外国人地区の住み分けと多言語表示（考察１）

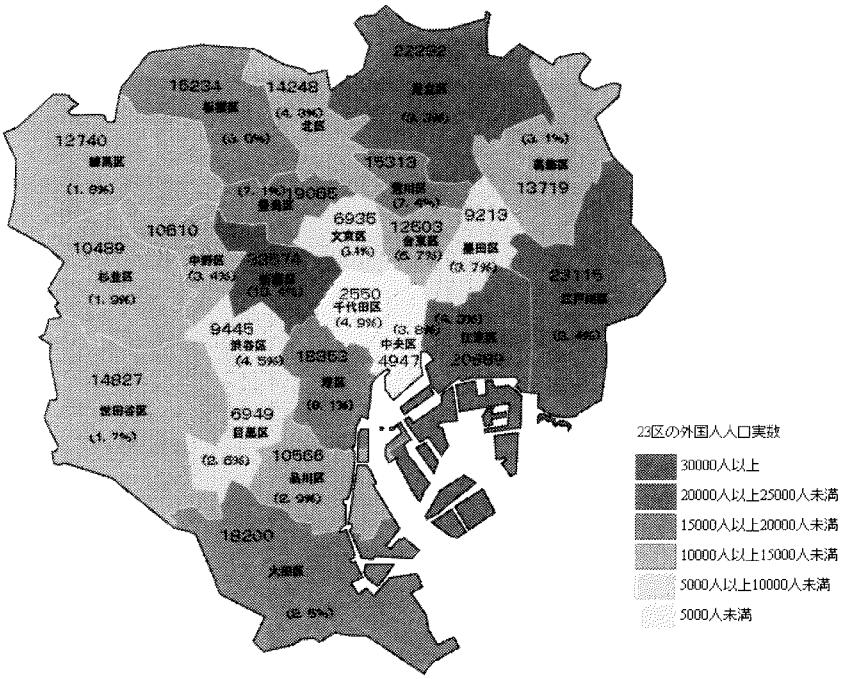
１．外国人人口の多いのは、山の手線外側の東側を中心とした区である。以前、下町と呼ばれた区とその延長線上に発展した地域にある。比率もほぼ同様である。

２．西側は、山の手と呼ばれた地域とその延長線上の地域で日本人の住宅地が広がっている。

３．多言語化の予算増をはじめ、区役所のホームページ、フロアマップ、交通機関、トイレ、通訳において、外国人の人口および比率と多言語表示は関連があると考えられる。

順位	区域	人口総数	日本人数	外国人数（比率）
1	新宿区	321,172	287,598	33,574(10.4%)

2	江戸川区	675,325	652,210	23,115(3.4%)
3	足立区	669,143	646,861	22,282(3.3%)
4	江東区	480,271	459,382	20,889(4.3%)
5	豊島区	268,959	249,894	19,065(7.1%)
6	港区	231,538	212,685	18,853(8.1%)
7	大田区	696,734	678,534	18,200(2.6%)
8	板橋区	537,375	521,141	16,234(3.0%)
9	荒川区	206,457	191,144	15,313(7.4%)
10	世田谷区	860,749	845,922	14,827(1.7%)



15. 考察２　区のスローガンとの関連

１．文化と歴史を中心にしている区のほうがむしろ多言語対応は進んでいた。観光客を対象にしていると考えられる。

２．大田区や港区においては「国際都市」を謳っているだけに、区としての対応が特に望まれる。

３．住民が住みやすい、道路などの環境づくりを重視している区は多言語対応が遅れているように思われる。

16. 考察３　公共機関の数との関連

１．公共機関の数が多い区は多言語表示が比較的進んでいるという傾向は見えるが、完全に公共機関の数の多い順かというとそうではない。

２．中野区の多言語化は遅れているが、その原因は中野区にある公共機関の数が少ないというこ

とも一因と考えられる。つまり、観光客なども訪れる機会が少ないし、国際化が遅れている。ただし、中野区には、観光ルートに含まれていない寺院などがあり、観光開発を避けている可能性も考えられる。

17. 考察４　観光・レジャー施設の数との関連

1．観光・レジャー施設の数との関連において、外国人観光客が訪れることによって多言語表示も影響を受け、増えると考えられる。

2．観光地が多いと多言語表示が比較的進んでいるという傾向が見える。しかし、住民を対象としているとは言えない。

3．観光客が少なければ多言語表示の必要性が低下する。

番号	23区	観光・レジャー	番号	23区	観光・レジャー
1	港区	493	13	品川区	41
2	千代田区	396	14	大田区	38
3	中央区	326	15	目黒区	35
4	台東区	206	16	板橋区	29
5	墨田区	132	17	練馬区	28
6	文京区	124	18	世田谷区	26
7	渋谷区	115	19	北区	26
8	新宿区	112	20	葛飾区	23
9	江東区	91	21	杉並区	14
10	足立区	89	22	江戸川区	13
11	荒川区	52	23	中野区	9
12	豊島区	51			

18. 考察５「ぐるっとバス都内７７ケ所」の観光地との関連

1．「ぐるっとバス都内７７ケ所」の観光地には美術館、博物館、動物園、水族館、植物園が含まれる。観光・レジャー施設とぐるっとバスで機関数は、港区、千代田区が最も多い。観光地としての多言語化が進んでいる。

2．外国人が来れば多言語表示の需要は高まる。

3．中野区が多言語化が遅れている。その原因の一つは地域に外国人観光客が訪れる施設がないことが考えられる。

番号	23区	数		番号	23区	数
1	台東区	11		10	練馬区	2
2	港区	8		11	北区	2

3	千代田区	7	12	江戸川区	2
4	江東区	7	13	墨田区	1
5	新宿区	5	14	文京区	1
6	渋谷区	5	15	豊島区	1
7	中央区	4	16	足立区	1
8	目黒区	3		合計	63
9	世田谷区	3			

19. 考察６　各駅の利用者数と商業の関連

１．駅構内の多言語表示は各駅の乗降客数との関連性は見られなかった。

２．各駅の周辺にある大規模店舗へどのぐらい外国人が行くか明らかではない。そのため、各駅の周辺にある大規模店舗数と外国人の数との関連性は見られなかった。

順位	駅名	定期外	定期	合計
1	新宿	346,974	395,859	742,833
2	池袋	229,005	321,700	550,756
3	渋谷	194,407	217,602	412,009
4	東京	189,621	212,655	402,277
5	上野	96,155	87,455	183,611

順位	駅名	大規模店舗数
1	新宿	14
2	渋谷	10
3	池袋	6
4	東京	6
5	上野	1

20. 結論

項目	関連あり	多少関連あり	関連なし
スローガン		○	
外国人人口の割合	◎		
公共機関の数		○	
観光客の数	◎		
駅の乗降客数と商店数			○

参考文献

井上史雄（2000）『日本語の値段』（大修館）

―（2001）『日本語は生き残れるか――経済言語学の視点から』PHP 新書

―2009（b）「経済言語学からみた言語景観―過去と現在」『日本の言語景観』三元社、pp53－78

河原俊昭（2004）『自治体の言語サービス・多言語社会への扉をひらく』

金順任（2011）「日本語と韓国語の言語景観における禁止表現」『明海日本語』16、pp. 53－62

金美善（2009）「言語景観における移民言語のあらわれかたーコリアンコミュニティの言語変容を事例に」『日本の言語景観』三元社、pp187－205

江源（2011）「言語景観に関する計量的研究」『明海日本語』16、pp71－80

―（2008）「言語景観から見る日本の多言語化状況」明海大学大学院　応用言語学研究科修士学位論文

―（2009）「言語景観の成因に関する社会言語学的考察―東京と上海の比較研究を通じて」2009 年上海外国語大学日本学研究国際フォーラム

―（2009a）「言語景観研究の現状について」『明海日本語　第 14 号』明海大学日本語学会

国土交通省（2010）東京運転局　多言語案内表示ガイドライン － 国土交通省 http://wwwtb.mlit.go.jp/tohoku/ks/annaihyoji/annai7.pdf

佐渡島紗織・小林良子・斎藤真美（2009）「地下鉄案内板にみるローマ字表現―東京における 1999 年の実態」『日本の言語景観』三元社、pp123－144

庄司博史（2009）「多言語化と言語景観―言語景観からなにがみえるか」『日本の言語景観』三元社、pp17－45

染谷裕子（2009）「言語景観の中の看板表記とその地域差―大田急線の実態調査報告」『日本の言語景観』三元社、pp95－122

田中ゆかり・秋山智美・上倉牧子（2007）「ネット上の”言語景観”――東京圏のデパート・自治体・観光サイトから」『言語』74―83

田中ゆかり・秋山智美・上倉牧子・須藤央（2007. 9）「東京圏の言語的多様性―東京圏デパート言語景観調査から」『社会言語科学』　5－17

ベット・バックハウス（2009）「日本の言語景観の行政的背景―東京を事例として」『日本の言語景観』三元社、pp145－170

本間勇介（2010）「エスニック地域における言語景観」明海大学大学院　応用言語学研究科修士学位論文

本間勇介（2011）「コリアンタウンの多文字化・多言語化状況」『明海日本語』16、pp63－69

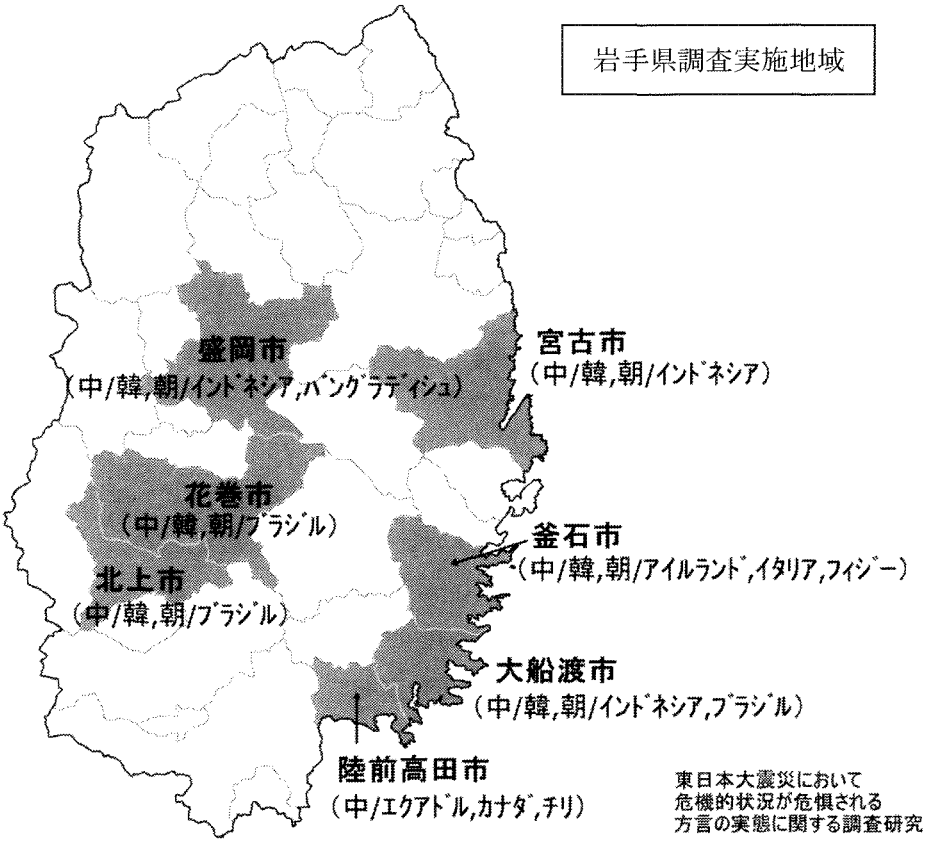
山下暁美（2010）「外国人集在都市の言語景観―言語表示サービスの現状―」『明海大学外国語学部論集』第 22 集、pp17－34

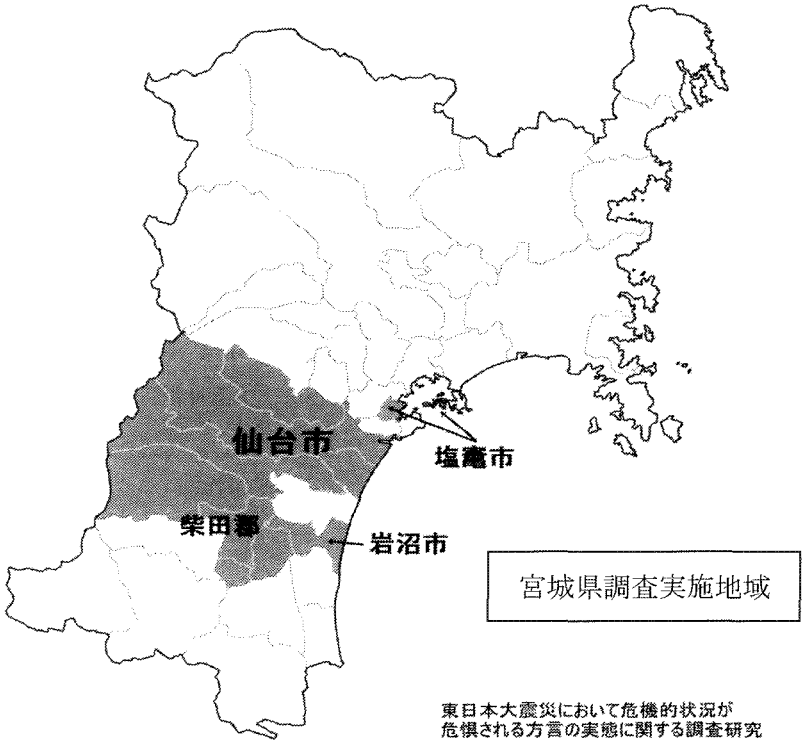
山城完治（2009）「視覚障害にとっての言語景観―東京山手線の点字調査から」『日本の言語景観』三元社、pp171－186

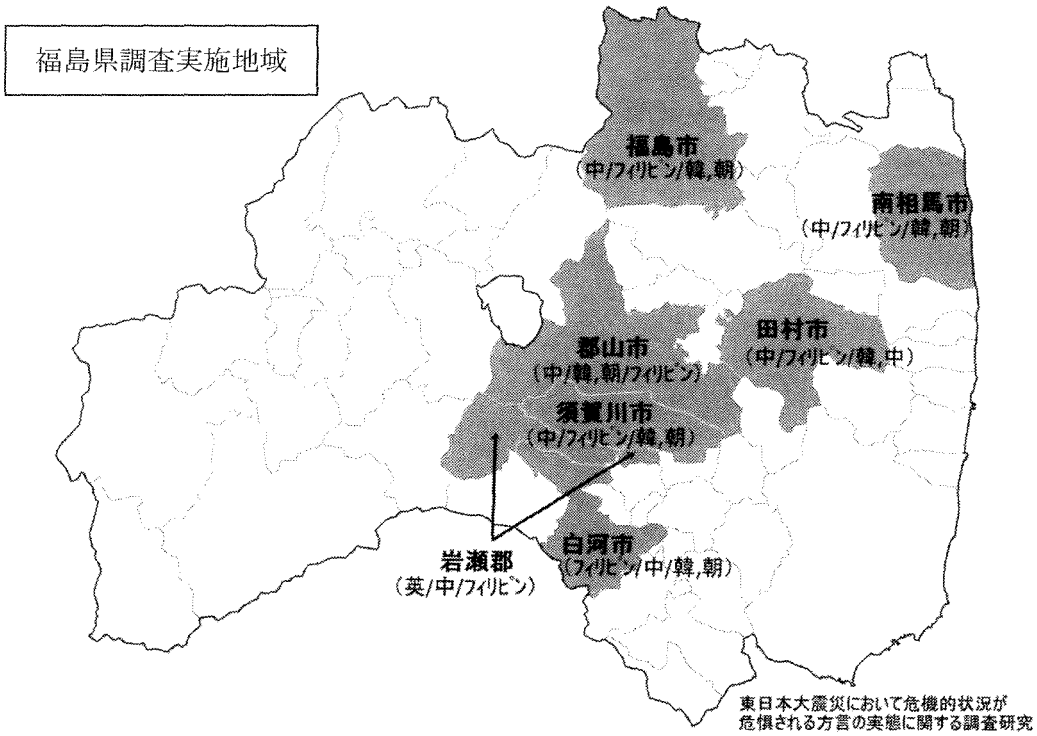
米麗英・岸江信介（2012）「2010 年上海における言語景観について」　『言語文化研究』165―181

ロング・ダニエル(2010)「奄美ことばの言語景観」『東アジア内海の環境と文化』桂書房　pp174－200

2012年度 調査実施地域　※在日外国人数上位３か国を記入・宮城県はデータがない







『平成 25 年度　災害時命綱カード』の岩手（盛岡）方言訳付・宮城方言訳付
福島方言訳付を作成した。方言訳は以下の方々の協力を得た。
深く感謝申し上げます。
なお、東北３県のカードは、調査でお世話になった方々や希望者に送付している。

岩手（盛岡）方言訳付	方言訳協力：竹田晃子氏	（国立国語研究所特任助教）
宮城方言訳付	方言訳協力：武田拓氏	（仙台高等専門学校准教授）
福島方言訳付	方言訳協力：小林初夫氏	（宮城教育大学非常勤講師、福島市立岡山小学校教諭）

（※東北３県のカードの印刷費は平成 25 年度文化庁委託事業（岩手県）の助成を受けた）

協力機関一覧　※団体名のみ記します。

※個人のインフォーマントの方には紙面を借りて深く感謝を申し上げます。

2013年度（千葉県・茨城県）（50音順）

潮来市役所総務課
市川市国際交流協会
市原市役所企画部人権・国際課国際交流協会日本語教室
浦安市国際センター
大洗町役場まちづくり推進課
小美玉市日本語ボランティアグループ
小美玉市役所地域振興課
柏市国際交流協会
神栖市国際交流協会
鴨川市役所市民交流課
君津市教育委員会教育部生涯学習課
公益財団法人茨城県国際交流協会
山武市役所総務部企画政策課企画係
匝瑳市役所企画課企画調整班
高萩市役所まちづくり観光課
館山市国際交流協会
千葉科学大学国際交流室
千葉県国際交流センター
千葉県立東葛飾高等学校
千葉市国際交流協会
銚子市役所政策企画部秘書政策課
東海村国際センター事務局
那珂市役所市民生活部市民協働課
流山市国際交流協会
成田市国際交流協会
成田市役所経済部商工課消費生活センター
日立市国際交流ボランティアネットワークさくら
日立市生活環境部市民活動課
富津市役所教育部生涯学習課
富津市教育委員会
鉾田市役所企画課国際交流協会

松戸市市民環境本部企画管理課国際交流担当室
茂原 IVC

2012 年度（岩手県・宮城県・福島県）（50 音順）
いわて NPO-NET サポート
いわて県民情報交流センター
岩手県立大学宮古短期大学部
岩手大学文学部
岩沼市さわやか市政推進課内岩沼市民交流協会事務局
おでんせプラザぐろーぶ 3 階
カリタス大船渡ベース「池ノ森いこいの家」
北上市北上市議会事務局
北上市役所企画部政策企画課
公益財団法人岩手県国際交流協会
公益財団法人福島国際交流協会
公益財団法人宮城県国際化協会
塩竈市教育委員会
仙台イングリッシュセンター
仙台高等専門学校総合科学系
仙台ランゲージスクール
多賀城市役所総務部地域コミュニティ課市民活動推進係
田村市役所企画課企画調整係
東北大学大学院文学研究科国語学研究室
日本語講座いわぬまアイビー
花巻市役所政策推進部国際交流室
花巻市立花巻北中学校
ビッグパレットふくしま
福島大学人文社会学群人間発達文化学類
富士大学国際交流センター
南相馬市立上真野小学校

平成 24 年度－平成 26 年度科学研究費助成事業
（科学研究費補助金　基盤研究 C　課題番号 24520582）
『命綱としての日本語－緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究－』
（研究代表者　山下暁美）
Japanese as a Lifeline　－Social Linguistic Comprehensive Studies of Communication During Emergency－（Representative: Akemi Yamashita）

『命綱としての日本語－緊急時コミュニケーションの社会言語学的総合研究－』

研究代表者連絡先　山下暁美　e-mail：auroralinda@nifty.com
勤務先　〒279-8550　千葉県浦安市明海 1 丁目
明海大学外国語学部　Tel 047-355-5120 Fax 047-350-5504
印刷所　株式会社エスエヌリレーションズ
発行　平成 25（2013）年 12 月